

埼玉県立大学 研究・地域活動シーズ

2024-2025

保健医療福祉学部

- 共通教育科
- 看護学科
- 理学療法学科
- 作業療法学科
- 社会福祉子ども学科
- 健康開発学科

大学院

- 保健医療福祉学研究科

目次

ページ	内容/研究テーマ	学科/専攻	役職	研究者
I	大学案内 ●基本理念 ●学部/大学院教育組織			
II	●産官学連携・地域連携支援機関 ●産官学連携の3つの仕組み			
IV	●2022-2023年度実績 共同研究・受託研究・特定講座			
VII	●2022-2023年度実績 地域活動（委員会・審議会等の実績）			
XI	●施設紹介 運動学実習室 / ヒューマンケア実習室			
1	日本人英語学習者の特徴の研究	共通教育科	教授	飯島 博之
2	学校保健と学校福祉の連携・協働	共通教育科	教授	上原 美子
3	プライマリ・ケア診療における症状分析	共通教育科	教授	竹島 太郎
4	人はなぜ“ハマる”のか	共通教育科	教授	田中 健一
5	あなたの知らない“お薬”の世界	共通教育科	教授	田中 健一
6	ストレス社会を生きる知恵	共通教育科	教授	田中 健一
7	医学講話（特に臨床神経学、老年医学）	共通教育科	教授	滑川 道人
8	特別支援教育を支える学校・保育コンサルテーション	共通教育科	教授	森 正樹
9	巡りが生み出す地域と文化	共通教育科	准教授	浅川 泰宏
10	生活習慣病予防のための天然物およびその代謝物の探索	共通教育科	准教授	浦丸 直人
11	小惑星から探る太陽系の進化	共通教育科	准教授	小松 睦美
12	ラッセル的一元論の研究	共通教育科	准教授	高村 夏輝
13	人体の構造を立体的に学ぶ教材の研究	共通教育科	准教授	高柳 雅朗
14	シェイクスピア劇の研究	共通教育科	准教授	檀浦 麻衣
15	スポーツ活動時の負荷管理を通じたトレーニングとコンディショニングの実践	共通教育科	准教授	八十島 崇
16	PHRを用いたロコモ・フレイル予防～PHR(Personal Health Record)：日常生活の運動から予防する	共通教育科	准教授	山田 恵子
17	地域におけるヘルスプロモーション活動～ヘルスリテラシーと健康教育～	看護学科	教授	石崎 順子
18	壁から飛び出したトイレ手すりの開発	看護学科	教授	國澤 尚子
19	セクシャル・リプロダクティブヘルス/ライツと健康支援	看護学科	教授	齋藤 恵子
20	看護師の教育力向上に向けた教育研修	看護学科	教授	鈴木 玲子
21	乳幼児の成長発達と子育て支援	看護学科	教授	関 美雪
22	看護チーム連携とインクルーシブケア促進の研究	看護学科	教授	善生 まり子
23	市民と保健医療者が共に考える People-Centered Care（PCC:市民中心のケア）の取り組み	看護学科	教授	高橋 恵子
24	病いとともに生きるための意思決定支援	看護学科	教授	常盤 文枝
25	地域で活躍する看護職の研究とケアラー支援の研修	看護学科	教授	林 裕栄

目次

ページ	内容/研究テーマ	学科/専攻	役職	研究者
26	精神科訪問看護による虐待予防 精神障害者と家族の生活を支援します	看護学科	教授	森田 牧子
27	「病院と地域を横断して働く新人看護師の教育プログラム」の導入と評価	看護学科	教授	渡邊 千登世
28	ガイドラインに基づく褥瘡ケアの実践を目指した情報テクノロジーの活用～チームコンパスによる褥瘡管理～	看護学科	教授	渡邊 千登世
29	健康と生活習慣・予防・臨床判断力	看護学科	准教授	會田 みゆき
30	寝たきり患者が車椅子シーティングを活用するための看護援助方法	看護学科	准教授	青森 広美
31	周産期・小児医療における子ども・家族中心のケアの実践および協働意思決定に関する研究	看護学科	准教授	浅井 宏美
32	セクシュアル・マイノリティのメンタルヘルス	看護学科	准教授	江口 のぞみ
33	婦人科がん体験者のための支援モデルの開発	看護学科	准教授	大場 良子
34	小児期発症の慢性疾患患者への成人移行支援	看護学科	准教授	櫻井 育穂
35	地域在住高齢者の通いの場を活用したフレイル予防対策	看護学科	准教授	柴田 亜希
36	ハンドケア（触れるケア）の活用	看護学科	准教授	渋谷 えり子
37	新たな看護技術教育方法の検討	看護学科	准教授	新村 洋未
38	訪問看護ステーション新採用者育成のための支援	看護学科	准教授	武田 美津代
39	高齢者虐待の予兆を察知し虐待に至らしめない外来看護支援モデルの開発	看護学科	准教授	辻 玲子
40	小児がん患児をもつ親のレジリエンス向上のためのケアモデルの開発	看護学科	准教授	辻本 健
41	保健師の育成と健康行動について	看護学科	准教授	服部 真理子
42	要介護高齢者の入院治療時および治療後の回復支援	看護学科	准教授	丸山 優
43	慢性の病いとともに生活する人のセルフケア支援	看護学科	准教授	山岸 直子
44	身体活動・シミュレーション教育	看護学科	准教授	山本 英子
45	メンタルヘルスと精神科医療の課題	看護学科	助教	小川 千恵子
46	ナルコレプシー患者の支援	看護学科	助教	金 さやか
47	中絶ケア・シミュレーション教育	看護学科	助教	斎藤 未希
48	発達障がい児と親の支援・発達障がい児の看護	看護学科	助教	瀧田 浩平
49	外国人住民支援・シミュレーション教育	看護学科	助教	千葉 真希子
50	高齢者の生活の見通しをもった食支援向上のためのNSTリンクナース育成に関する研究	看護学科	助教	宮部 明美
51	慢性疾患をもつ子どものセルフケア能力獲得支援	看護学科	助教	望月 浩江
52	心のケアを担う支援者の在り方についての研究	看護学科	助教	山田 牧子
53	専門職連携教育（IPE）の評価研究	看護学科	助教	吉村 基宜
54	Fascia（ファシア）に関連する研究・開発	理学療法学科	教授	今北 英高
55	呼吸・循環・代謝系障害への介入効果に関連する研究開発	理学療法学科	教授	今北 英高

目次

ページ	内容/研究テーマ	学科/専攻	役職	研究者
56	理学療法を対象とした疾患に対する運動の効果検証	理学療法学科	教授	金村 尚彦
57	健康づくり・地域づくりシステムの開発	理学療法学科	教授	田口 孝行
58	フレイル予防・地域リハビリ・多職種連携	理学療法学科	教授	田口 孝行
59	運動身体の微調整を読み取る	理学療法学科	教授	山崎 弘嗣
60	効果的な健康増進を考えるー健康寿命延伸に対する提案	理学療法学科	准教授	井上 和久
61	膝の痛みを予防するには～軟骨がすり減っても元気な膝を保つために～	理学療法学科	准教授	小栢 進也
62	呼吸循環系・姿勢動作に関する評価・治療・支援機器開発	理学療法学科	准教授	木戸 聡史
63	健康づくりのための行動変容	理学療法学科	准教授	久保田 章仁
64	女性のライフステージにおける健康支援	理学療法学科	准教授	須永 康代
65	アライメント評価による足底挿板療法 義肢装具療法のエビデンスと未来	理学療法学科	助教	清水 新悟
66	足部アーチ機能を備えた足底挿板の開発 義肢装具療法のエビデンスと未来	理学療法学科	助教	清水 新悟
67	地域での自立支援ケアに関する研究	作業療法学科	教授	臼倉 京子
68	高齢者の睡眠と昼間の活動との関係性	作業療法学科	教授	久保田 富夫
69	「生活の質」からケアや支援を捉える社会的ケア関連QOL尺度の活用	作業療法学科	教授	中村 裕美
70	手指運動機能リハビリテーション評価システムの開発	作業療法学科	教授	濱口 豊太
71	脳電位でパワーアシストするロボットリハビリテーション	作業療法学科	教授	濱口 豊太
72	手指の痛みや運動障害を予防するパワーアシストハサミ	作業療法学科	教授	濱口 豊太
73	保健医療福祉分野におけるアントレプレナーシップ教育の開発推進	作業療法学科	准教授	上原 栄一郎
74	作業療法士による保育所・小学校への訪問研修	作業療法学科	准教授	押野 修司
75	身体障害者の病態運動を再現するシミュレーション教育用ロボットを用いたリハビリテーション臨床技能教育プログラムの開発	作業療法学科	准教授	小池 祐士
76	障害者の自立を促進する衣服の開発	作業療法学科	准教授	小池 祐士
77	3Dプリンタを使ったリハビリテーション	作業療法学科	准教授	小池 祐士
78	上肢切断・義手に関連した研究	作業療法学科	准教授	笹尾 久美子
79	社会生活スキルトレーニング（SST）	作業療法学科	准教授	柴田 貴美子
80	人が新たな運動を学習することについて 運動学習、書字、手の動き	作業療法学科	准教授	鈴木 貴子
81	コミュニケーション支援用具・機器の提案・開発	作業療法学科	准教授	南雲 浩隆
82	障害のある学生支援・車いす・作業療法・多職種連携教育	作業療法学科	准教授	松尾 彰久
83	がん患者の前向きな生活適応へ心理支援と運動介入方略の開発	作業療法学科	助教	小泉 浩平
84	子どもの作業療法	作業療法学科	助教	田坂 翔太
85	社会政策・社会保障	社会福祉学専攻	教授	伊藤 善典

目次

ページ	内容/研究テーマ	学科/専攻	役職	研究者
86	社会的養護の子どもと家族への支援	社会福祉学専攻	教授	大塚 斉
87	障害者雇用における事業主支援	社会福祉学専攻	教授	小澤 昭彦
88	障害当事者参加による地域社会づくり	社会福祉学専攻	教授	河村 ちひろ
89	個人のみならず地域・社会のウェルビーイング向上を目指したシニアのための持続可能なデジタル利用支援システムの開発	社会福祉学専攻	准教授	小川 孔美
90	多職種連携のためのファシリテータ方法	社会福祉学専攻	准教授	小川 孔美
91	地域共生社会におけるボランティアの可能性	社会福祉学専攻	准教授	川田 虎男
92	社会福祉とアジール〜犯罪・非行・依存に関するフィードワークからの社会学的考察〜	社会福祉学専攻	准教授	相良 翔
93	多職種実践のPDCAサイクルを促進するF-SOAIPによる好循環〜専門職および職能団体等への支援〜	社会福祉学専攻	准教授	鳶末 憲子
94	重層的支援体制整備事業を見据えた自治体のシステムにF-SOAIP搭載〜ミクロ・メゾ・マクロレベルの横断的課題解決〜	社会福祉学専攻	准教授	鳶末 憲子
95	DX推進に資するF-SOAIP多領域汎用型システムによるプラットフォーム〜リアルワールドデータによるイノベーション〜	社会福祉学専攻	准教授	鳶末 憲子
96	障がいのある方の地域生活支援	社会福祉学専攻	准教授	高島 恭子
97	ボランティア・社会参加に関する研究	社会福祉学専攻	准教授	保科 寧子
98	子どもと保護者の心理・保育リーダーシップ	福祉子ども学専攻	教授	越智 幸一
99	障害のある子どもたちの発達支援	福祉子ども学専攻	教授	林 恵津子
100	音楽でつながる新たな自分、人との関わり方の提案	福祉子ども学専攻	准教授	伊藤 知子
101	近代日本・学びのモノづくし 教育掛図・博物図・標本画の図像研究	福祉子ども学専攻	准教授	牧野 由理
102	かけがえのない子ども時代を支える	福祉子ども学専攻	准教授	森田 満理子
103	地域と協働する保育実践・保育者養成	福祉子ども学専攻	助教	田口 賢太郎
104	がん登録からがん対策への期待	健康行動科学専攻	教授	大木 いずみ
105	社会的成果につながる健康づくりへー研究をどのように実社会に還元するかー	健康行動科学専攻	教授	北畠 義典
106	社会的成果につながる健康づくりへー身体活動を用いた不眠改善プログラムの開発ー	健康行動科学専攻	教授	北畠 義典
107	保健医療福祉に関する調査研究	健康行動科学専攻	教授	延原 弘章
108	エビデンスに基づいた食育の推進	健康行動科学専攻	准教授	内山 真理
109	日本人の死後世界観・犯罪被害遺族と司法	健康行動科学専攻	准教授	白岩 祐子
110	健康経営の推進 健康課題の可視化と健康文化の醸成	健康行動科学専攻	准教授	津野 陽子
111	不明確な診断をめぐる諸問題の解明	健康行動科学専攻	准教授	本間 三恵子
112	睡眠を改善するための介入プロトコルの開発と効果検証	検査技術科学専攻	教授	有竹 清夏
113	白血病幹細胞/前駆細胞のシグナルに関する研究	検査技術科学専攻	教授	井原 寛子
114	市中の黄色ブドウ球菌（MRSA）実態調査	検査技術科学専攻	教授	村井 美代
115	心血管系の組織発生と標本の作製法	検査技術科学専攻	准教授	安藤 克己

目次

ページ	内容/研究テーマ	学科/専攻	役職	研究者
116	AI（Deep learning）による画像分類システムの開発、大腸がん検診の評価、腎尿路系がんスクリーニング検査の開発	検査技術科学専攻	准教授	岡田 茂治
117	埼玉県内の臨床および下水から分離したESBL産生大腸菌の解析	検査技術科学専攻	准教授	岸井 こずゑ
118	セルロースアセート膜電気泳動法と高感度銀染色液を用いた腎障害部位分類法	検査技術科学専攻	准教授	久保田 亮
119	電子顕微鏡を用いた細胞診検査法の開発	検査技術科学専攻	准教授	矢野 哲也
120	豊かな味覚づくりのために	口腔保健科学専攻	教授	植野 正之
121	大学課程における歯科衛生士養成教育	口腔保健科学専攻	教授	吉田 隆
122	歯科衛生教育に特化したタブレット端末アプリケーションの開発と教育効果	口腔保健科学専攻	准教授	新井 恵
123	地域在住の高齢者の健康づくり	口腔保健科学専攻	准教授	佐藤 玲子
124	口腔領域における組織細胞形態解析	口腔保健科学専攻	准教授	柳澤 伸彰
125	ナノ多孔質シリカを応用した薬剤徐放	口腔保健科学専攻	助教	江良 裕子
126	歯科衛生士と専門職連携実践の質に関する新たな評価スケールの開発	口腔保健科学専攻	助教	戸田 花奈子
127	がん患者へのケア、リフレクション	研究開発センター	教授	飯岡 由紀子
128	変形性膝関節症者の運動解析研究	研究開発センター	特任助教	久保田 圭祐
129	リハビリテーション支援ロボットの開発	研究開発センター	特任助教	久保田 圭祐
130	非婚・独居高齢者に関する包括的研究	研究開発センター	特任助教	南 拓磨
131	地域包括ケアの推進／介護人材の確保・定着	地域連携センター	教授	吉田 俊之
132	多職種連携（IPE/IPW）・大学間連携教育 彩の国“連携力”育成プロジェクト（SAIPE）	田口孝行 國澤尚子 鳶末慶子 久保田亮		
XIV	INDEX キーワード検索			
XVIII	INDEX 研究者検索			

大学案内



■ 基本理念

本学は、陶冶、進取、創発を基本理念として、保健医療福祉に関する教育・研究の中核となって地域社会に貢献します

陶冶

誠実で温かい心と主体性を持ち、多様な価値観を尊重する人間性を磨き高める

進取

広く先達に学びつつ、未来を志向する教育・研究に取り組む

創発

多様な連携を通じて、予測を遥かに超える新たな価値を創造する



■ 学部/大学院教育組織

保健医療福祉学部			大学院
● 共通教育科 ● 看護学科 ● 理学療法学科 ● 作業療法学科	● 社会福祉子ども学科 ・ 社会福祉学専攻 ・ 福祉子ども学専攻	● 健康開発学科 ・ 健康行動科学専攻 * ・ 検査技術科学専攻 ・ 口腔保健科学専攻	● 保健医療福祉学研究科 ・ 博士前期課程 ・ 博士後期課程

* 2025年4月より、健康開発学科

健康行動科学専攻は、健康情報学専攻に名称変更になります（予定）

産官学連携、地域連携支援機関

大学の研究成果や研究者が持つ専門的ノウハウ・知識、技術などを地域社会に還元しています。

産業界・行政機関・大学等、地域の皆様のニーズと大学の研究シーズをマッチングさせた研究・活動を、地域連携センター、研究開発センターにて支援しています。

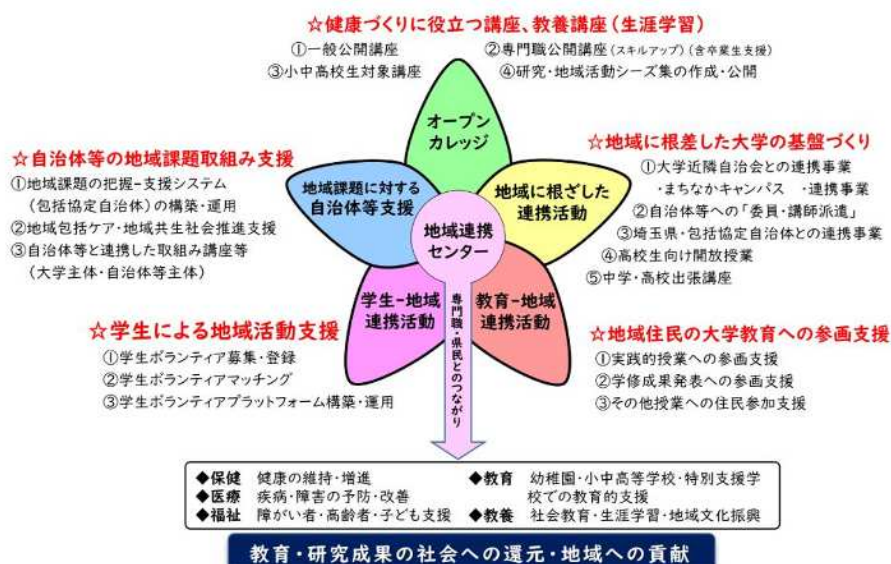
地域連携センター

地域連携センターは、本学と地域の皆様との「連携の窓口」です。

本センターは本学の教育機能と資源を地域社会に開放し、さまざまな世代や立場の人々が学び、成長できる機会を提供しています。

また、地域の課題を理解し、そのニーズに対応することによって、地域社会の発展に貢献しています。

地域連携センターの取り組み事業



研究開発センター

研究開発センターでは、広く先達に学びつつ、未来を志向して保健医療福祉分野の新しい価値を創造します。本学で行われた研究の知見が、連携する人たちの手に伝わって現実に利用され、共生するすべての個人と集団の健康を維持・増進できるように、研究に励んでいます。本センターは、保健医療福祉の課題を解決するため、学際的な観点から埼玉県立大学の研究活動を推進するとともに、企業等と連携しつつ地域に根ざした研究活動を行う際の拠点として機能することを目的としています。

産官学連携の3つの仕組み

1. 共同研究

「大学と一緒に研究したい」

大学と企業・自治体等の研究者が、共同で研究に取り組めます

2. 受託研究

「大学に研究して欲しい」

企業・自治体等から依頼された特定のテーマについて、大学の教員が研究し、その成果を報告します

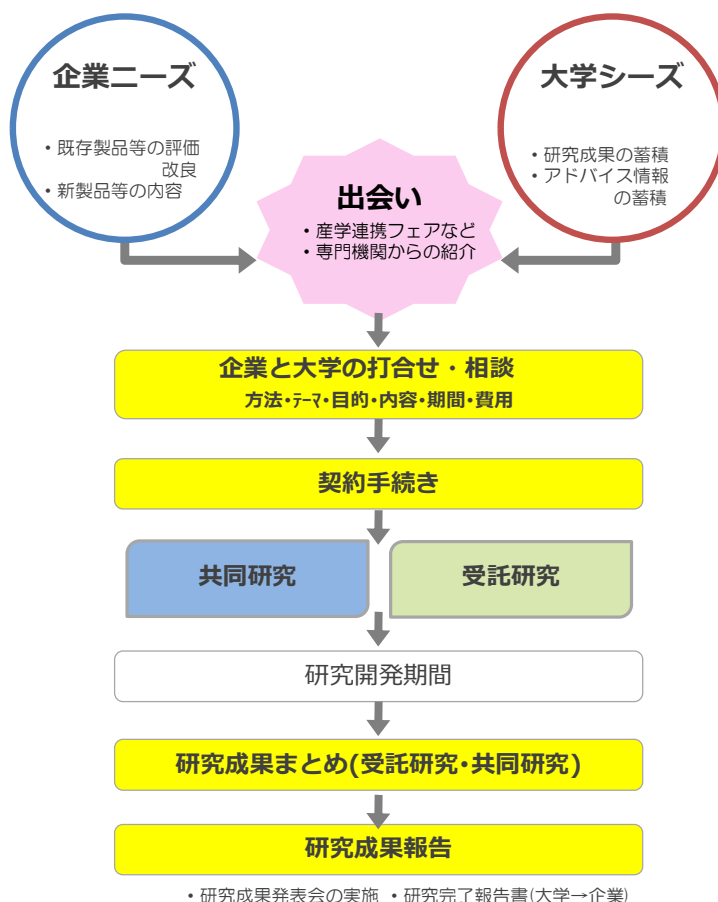
3. 特定講座

「助言して欲しい」

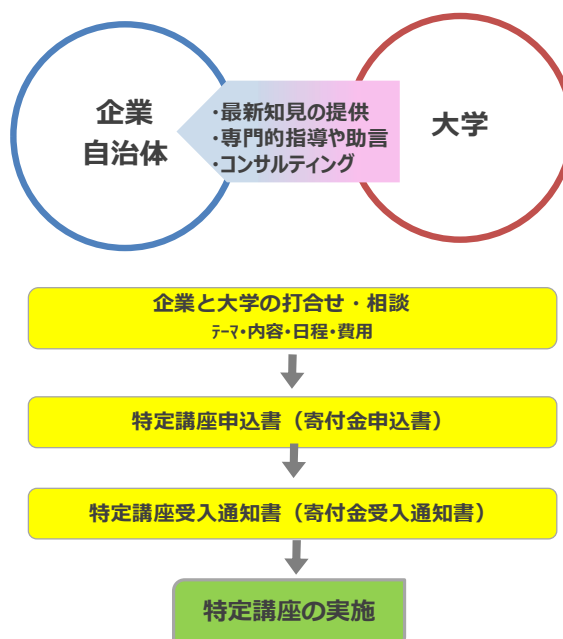
「研修して欲しい」

・企業の商品開発における専門的なアドバイスや社員向け研修などを行います
・自治体の職員向け・市民向け研修・講座などを行います

＜企業と大学の共同研究・受託研究の流れの例＞



＜特定講座の流れの例＞



2022-2023年度実績 共同研究・受託研究・特定講座

【共同研究】

内容	学科/専攻	担当教員	掲載ページ
在宅高齢者・障がい者の排泄を支援する戸建て向けトイレの補助具の研究	看護学科	國澤 尚子	18,132
一般病院の看護業務における人為的過誤を未然に防ぐためのAIロボット応用に関する研究	看護学科	善生 まり子	22
看護チームにおける心理的安全性を高めるためのAIロボット応用に関する研究	看護学科	善生 まり子	22
訪問型サービスCにおける訪問・遠隔併用リハビリの実施方法と有効性に関する研究	理学療法学科	田口 孝行	57,58,132
神経機能理学療法の技術開発研究～脳卒中片麻痺者の動作モニタリング・マーカー分析法開発と事例検討～	理学療法学科	山崎 弘嗣	59
脳卒中片麻痺患者における空気圧人工筋による短下肢装具を用いたリハビリテーション効果に関する研究	理学療法学科	小栢 進也	61
科学的データに基づいた医療従事者用被服の開発	理学療法学科	国分 貴徳	－
CFRPインソールが歩行・走行に及ぼす影響に関する運動学的データの解析	理学療法学科	国分 貴徳	－
不開示	理学療法学科	国分 貴徳	－
足部中間位保持を目的としたインソールが膝関節に与える影響	理学療法学科	村田 健児	－
特許取得インソール素材に対する産業導入支援に関する研究	理学療法学科	村田 健児	－
踵骨ニュートラル誘導型足底挿板の有効性	理学療法学科	清水 新悟	65,66
ベースとなる既製品の足底板、調整可能な足底板、オーダーメイドの足底板の開発	理学療法学科	清水 新悟	65,66
骨盤ベルトによる姿勢制御戦略への波及効果の妊娠中から産後に至るまでの継続的検証	理学療法学科	須永 康代	64
腰痛患者に対する姿勢矯正補助具の効果	作業療法学科	小池 祐士	75,76,77
障害者のための新たな衣服開発	作業療法学科	小池 祐士	75,76,77
自閉スペクトラム症の子どもと保護者に対するタブレット版ロールプレイトの共同研究	作業療法学科	柴田 貴美子	79
健康経営の枠組みによる健康課題の見える化に関する研究	健康行動科学専攻	津野 陽子	110
質の良い眠りを実現するための「睡眠休養感」を得られる寝具の条件とその開発	検査技術科学専攻	有竹 清夏	112
乳児の月例による睡眠とMotor milestonesに関する観察研究	検査技術科学専攻	有竹 清夏	112
液体クロマトグラフィーによるリボ蛋白分析に関する共同研究	検査技術科学専攻	廣渡 祐史	－
Deep learningを用いた舌癌エコー術後頸部リンパ節転移予測システムの開発	検査技術科学専攻	岡田 茂治	116
日常検査で実施されている尿中蛋白定性検査におけるValidation－尿蛋白定量法を基準とした定性検査法の統計学的評価と臨床乖離例の解析－	検査技術科学専攻	岡田 茂治	116
地域包括ケア構築に向けた地域診断・分析	大学院研究科	川越 雅弘	－
抗菌・防カビ剤の生態毒性および遺伝毒性評価に関する共同研究	共通教育科	四ノ宮 美保	－
幼児教育・保育施設の外構部に対する木材利用の効果に関する調査研究	福祉子ども学専攻	田口 賢太郎	103
地域在住高齢者の着衣嗜好の違いによる、歩数・生体情報・主観的心理への効果	理学療法学科	久保田 章仁	63
太陽系の生命起源物質の理解に向けた有機物-鉱物-水の相互作用の検証	共通教育科	小松 睦美	11
個別化された補助装置を製造するための3Dプリンティングパイプラインの開発	作業療法学科	小池 祐士	75,76,77
治療現場へ応用可能な異常筋活動評価システムの開発	研究開発センター	久保田 圭祐	128,129

2022-2023年度実績 共同研究・受託研究・特定講座

【受託研究】

内容	学科/専攻	担当教員	掲載ページ
研究開発推進ネットワーク事業（「医学系研究の成果をわかりやすく発信する手引き」の普及と改善の提案）	共通教育科	山田 恵子	16
日本語Plain Language Summary作成に関する研修の効果測定に関する研究	共通教育科	山田 恵子	16
フレイル予防事業業務委託契約	理学療法学科	田口 孝行	57,58,132
横アーチを補助するサポーター着用による動作中の足圧変化	理学療法学科	小栢 進也	61
車輪付き運動機器を使用した運動の筋活動評価	理学療法学科	小栢 進也	61
受講者向けフォローアップアンケート調査による訪問看護教育ステーション事業の効果検証	理学療法学科	吉田 俊之	131
地域包括ケアシステムの推進に係る市町村等の地域実態把握・課題分析業務	理学療法学科	吉田 俊之	131
認知症対応型AI/IoTシステム研究推進事業	社会福祉学専攻	鳶末 憲子	93,94,95,132
科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）への包括的実践研究開発プログラム（JST-RInCA）	健康行動科学専攻	谷邊 哲史	—
疾患罹患状況等に関する調査等一式	健康行動科学専攻	大木 いずみ	104
AMED医療機器開発推進研究事業：不眠症患者に対する治療（認知行動療法）アプリに関する研究開発にかかるPSGデータ解析と検証	検査技術科学専攻	有竹 清夏	112
AMED障害者対策総合研究開発事業：精神疾患レジストリの構築・統合により新たな診断・治療法を開発するための研究	検査技術科学専攻	有竹 清夏	112
新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業	検査技術科学専攻	岸井 こずゑ	117
不開示	検査技術科学専攻	岡田 茂治	116
筋電図解析を用いたレッグエクササイズ装置『あしたまご』による下肢運動の有効性検証	研究開発センター	久保田 圭祐	128,129
高齢者福祉計画2024・第9期介護保険事業計画策定業務	大学院研究科	川越 雅弘	—
第9期高齢者支援計画策定支援業務委託	大学院研究科	川越 雅弘	—
北本市高齢者福祉計画2024・第9期介護保険事業計画策定業務	大学院研究科	川越 雅弘	—

2022-2023年度実績 共同研究・受託研究・特定講座

【特定講座】

内容	学科/専攻	担当教員	掲載ページ
あなたの知らない“お薬”の世界～有害事象を避けるために～	共通教育科	田中 健一	4,5,6
教職員のメンタルヘルス養護教諭としての対応	共通教育科	上原 美子	2
PHRを用いたロコモ・フレイル予防	共通教育科	山田 恵子	16
ゲートキーパー養成研修	看護学科	森田 牧子 小川 千恵子	26 45
『笑顔はつらつ健康体操教室』の指導（10回開催）	理学療法学科	菊本 東陽	－
ビジネス視察研修の車中セミナー	理学療法学科	田口 孝行	57,58,132
形状記憶合金による外反母趾矯正器具の試作品に関し技術指導	理学療法学科	清水 新悟	65,66
睡眠を改善する介入プログラムの開発と効果の検証	検査技術科学専攻	有竹 清夏	112
2022埼玉未来大学健康長寿プログラム（運動機能・体組成測定結果の評価）	理学療法学科	田口 孝行	57,58,132
2022埼玉未来大学健康セミナー	理学療法学科	田口 孝行	57,58,132
2022埼玉未来大学オンライン講座 2 講座	全学科/専攻	－	－
2022埼玉未来大学前期課程ライフデザイン科 2 0 講座・アクティブコース 1 講座	全学科/専攻	－	－
2022埼玉未来大学後期課程ライフデザイン科 1 9 講座	全学科/専攻	－	－
2023埼玉未来大学に係る運動機能・体組成測定結果の評価（令和4年度分）	理学療法学科	田口 孝行	57,58,132
2023埼玉未来大学（ライフデザイン科 3 0 講座・アクティブコース 1 講座）	全学科/専攻	－	－
2023埼玉未来大学（オンライン講座 1 講座）	社会福祉学専攻	佃 志津子	－

2022-2023年度実績 地域活動（委員会・審議会等の実績）

区分		委員会・審議会内容	担当教員	教員ページ
国 に お け る 地 域 活 動	1	環境省 日本版ナッジ・ネット連絡会議 有識者委員	白岩 祐子	109
	2	厚生労働省 厚生科学審議会がん登録部会 委員	大木 いづみ	104
	3	厚生労働省 医道審議会 専門委員	大木 いづみ	104
	4	文部科学省 科学技術・学術政策研究所 専門調査員	小松 睦美	11
	5	警察庁 犯罪被害類型別調査 企画分析会議 構成員	白岩 祐子	109
	6	内閣官房デジタル行政改革会議事務局 委員（モデレーター）	吉田 俊之	131
	7	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機関 リュウグウ配分試料選定委員 委員	小松 睦美	11
	8	公益社団法人全国国民健康保険診療施設協議会 優秀研究表彰審査委員会 委員	津野 陽子	110
	9	独立行政法人国際協力機構（JICA）技術専門員（助産師）	齋藤 恵子	19
	10	日本クラシック音楽協会 審査員	伊藤 知子	100
埼 玉 県 に お け る 地 域 活 動	1	埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス利用援助事業契約締結審査委員会 委員	河村 ちひろ	88
	2	埼玉県福祉人材センター 運営委員（副委員長）	大塚 斉	86
	3	埼玉県医局機構 地域医療教育センター 委員会研修企画作業部会員	田口 孝行	57,58,132
	4	埼玉県ナースセンター事業運営委員会 委員	鈴木 玲子	20
	5	埼玉県看護職員確保委員会 委員	林 裕栄	25
	6	埼玉県訪問看護推進検討委員会 委員	林 裕栄	25
	7	埼玉県看護協会助産師職能委員会 委員	山本 英子	44
	8	埼玉県医療的ケア児支援センター等あり方検討会議 委員長	河村 ちひろ	88
	9	埼玉県感染症発生動向調査検討委員会 委員	滑川 道人	7
	10	埼玉県国民健康保険団体連合会 保健事業支援・評価委員会 委員	服部 真理子	41
	11	埼玉県国民健康保険運営協議会 会長	伊藤 善典	85
	12	埼玉県障害児就学支援委員会 委員	森 正樹	8
	13	埼玉県立春日部女子高等学校 学校評議員	山本 英子	44
	14	埼玉県立越谷西特別支援学校 学校評議員	森 正樹	8
	15	埼玉県立春日部特別支援学校 学校評議員	森 正樹	8
	16	埼玉県立杉戸高等学校 学校評議員	上原 美子	2
	17	埼玉県立越谷南高等学校 学校評議員	飯島 博之	1
	18	埼玉県立常盤高等学校 学校評議員	上原 美子	2
	19	埼玉県学校におけるメンタルケア支援事業検討会議メンバー	上原 美子	2
	20	埼玉県ケア支援に関する有識者会議 委員	林 裕栄	25
	21	埼玉県児童虐待重大事例検証委員会 委員	関 美雪	21
	22	埼玉県教育委員会総合教育センター 委員	上原 美子	2
	23	埼玉県総合医局機構委員会 委員	滑川 道人	7
	24	埼玉県救急医療機関審査会 委員	小川 千恵子	45
	25	埼玉県労働局安定部 埼玉県地域職業能力開発促進協議会 委員	田口 孝行	57,58,132
	26	埼玉県医療審議会 委員	臼倉 京子	67
	27	埼玉県福祉人材センター 運営委員（副委員長）	大塚 斉	86
	28	埼玉県危機管理防災部 埼玉県防災会議 委員	保科 寧子	97
	29	埼玉県地域福祉推進委員会作業部会 会長	保科 寧子	97
	30	埼玉県社会福祉法人認可等及び介護老人保健施設等審査委員会 委員	保科 寧子	97

2022-2023年度実績 地域活動（委員会・審議会等の実績）

区分		委員会・審議会内容	担当教員	教員ページ
埼玉県における地域活動	31	埼玉県シニアバト長寿社会福祉基金 運営部会 会長	保科 寧子	97
	32	健康長寿埼玉プロジェクト外評価委員会 委員	大木 いずみ	104
	33	埼玉県健康長寿計画推進検討会議 委員	大木 いずみ	104
	34	埼玉県がん登録審議会 委員	大木 いずみ	104
	35	埼玉県衛生研究所 埼玉県健康指標検討会 委員	大木 いずみ	104
	36	埼玉県歯科口腔保健推進委員会 副委員長	植野 正之	120
	37	全国健康保険協会埼玉支部 健康づくり推進協議会 委員	大木 いずみ	104
	38	埼玉産業保健総合支援センター 産業保健相談員	吉田 俊之	131
	39	埼玉商業保健総合支援センター 産業保健相談員	小栢 進也	61
	40	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 研究評価委員	小澤 昭彦	87
越谷市における地域活動	1	越谷市地域包括ケア推進協議会 会長	田口 孝行	57,58,132
	2	越谷市医師会事務局医療と介護連携の会世話人委員	小川 孔美	89,90
	3	越谷市介護給付費等の支給に関する審議委員会 委員	中村 裕美	69
	4	越谷市介護給付費等の支給に関する審議委員会 合議体 副委員長	久保田 章仁	63
	5	越谷市介護保険運営協議会 副会長	久保田 章仁	63
	6	越谷市社会福祉審議会 地域福祉専門分科会 委員	高島 恭子	96
	7	越谷市男女共同参画推進委員会 会長	山本 英子	44
	8	越谷市教育委員会 発達支援訪問事業指導員	林 恵津子	99
	9	越谷市教育委員会 発達支援訪問事業指導員	森 正樹	8
	10	越谷市福祉部福祉推進課 福祉保健ワーカースーパー	大塚 斉	86
	11	越谷市保健衛生審議会 委員	八十島 崇	15
	12	越谷市保健衛生審議会 委員	石崎 順子	17
	13	越谷科学技術体験センター運営委員会 副委員長	井原 寛子	113
	14	越谷科学技術体験センター運営委員会 副委員長	小松 睦美	11
	15	越谷市こころの健康図画コンクール 審査員	牧野 由理	101
	16	越谷市スポーツ審議会 委員	八十島 崇	15
	17	越谷市青少年問題協議会 会長	上原 美子	2
	18	越谷市生涯学習審議会 委員（副会長）	北畠 義典	105,106
	19	越谷市開発審査会 委員	林 裕栄	25
	20	越谷市建築審査会 委員	常盤 文枝	24
	21	越谷市社会福祉審議会 児童福祉専門分科会 委員（分科会長）	越智 幸一	98
	22	越谷市まちの整備に関する審議会 委員	関 美雪	21
	23	越谷しらこばと基金運営委員会（委員長）	高橋 恵子	23
	24	獨協大学地域と子どもリカバリーセンター教育カウンセラー	林 恵津子	99

■ 2022-2023年度実績 地域活動（委員会・審議会等の実績）

区分	委員会・審議会内容	担当教員	教員ページ
県内市町村における地域活動	1 上尾市健康づくり推進協議会 委員	柴田 亜希	35
	2 第二次桶川市健康づくり推進計画及び第二次桶川市食育推進計画策定委員（副会長）	北畠 義典	105,106
	3 春日部市いじめ問題対策調査委員会 副委員長	上原 美子	2
	4 春日部市健康づくり推進審議会 委員（会長）	北畠 義典	105,106
	5 春日部市高齢者保健福祉計画等推進審議会 委員（会長）	北畠 義典	105,106
	6 春日部市障害者計画等審議会 委員（会長）	河村 ちひろ	88
	7 春日部市障害者計画等審議会 委員（会長）	小澤 昭彦	87
	8 春日部市地域包括支援センター運営等協議会 会長	保科 寧子	97
	9 春日部市地域福祉計画審議会 委員長	小川 孔美	89,90
	10 春日部市都市再生協議会 委員	保科 寧子	97
	11 春日部市防災会議 委員	會田 みゆき	29
	12 川口市介護保険認定審査会 委員	関 美雪	21
	13 川口市地域保健審議会委員 委員	関 美雪	21
	14 北本市子ども・子育て会議 委員（委員長）	森田 満理子	102
	15 北本市子どもの権利委員会 委員（委員長）	森田 満理子	102
	16 北本市地域福祉推進委員会 委員	高島 恭子	96
	17 北本市第七期障害福祉計画及び第三期障害児福祉計画策定委員会 委員長	高島 恭子	96
	18 久喜市健康増進・食育推進会議 委員（会長）	石崎 順子	17
	19 久喜市地域医療推進協議会 委員	石崎 順子	17
	20 鴻巣市立教育支援センター 通級指導教室スーパーバイザー（鴻巣市教育委員会）	森 正樹	8
	21 さいたま市国民健康保険特定健康診査等実施計画推進検討会 委員	石崎 順子	17
	22 さいたま市開発審査委員会 委員	関 美雪	21
	23 さいたま市健康づくり・食育推進協議会 委員	服部 真理子	41
	24 さいたま市歯科口腔保健審議会 委員	滑川 道人	7
	25 さいたま市精神保健福祉審議会 委員	江口 のぞみ	32
	26 さいたま市社会福祉事業団 評議員	丸山 優	42
	27 狭山市立教育センター 専門家巡回支援事業指導者（狭山市教育委員会）	森 正樹	8
	28 志木市子ども・健康部保育課 志木市ひまわり保育巡回指導員	森 正樹	8
	29 草加市スポーツ推進審議会 委員	八十島 崇	15
	30 草加市男女共同参画審議会 委員（副会長）	善生 まり子	22
	31 草加市男女共同参画専門委員 委員	須永 康代	64
	32 草加市高年者福祉センター選考委員会（委員長）	善生 まり子	22
	33 草加市健康づくり審議会 委員	浅井 宏美	31
	34 草加市地域福祉連絡協議会 副会長	保科 寧子	97
	35 草加市振興計画審議会 委員	延原 弘章	107
	36 戸田市保健対策推進協議会 委員（会長）	北畠 義典	105,106
	37 蓮田市地域包括ケア推進代表者会議 顧問	小川 孔美	89,90
	38 ふじみ野市精神保健福祉連絡会 委員	柴田 貴美子	79
	39 三郷市障がい者計画・障がい福祉計画等懇話会 委員（委員長）	森田 満理子	102

■ 2022-2023年度実績 地域活動（委員会・審議会等の実績）

区分		委員会・審議会内容	担当教員	教員ページ
県内市町村における地域活動	40	三郷市母子保健計画進捗管理アドバイザー	関 美雪	21
	41	三芳町教育委員会 特別支援教育アドバイザー	森 正樹	8
	42	八潮市地域包括支援センター運営協議会 委員	小川 孔美	89,90
	43	吉川市自殺対策計画策定委員会 委員 副委員長	森田 牧子	26
	44	吉川市健康増進計画策定委員会 委員	柴田 亜希	35
	45	吉川市児童福祉審議会 委員（委員長）	田口 賢太郎	103
	46	吉川市保育の質向上検討チーム委員（座長）	田口 賢太郎	103
	47	吉川市老人福祉センター指定管理者選考委員会 委員長	田口 孝行	57,58,132
	48	吉川市介護福祉推進協議会 会長	保科 寧子	97
	49	蕨市介護保健運営協議会 会長	濱口 豊太	70,71,72
	50	蕨市高齢者福祉計画等策定懇談会 会長	濱口 豊太	70,71,72
	51	宮代町健康マイレージ事業アドバイザー	関 美雪	21
他都府県における地域活動	52	宮代町健康マイレージ事業アドバイザー	石崎 順子	17
	1	新宿区自立支援協議会 委員（副会長）	河村 ちひろ	88
	2	八王子市障害支援区分認定審査会 委員	上原 栄一郎	73
	3	品川区旗の台障害児者相談支援センター 高次脳機能障害専任相談員	鈴木 貴子	80
	4	特別支援教育アドバイザー（港区教育委員会事務局学校教育部教育指導課）	林 恵津子	99
	5	調布市健康づくり始める会 運営委員	佐藤 玲子	123
	6	豊島区区民ひろば課WHO認証プロジェクトセーフティアドバイザー	中村 裕美	69
	7	東京都第三者評価委員会 委員	森田 牧子	26
	8	東京都国民健康保険団体連合会 保健事業支援・評価委員会 委員	津野 陽子	110
	9	東京都中央区社会福祉協議会 中央区ささえあいづくり協議会（会長）	高橋 恵子	23
	10	宮城県国民健康保険団体連合会 保健事業支援・評価委員会 委員	津野 陽子	110
	11	福島県ヤングケアラー専門家会議 委員	上原 美子	2
	12	とちぎソーシャルサービス従事者協議会 企画委員	鳶末 憲子	93,94,95,132
	13	栃木県がん対策推進協議会がん登録部会	大木 いずみ	104
	14	栃木県脳卒中発症登録運営委員会 委員	大木 いずみ	104
	15	都留市セーフティ外傷サービス委員会 委員	北畠 義典	105,106
	16	愛知県国民健康保険団体連合会 保健事業支援・評価委員会 委員	津野 陽子	110
	17	非行少年たちの社会的自立支援のための運動（BlueCross Movement）実行委員	相良 翔	92
	18	医療経済研究機構政策推進部国際長寿センター 研究委員	吉田 俊之	131

施設紹介

■運動学実習室 （運動・動作解析環境を完備）

計22台の赤外線カメラと前方・側方から2台の動画カメラを用いて、超音波装置、床反力計やワイヤレス表面筋電図計と完全同期した状態で、ヒトの姿勢や動作を撮影し、三次元的に様々な姿勢や動作のメカニズムを解明を試みるような実験計測が可能となっています。運動学実習室の設備・計測機器については国内トップクラスかつ世界でも有数の環境を整えており、様々な要望へ対応可能となっています。



三次元動作解析装置
Vicon Vantageカメラ



三次元動作解析装置
Vicon MXカメラ



三次元動作解析装置
Vicon Bonitaカメラ



三次元動作解析装置
Vicon DV（動画）カメラ



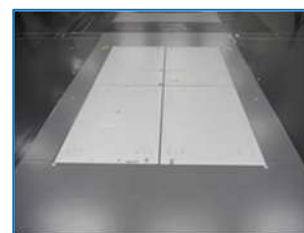
超音波（エコー）装置



ワイヤレス筋電
システム DELSYS



床反力計内蔵
ダブルベルトトレッドミル



KISTLER社製
フォースプレート

施設紹介

■ヒューマンケア実習室（日常生活活動の評価分析・動作支援検討のできる環境を完備）

日常生活活動実習コーナー、宿泊体験コーナー、フリースペース等に分かれています。日常生活活動実習コーナーでは、人の生活に欠かせない日常生活活動の評価分析や、支援方法が実習できます。ベッドから車いす、トイレ、浴室への移乗・移動をサポートするリフトや、手すりの位置や床の高さなどを変更できる浴室装置、車いすでも使用できる昇降式の調理台なども備え、環境からの動作支援も検討できます。また、フリースペースでは、講義机と椅子が常備され講義・研修（50人程度）も可能となっています。



日常生活活動実習コーナー
手すり・床の高さ等変更できる動作支援設備



日常生活活動実習コーナー
手すり階段



日常生活活動実習コーナー
天井走行式リスト



日常生活活動実習コーナー
全体の様子



宿泊体験コーナー



フリースペース（講義・研修など設備を完備）



共通教育科

飯島 博之 教授

【研究分野】 英語教育学

【キーワード】 語彙学習、EFL読解、学習者要因、医学用語

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=251ii>



日本人英語学習者の特徴の研究

研究概要

日本人英語学習者の特徴について様々な角度から研究をしています。EFL（外国語としての英語）学習者である日本人英語学習者の読解力、学習ストラテジー、学習者要因等について、英語熟達度上位者と下位者の違いに焦点を当てることは私たちの英語学習を改善し、英語力を効率的に伸ばすための貴重な示唆を与えてくれます。また、医療系専門職を目指す学生を対象として、専門分野の学習に必要な医学用語の効果的学習方法の研究と学習教材の開発にも取り組んでおり、学習管理システムを用いたオンデマンド教材と対面授業を融合したブレンド型学習にも取り組んでいます。

研究紹介

- 1) 日本人英語学習者の読解ストラテジーの研究
- 2) 日本人英語学習者の読解不全要因の研究
- 3) 日本人英語学習者の学習ストラテジーの研究
- 4) 効果的な医学用語学習方法と語彙学習教材開発
- 5) 英語指導におけるブレンド型学習の研究

講座テーマ紹介

高校出張講座例：

「英語読解力をつけるために」「語彙力アップのための学習方法」「英語力上位者の学習方法の特徴」「TOEIC得点アップのコツ」「英語ができる人とできない人：ここが違う」といったテーマでの講演をお受けします。

アピールポイントなど

大学での経歴に加え、県立高等学校教諭、国立工業高等専門学校、公立看護専門学校等での英語教師としての経験があります。高校生を対象とした英語学習方法などに関する講演をお受けできます。社会貢献活動としては県立高等学校学校評議委員、国立工業高専英語弁論大会審査委員を務めています。



共通教育科

上原 美子 教授

【研究分野】 学校精神保健、学校における専門職連携、養護教諭養成教育
 【キーワード】 教員の離職予防、ケアを担う子ども、養護教諭養成
 【URL】 <https://researchmap.jp/yy04/presentations/11996006>



学校保健と学校福祉の連携・協働

研究概要

子どもたちの健康課題及び問題行動の背景には、心身の問題とともに家庭、友人関係、様々な環境等が複雑に絡み合っています。また、子ども本人に対する働きかけだけでは問題解決が難しいことも考えられます。そのため、子どもの意向を尊重しながら、**その家族の支援を含めた子どもたちへの支援が必要**であると考えています。

子どもたちの生涯にわたる心身の健康の保持増進に責任のある**養護教諭（学校保健）**と社会福祉の専門的知識や技術を有し、個々の生活面を支援する**スクールソーシャルワーカー（学校福祉）**との連携・協働に取り組んでいます。

研究紹介

1. 養護教諭のストレス対処に関する研究
 - 1) 養護教諭のストレス対処力に影響を及ぼす要因の検討
 - 2) 新任養護教諭における職務上の困難さの認識に関する研究
 - 3) 養護教諭のためのキャリアノートの開発（スタート編）
2. 学校保健と学校福祉の協働
 - 1) 養護教諭とスクールソーシャルワーカーの協働における事例研究
 - 2) 養護教諭とスクールソーシャルワーカーの専門職が連携した保健室経営の提案
3. 開発途上国における日本型健康教育プログラムの検証
 - 1) ソロモン諸島国におけるヘルスプロモーションスクール取り組み
 - 2) 日本型学校健康教育システムの有効性検証の開発途上国における実践

講座テーマ紹介

- ヤングケアラーの理解と支援
 - ー 医療・福祉・心理の専門職との連携した養護教諭の視点からー
- 学校危機管理における養護教諭の役割
- 養護教諭のやりがいを支える働き方 など

アピールポイントなど

越谷市青少年問題協議会会長、春日部市いじめ問題対策調査委員会副委員長、また、埼玉県学校におけるヤングケアラー支援事業ヤングケアラーサポートクラスに参画しています。埼玉県立常盤高等学校及び県立杉戸高等学校学校評議員。



プライマリ・ケア診療における症状分析

共通教育科

竹島 太郎 教授

【研究分野】 症状に関する研究、臨床診断に関する研究、予防やリスクに関する研究
 【キーワード】 地域医療、プライマリケア、臨床疫学、ICPC
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=322take>



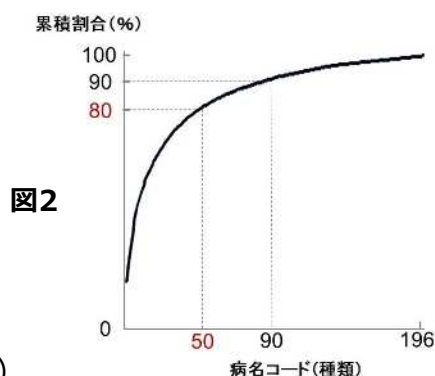
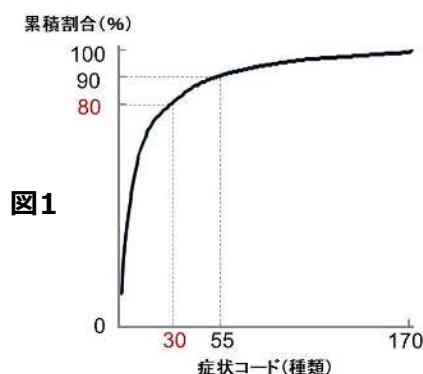
研究概要

地域医療における課題を解決して現場に役立てることを目標に臨床研究を実施しております。特に臨床現場から生まれる疑問を大切に、漠然とした診療の疑問から切実な課題を明確にし、臨床疫学的手法を用いて課題解決に取り組んでおります。そして、研究の成果を社会に発信するとともに、実臨床や医療関係者の教育活動に還元してまいります。

研究紹介

ICPCを用いたプライマリ・ケア診療における症状分析

小規模病院総合診療科を受診した初診患者の症状（来院理由）と診断病名を明らかにした研究を紹介します。ICPC（International Classification of Primary Care：プライマリ・ケア国際分類）という国際的に標準化されたコードを用いて記述し、国際誌に発信しました（*Int J Gen Med* 2014）。約30種類の症状コードで受診患者全体の80%を占め（図1）、約50種類の病名コードで全体の80%を占める（図2）ことがわかりました。本研究の結果は、総合診療教育カリキュラムの改善に寄与することが期待されています。



講座テーマ紹介

1. 症状に関する研究

- 初診外来患者における症状と診断病名の記述（上記）
- 精神疾患に関連する症状の探索（*Int J Gen Med* 2015）
- 末梢性めまいの発症率の記述（*Int J Gen Med* 2015）

2. 臨床診断に関する研究

- 菌血症を同定するための臨床診断予測ルールの開発（*PLoS One* 2016）

3. 予防やリスクに関する研究

- 塩分感受性高血圧遺伝子検査希望者の特性（*BMJ Open* 2017）
- 末梢性めまいのリスクの探索
 頸動脈プラークとの関連（*Medicine* 2016）、喫煙との関連（*Sci Rep* 2017）

アピールポイントなど

総合医としてへき地医療に従事してきた経験を糧に、現場の医療者からの切実な問いに応えられるような研究を心がけております。



共通教育科

田中 健一 教授

【研究分野】 生理学、神経精神薬理学、病態生化学、実験心理学

【キーワード】 嗜好、依存 & 嗜癖、孤独 & 孤立、医薬品 & 健康食品等

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=255tana>

人はなぜ“ハマる”のか

研究概要

社会問題化している“危険ドラッグ”をはじめとする薬物（物質）依存は古くて新しい問題です。また、ギャンブルや買い物に加え、インターネットやゲームにハマる若者が増えています。薬物（物質）に限らず、なぜ、ヒトは何か“ハマる”のでしょうか？「嗜好・嗜癖・依存」を手掛かりに“ハマる”仕組みについて理解することを目指します。

研究紹介

依存症を予防するための研究：依存症の基盤となる嗜好・嗜癖・依存に関連する高次脳機能とそれを支える神経機構や脳機能を解明する目的で多彩な手法により検討します。これにより、依存症形成の予防並びに阻止に有効な方策・対策について提案したいと思います。

講座テーマ紹介

依存症並びにその基盤となる脳・神経に関連する知識の習得を目的とした講演・研修会等の実施：

“ハマる”こととはどういうことか、最新の知見を織り交ぜながら“ハマる”仕組みを理解していきます。また、“ハマらない”ための知恵はあるのでしょうか。現代の社会問題に深く関係する課題として、「ヒトはなぜ “ハマる”のか」一緒に考えたいと思います。

アピールポイントなど

中高生、一般市民、養護教諭・特定保健指導者等専門家、等の対象に合せた講演や研修会の実施が可能です。話の内容も、スタンダードな構成だけでなく、例えば、禁煙を中心に話して欲しい、インターネットやゲーム依存の話をして欲しい等、ある程度、アレンジすることは可能です。

臨床研究例～医学的介入の効果検証

・研究スケジュール： 事前検査 → 介入試験 → 事後検査

・事前・事後検査：代表例

1. 心理検査：評価尺度・質問紙

①嗜癖傾向評価尺度：先行研究を参考に作成中

②精神的健康度：The General Health Questionnaire (GHQ) 日本語版

③気分プロフィール検査：Profile of Mood States (POMS) 日本語版

2. 生理機能検査：バイタルサイン（健康状態）、皮膚電気活動（情動変化）、心拍変動解析（自律神経機能）、フリッカー試験（精神的疲労度）等

3. バイオマーカー測定：唾液によるストレスマーカー測定

これまでの研究例：

①依存症予防における不安関連行動のエンドフェノタイプとしての可能性

②依存性形成の危険度評価に関する検討

③口腔機能の改善が精神的健康度に及ぼす影響とそのメカニズム



共通教育科

田中 健一 教授

【研究分野】 生理学、神経精神薬理学、病態生化学、実験心理学

【キーワード】 医薬品、健康食品、セルフメディケーション、適正使用、薬害を含む有害事象

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=255tana>

あなたの知らない“お薬”の世界

研究概要

私達にとって身近な存在である“お薬（医薬品）”が生体内で作用を発揮するメカニズムを理解することは重要です。一方で、目の前の患者さんに対して多くの医薬品の中から最も適切な医薬品を選択し、最善の薬物治療を行うことが医療における目的と考えられます。

また、近年では増大する医療費対策として、自分で症状を理解し、適切な医薬品等を選択し、症状を改善させる「セルフメディケーション」が推奨されているものの、実際に適正に行うことは難しいとされています。そこで、身近で興味深い医薬品を適正使用するための理解を目指します。

研究紹介

医薬品等の適正使用に関する研究：健康食品等を含む医薬品等の有効性と有害性について、多彩な研究手法を用いて検証することで、適正・適切な「セルフメディケーション」とは何か、提案したいと思います。

講座テーマ紹介

医薬品等の基本的知識の習得と適正使用を目的とした講演・研修会等の実施：医薬品を一度も服用しない人は恐らくいないと思います。一方で、案外知らない医薬品に関する話題や課題を分かりやすく紹介することで、医薬品の基本的な知識を学び、安心・安全に医薬品を服用できるように学ぶことを目標とします。また、副作用・乱用・薬害等に注目することも可能です。

“お薬”を飲む上で注意して欲しいこと！

- ☆飲む前に薬剤師や医師に伝えてほしい
 - ⇒なぜ必要なのか、具体的な症状等
 - ⇒現在服用中の“お薬”の有無
 - ⇒アレルギーなど副作用歴
 - ⇒その他、留意して欲しいこと（不安なこと、気になっていること等）
- ☆適切な用法用量を守ること
 - ⇔ 『飲み忘れ』に注意！！
- ☆服用後に気になること
 - ⇒副作用の出現、症状が治らない、等、どんなことでも！遠慮なく！

アピールポイントなど

中高生、一般市民、養護教諭・特定保健指導者等専門家、等の対象に合せた講演や研修会の実施が可能です。話の内容も、いわゆる医薬品に限らず、サプリメント等の健康食品や毒物等、応用編も可能なので、例えば、感染症のお薬を中心に話して欲しい、健康食品について話をしたい等、ある程度、アレンジすることは可能です。



共通教育科

田中 健一 教授

【研究分野】 生理学、神経精神薬理学、病態生化学、実験心理学

【キーワード】 ストレス、レジリエンス、コーピング、メタバース、ヘルスケア（心身・口腔）

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=255tana>


ストレス社会を生きる知恵

研究概要

長引くコロナ禍や戦争に加え、少子高齢化による社会の歪みが生み出す社会不安の増大が指摘されている現代日本は、ストレス社会と言えるでしょう。ストレス社会を生きる我々にとって日々のストレスとの付き合い方は生きる上で重要な視点と考えます。自分らしさを保ちつつ、ストレス社会を生きる知恵を探しましょう。「喜怒哀楽」という言葉はご存知でしょうか。健全な心の健康を維持するためには、適切な感情の振れ幅は必要で、「喜怒哀楽」はあなたの心模様を映す鏡だと考えます。そこで「喜怒哀楽」を手掛かりに心の健康を保つための知恵やストレス対処法について、一緒に考えたいと思います。

研究紹介

ストレス対処法としてのセルフメディケーションの開発：様々なストレス対処法の中から、健康食品等を含む薬物療法に加え、メタバース等のデジタルヘルスケアに着目して、これらの有効性と有害性について、検証することで、適正・適切な「セルフメディケーション」とは何か、提案したいと思います。

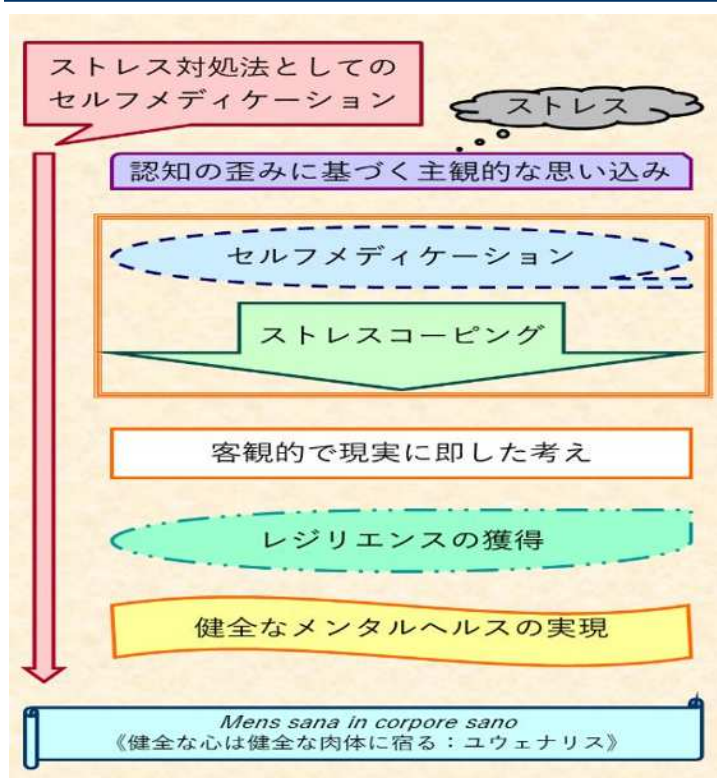
講座テーマ紹介

ストレス対処法を理解・実践することを目的とした講演・研修会等の実施：世の中で汎用されているストレスの意味を改めて整理した上で、適切なストレス退社法とは何かを考え、理解して頂き、また、有効かつ手軽に実施できるストレス対処法としてのセルフメディケーションを考えたいと思っています。

アピールポイントなど

中高生、一般市民、養護教諭・特定保健指導者等専門家、等の対象に合せた講演や研修会の実施が可能です。話の内容も、メンタルヘルスに関するストレス対処法であれば、基本的な知識から、先端研究の紹介まで、幅広く対応できると思います。

ストレス対処法としてのセルフメディケーション





医学講話（特に臨床神経学、老年医学）

共通教育科

滑川 道人 教授

【研究分野】 臨床医学全般、内科学、臨床神経学、老年医学、脳卒中学、神経科学、産業医学
 【キーワード】 認知症、アルツハイマー病、パーキンソン病、脳卒中、フレイル/サルコペニア
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=252name>



研究概要

個人的には「神経変性疾患（特に脊髄小脳変性症/遺伝性痙攣性対麻痺）の臨床像および分子遺伝学的検討（genotype-phenotype correlation）」を研究しています。

ただ本学においては、医師としてさまざまな疾患に対する啓発活動（講演、公開講座、健康コラムなど）を求められることが多く、それらが地域貢献活動の中心となっています。

特に脳神経内科学（認知症、パーキンソン病、脳卒中、てんかん、頭痛、神経難病など）と老年医学（フレイル/サルコペニア、骨粗鬆症、老年症候群、ポリファーマシーなど）の領域においては、30年の臨床経験をもとに、講演もしくは原稿執筆をいたします。

さらに、学校保健（喫煙、飲酒、違法薬物、性行為感染症など）、救急医学（特に内科系）、産業医学（従業員のメンタルヘルス、特定健診：メタボリック症候群など）、さらには新型コロナウイルス感染症（COVID-19）などについても、幅広く扱います。

講座テーマ紹介

過去に実施した講演会の内容

<一般向け>

- ・脳卒中を予防しよう
- ・パーキンソン病とは
- ・新型コロナウイルス感染症について
- ・風邪と免疫
- など

<専門職向け>

- ・神経難病患者の在宅支援のポイント
- ・脊髄小脳変性症の理解（看護師対象）
- ・複合性局所疼痛症候群：基礎と臨床（理学療法士対象）
- など

<多職種連携>

- ・ALS患者の在宅ケア（多職種による事例検討）
- ・多職種連携（IPW）における主治医としてのかかわり方（医師対象）
- など

過去に執筆した一般向け健康コラムの内容

- ・正月：餅の窒息に注意
- ・アルツハイマー病の新薬、アデュカヌマブ
- ・冬場の入浴：ヒートショックとは
- ・コロナ禍に増加！！？ 帯状疱疹
- など

アピールポイントなど

医師による啓発活動であり、一般向けから専門家向けまで幅広く対応します。脳神経内科専門医、脳卒中専門医、認定内科専門医、そして産業医の資格を有しますので、特にその領域においては、最新医療情報にまで踏み込んで解説します。

聴衆・読者のレベル、参加人数（数名～数百名）に合わせて講演内容を準備します。講演のみでなく、健康コラムやエッセイなどの執筆、インタビューなどもお引き受けします。

ご希望がある場合、お気軽にご連絡ください。皆さまのお役に立てるよう努力します。



特別支援教育を支える学校・保育コンサルテーション

共通教育科

森 正樹 教授

【研究分野】 特別支援教育、障害児保育、インクルーシブ教育、保育

【キーワード】 発達障害、コンサルテーション、巡回相談

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=260mori>

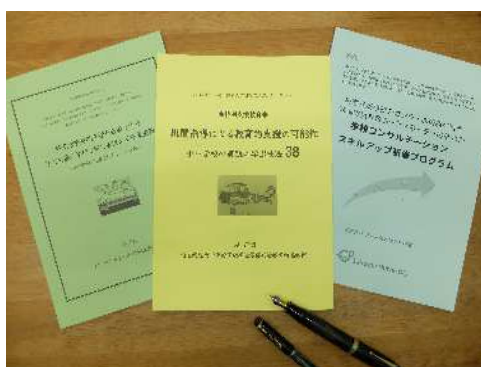


研究概要

■ 埼玉県内各地の保育園や小中学校等を訪問しています。ここで、障害のあるお子さんをはじめ、特別な教育・保育ニーズのあるお子さんを日々支援している先生方（教師・保育者）を対象とする巡回相談や校内・園内研修を実施しています。

■ 専門家同士がお互いに協働しながら、実践上の課題解決を促進するコンサルテーションの方法を研究しています。特に、保育・教育現場の先生方が、ご自身の実践に根差した特別支援を主体的・創造的に展開するための専門的支援の在り方を研究しています。

研究紹介



■ 小中学校の通常学校で行われている特別支援教育の実態を調査。これをもとに、教職員の校内研修用のツールを開発・提案。（写真左）

■ 小学校の通常学級で実施されている「机間指導」の実態を調査。これを踏まえ、教職員の校内研修用のツールを開発・提案。（写真中央）

■ 特別支援学校のコーディネーターが地域でコンサルテーションを進める上での諸課題を検討。専門家養成のプログラムを開発・提案。（写真右）

■ 保育カンファレンスで実践上の課題解決を促進する諸技法の研究を継続中。（フィールド研究）

講座テーマ紹介

- ① 障害のある子ども達の理解の観点と支援の手立て（教師・保育者向け）
- ② 「授業改善」で考える特別支援教育の実践のポイント（教師向け）
- ③ 架空事例で考える発達障害のある児童生徒への教育的支援（教師向け）
- ④ 障害のある子どもの保護者との信頼関係構築のポイント（保育者・教師・関係者向け）
- ⑤ 保育・学校コンサルテーションの理論と実際（特別支援学校教員・専門施設職員向け）
- ⑥ 特別支援学校教諭免許状取得のための認定講習講師

アピールポイントなど

この20年、埼玉県内各地の保育園や小中学校等に出向き、現場の先生方の素晴らしい保育実践と教育実践に多くを学ばせて頂いております。こうした現場の実践には、多くの宝が眠っています。それを発見し、光を当て、皆で分かち合うための研究をしたいと願っています。





共通教育科

浅川 泰宏 准教授

【研究分野】 民俗学、文化人類学、宗教学

【キーワード】 巡礼、聖地、民俗、ツーリズム、文化資源・歴史遺産

【URL】 <https://researchmap.jp/taihan>



巡りが生み出す地域と文化

研究概要

「なぜ我々は日常と異なる時間や場を必要とするのか、そこにどのような社会的な意味が込められているのか」という問題意識から、巡礼に関わるヒト、モノ、ミチ、トキを研究しています。近年は御開帳などの期間限定の祝祭や、リモート参拝などの変容する巡礼文化の調査を進めています。各地のフィールドワークで得た知見を教育に結びつけ、地域に着目したモノづくりや提案型の課題作成に、学生と一緒に取り組んでいます。

研究紹介

- ① **四国遍路「接待」に関する研究**
 - 巡礼者に「巡られる」体験が作り上げた地域文化「接待」の構造を、聞き取り調査や史料分析から明らかにしました。
- ② **巡礼を活用したツーリズムや地域づくりに関する研究**
 - 巡礼古道や接待をツーリズムや地域づくりに活用する様々な活動を分析しました。
- ③ **巡礼の「聖年」に関する研究**
 - 四国霊場開創1200年(2014)や坂東疫病退散祈願巡礼(2021)、弘法大師御誕生1250年(2023)等の聖年を研究しました。
- ④ **オンライン化がもたらす巡礼文化の変容に関する研究**
 - リモート参拝など新しい巡礼文化の登場に注目しています。
- ⑤ **民俗学的視点からの地域再発見をテーマとする弁当の開発**
 - イオンせんげん台店から特定講座教育研究費を受託し、学生と共同で地域の食の民俗を盛り込んだ弁当を提案しました。



講座テーマ紹介

巡礼・聖地、民俗宗教、年中行事、旅、食文化などに関する一般／子供向けの講座。

【主なテーマ】

- 「四国遍路の弘法大師信仰—同行二人の思想と接待の文化について—」(一般財団法人マルチメディア振興センター「eビジネス異業種交流会」, 2018)
- 「たびとぼうけんのヒミツ」(りそなキッズアカデミー, 2018)
- 「日本の伝統文化の研究者になろう」(夢を見つける! リアル体験講座, 2023)
- 「巡礼が紡ぐ死と生の物語」(立正大学文学部公開講座『生と死を見つめる』, 2023)
- 「日本の伝統文化：遍路と巡礼」(日本語・英語, さくらオンラインプログラム, 2023)

アピールポイントなど

- 研究と教育の接続にも力を入れています。教養科目「民俗学」では、毎年学生と一緒に各地の民俗を取り入れた七夕飾りを製作しています。「教養ゼミナール」では、歴史遺産や文化資源を活用した地域巡りや、地域を象徴する食の提案などに取り組んでいます。
- 文化や民俗に着目し、地域社会の新たな価値を発見することで、人々の生活を豊かにする研究開発ができればと考えています。



生活習慣病予防のための天然物およびその代謝物の探索

共通教育科

浦丸 直人 准教授

【研究分野】 医薬品化学、薬物代謝学、環境化学

【キーワード】 生活習慣病、医薬品、健康食品、環境化学物質

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=349ura>



研究概要

食習慣、運動習慣、喫煙、飲酒などの日々の生活習慣は、高血圧、糖尿病、肝硬変、腎臓病などの発症・進行に大きく関与しており、日々の生活習慣の積み重ねによって発症する慢性疾患となっています。疾病の本質は、生活習慣に依存しているため、食習慣や運動、睡眠などの生活習慣の改善が第一ですが、生活習慣病予防のためにサプリメントなどの健康食品が注目されています。生活習慣病予防に寄与する天然物やその代謝物（生体内で化学変換された物質）を培養細胞やモデル動物を用いて探索しています。

研究紹介

1. 代謝活性化に基づく副作用発現回避を志向としたピラゾロン系解熱鎮痛薬の合成

ピラゾロン系解熱鎮痛薬であるアンチピリンの代謝活性化に基づく薬物アレルギー反応を検討し、代謝中間体に抗原性があることを見出しました。また、薬物アレルギー反応を回避することを志向した候補化学物質を合成し、それらの薬理活性を評価し、解熱鎮痛作用があることを見出しました。

2. 抗肥満作用を有する天然物およびその代謝物の探索

ラズベリーの芳香成分であるラズベリーケトンがヒト肝にてロドデノールに還元代謝されることを明らかにし、ラズベリーケトンおよびその代謝物であるロドデノールが3T3-L1前駆脂肪細胞における脂肪細胞への分化を抑制することを見出しました。

講座テーマ紹介

- 薬物乱用防止講演
- 科学実験（探求学習の支援） など

小中高生、一般市民の方を対象に講演や研修会を実施しています。医薬品やサプリメントなどによる健康障害や薬物乱用の話から環境汚染などの環境問題の話まで「化学物質」に関する幅広い内容をテーマとしています。

アピールポイントなど

地域薬剤師、薬学研究者としての視点を活かして、教育・研究面に取り組んでいます。講演や研修会、研究活動について、「化学物質」に関することはお気軽にお問合せください。



共通教育科

小松 睦美 准教授

【研究分野】 科学教育、惑星科学

【キーワード】 宇宙探査、はやぶさ2、隕石

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=324koma>



小惑星から探る太陽系の進化

研究概要

「我々はどこからきて、どこへ行くのか？」この答えを探すために、小惑星に着目し、物質的な観点から研究を行っています。小惑星には様々な種類があり、太陽系が出来た46億年前の、太陽系での場所や時間の異なる多様な情報を保存しています。特に「はやぶさ2」が探査を行った「リュウグウ」のような含水小惑星には、生命にとって必要不可欠とされる水や有機物を多く含まれ、太陽系初期に小惑星からもたらされた水や有機物が、地球の生命誕生に関連した可能性があると考えられています。

小惑星に残された情報を読み解くことで、太陽系で物質がどのように進化してきたのか、地球の生命との関連性はあるのか、という問いに答えるべく研究を進めています。

研究紹介

●地球外試料による小惑星の形成過程の解明

隕石試料や「はやぶさ2」の帰還サンプルの分析により、小惑星の形成過程や進化の歴史を検証しています。

●宇宙開発と社会に関する研究・教材開発

宇宙開発は、莫大な予算をつぎ込む壮大なプロジェクトとして進められてきました。しかし、宇宙開発により生み出された技術は、私たちの暮らしにもさまざまな恩恵をもたらしています。また近年は、民間企業による宇宙産業への参入が活発となっており、社会にとって宇宙は身近な存在となってきました。科学分析と並行して、宇宙開発と社会に関する意識調査や、宇宙開発についての教材開発を行っています。

講座テーマ紹介

●小惑星を目指す理由～はやぶさ2探査でわかったこと～（中高生・一般向け）

NASAのアポロ探査の月面着陸から50年が過ぎ、宇宙探査は新たな時代を迎えています。日本では、小惑星探査機「はやぶさ」に続き、「はやぶさ2」探査機が小惑星リュウグウへの着陸に成功し、2020年末にサンプルを地球に持ち帰りました。このような小惑星探査は、どのような目的で行われ、何を明らかにしてきたのでしょうか？小惑星から探る、太陽系の謎についてご紹介します。



(C) JAXA

アピールポイントなど

宇宙探査「はやぶさ2」等の科学チームに参加し研究を進めてきました。国際隕石学会隕石命名委員として、隕石の命名活動にも協力してきました。



共通教育科

高村 夏輝 准教授

【研究分野】

哲学、倫理学

【キーワード】

現象的意識、バートランド・ラッセル

【URL】

<https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=296taka>



ラッセル的一元論の研究

研究概要

意識の科学的研究や心についての哲学的研究にとって、大きな難問とされているのが現象的意識、クオリアの問題です。クオリアとは意識の主観的な側面のことですが、どのように研究をすればそれを「科学的に解明」したことになるのかはまだよく理解されていません。

今この問題に対して注目されているアプローチが、バートランド・ラッセルが提唱した中性的一元論（ラッセル的一元論）の立場です。百年近く前のラッセルのアイデアを現在の意識に関する研究とどのように組み合わせるかを考えています。

講座テーマ紹介

以下のようなテーマが私の研究課題と重なるものの例となります。

- ・意識の科学的研究にどのような問題があるか
- ・「人間並み」の人工知能の開発にどのような困難があるか
- ・「汎心論」の世界観について
- ・バートランド・ラッセルの哲学とは

アピールポイントなど

この研究テーマに関連した仕事としては、以下のものがあります。

- ・『現代哲学』バートランド・ラッセル著、高村夏輝訳、ちくま学芸文庫、2014年
- ・「汎心論は再起動するか」、鈴木貴之氏との対談、『現代思想』2020年6月号、青土社





人体の構造を立体的に学ぶ教材の研究

共通教育科

高柳 雅朗 准教授

【研究分野】 神経解剖学、解剖学教育

【キーワード】 聴覚伝導路、解剖学、教材、ペーパークラフト

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=284taka>



研究概要

人体の構造は小学校、中学校、高等学校の生物等の学習項目に含まれており、医療従事者を養成する教育機関や大学では解剖学として学びます。大切な基礎知識である人体の構造（解剖学）をわかりやすく立体的にセルフラーニングできる教材の研究を行っています。

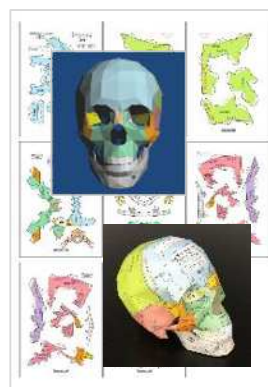
研究紹介

解剖学の学習教材ペーパークラフトの開発

実物大の頭蓋骨、骨盤、脾臓、食道、胃、十二指腸、肺、腎臓、脳の学習教材ペーパークラフトを開発しています。

動物の内臓を教材とする解剖学実習の評価

看護専門学校において未固定のブタの内臓（心臓、肺、腎臓、眼球、脳）を教材として解剖学実習を行っています。この教育効果を研究しています。なお、動物の殺生は行わず、屠場由来の組織を教材としています。



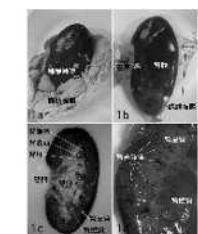
頭蓋骨の学習教材ハーパークラフト
高柳ら, 2022



肺の学習教材ハーパークラフト
高柳ら, 2021



ブタ心臓の解剖学実習
高柳ら, 2007



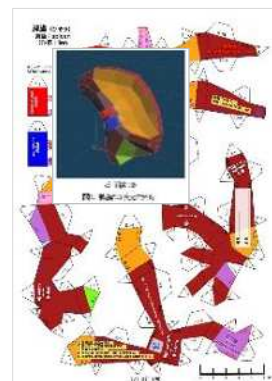
ブタ腎臓の解剖学実習
高柳ら, 2012



ブタ肺の解剖学実習
Takayanagi, et al., 2017



腎臓の学習教材ハーパークラフト
高柳, 2018



脾臓の学習教材ハーパークラフト
高柳, 2018

講座テーマ紹介

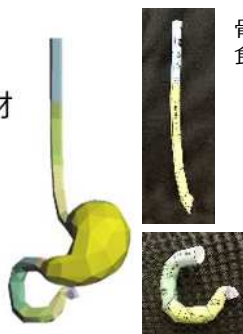
人体の構造（解剖学）の講座

アピールポイントなど

意匠登録第1735579号：上部消化管学習教材

意匠登録第1735588号：骨盤学習教材

意匠登録第1735589号：脳学習教材



骨盤の学習教材ハーパークラフト, 高柳, 2022
食道・胃・十二指腸の学習教材ハーパークラフト,
高柳, accept



共通教育科

檀浦 麻衣 准教授

【研究分野】 英文学

【キーワード】 シェイクスピア劇、イギリス・ルネサンス文学、ジェンダー、女性表象

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=350dan>

シェイクスピア劇の研究

研究概要

ウィリアム・シェイクスピアを中心とするイギリス・ルネサンス演劇を研究しています。『ロミオとジュリエット』や『ヴェニスの商人』は400年も昔にイングランドで書かれたお話ですが、現代に至るまで世界中で読み継がれ、上演されています。その理由のひとつに、現代のわたしたちがふと我が身を重ねてしまうような現実感があることが挙げられます。このようなシェイクスピア劇の面白さと魅力を、テキスト分析とともに魔女狩りや異性装といった文化的背景から読み解きます。

研究紹介

●シェイクスピア劇における聴覚的イメージとその演劇的効果

イギリス・ルネサンス演劇は「見る」というよりも「聞く」(hear a play) 娯楽でした。演劇の受容形態が異なることによって、当時の観客と現代のわたしたちが台詞を聞いて想像する劇世界には違いが生まれます。オリジナルの劇世界はどのようなものだったのか、この問いに対する答えをテキストの聴覚に関する単語に注目し、解明しています。

●エリザベス朝演劇における魔女の表象

17世紀イングランドでにおいて、社会の規範から逸脱した女性たちは「魔女」のレッテルを貼られ、処罰の対象となりました。魔女と呼ばれた女性たちが、演劇作品ではどのように表象されているかを分析し、そこに反映された同時代の人々の不安と恐怖を明らかにしました。

講座テーマ紹介

以下のようなテーマで講座が可能です。

- ・シェイクスピア喜劇の面白さ
- ・英文学と英語教育
- ・エリザベス朝演劇における魔女の表象

アピールポイントなど

教育面では、それぞれの専門領域で使うことのできる英語力の養成を目指して授業を行っています。また、英語圏文学・文化の研究をもとに、学内外の異文化交流と他者理解の促進に貢献できるよう努めてまいります。



スポーツ活動時の負荷管理を通じた トレーニングとコンディショニングの実践

共通教育科

八十島 (やそじま) 崇 准教授

【研究分野】 体力学、トレーニング科学、コンディショニング科学

【キーワード】 競技スポーツ、内的負荷、外的負荷、定量化、トレーニング、コンディショニング

【URL】 <https://researchmap.jp/read0120680>



研 究 概 要

スポーツ選手が競技力を向上させていくには、**スポーツ活動による負荷を定量化し、適切な強度と量のトレーニングを行っていくとともに、傷害予防を図っていく必要がある。**

スポーツ活動における負荷は、外的負荷と内的負荷に大別される(図)。外的負荷とは、スポーツ活動中に選手に課される外的な刺激であり、身体外で定量化できる負荷を指す。近年ではGPS(Global Positioning System: 全地球測位システム)デバイス等のトラッキングシステムによって、試合中の移動距離、移動速度、加減速の反復回数などを測定し、活用している。内的負荷とは、身体の中で起こりうる変化の大きさを指す。具体的な指標には、主観的運動強度(RPE: rating of perceived exertion)、心拍数、血中乳酸濃度などが挙げられる。



図 スポーツ活動における負荷

本研究では**外的負荷をGPSデバイスを用いて、内的負荷として主観的運動強度(RPE)、心拍数を測定し、日々の練習や試合等におけるスポーツ活動の負荷を管理しながら、トレーニングやコンディショニングを実践していくことを目指していく。**

講 座 テ ー マ 紹 介

これまで

- ・中高生を対象とした体力トレーニングとコンディショニング講座
- ・高齢者の体力トレーニング講座(埼玉未来大学等)

などを担当させていただきました。

アピールポイントなど

上記の内容以外にも球技スポーツ(サッカー等)の方向転換能力に関する研究などスポーツ選手のトレーニングに関する研究を行っております。

また、研究ではなくともチームサポートの形でトラッキングデータを測定し、フィードバックを行いながら、体力トレーニングやコンディショニングの実践方法の提案を行っていければと考えております。



共通教育科

山田 恵子 准教授

【研究分野】 健康づくり（ロコモ・フレイル予防）、健康リテラシー向上
 【キーワード】 ロコモ・フレイル、IoT、ビッグデータ、ヘルスコミュニケーション
 【URL】 <https://researchmap.jp/kyamad>



PHRを用いたロコモ・フレイル予防

～PHR(Personal Health Record)：日常生活の運動から予防する

研究概要

高齢化率が世界一の日本では、健康寿命の延伸が必須で、要介護とかかわりの深いロコモティブシンドロームやフレイル対策が重要です。

日常生活の動きや歩行速度から、ロコモ・フレイル予防に役立つ身体機能項目を見つけて、一般の皆様の日々の生活に役立ててもらおう研究を進めています。また、身体機能のデータを医療（診察等）につなげられるような仕組みを作る研究を行っています。

研究紹介

1. 日常生活の動きからロコモ・フレイルを予防する研究

大学病院、システムプラットフォーム会社、ヘルスケア事業会社との連携による研究

- 1) 勤労世代～再雇用世代の健康維持を目的とした研究
- 2) 手軽にできる運動プログラムの作成
- 3) 日常生活で、ロコモ・フレイル予防に必要な動きに注目
- 4) アプリを用いた毎日継続できる運動のしくみづくり
- 5) 病院での診察にも使えるようなシステム構成

日常生活データの収集



2. 全国ロコモ1万人調査を用いた研究

ロコモの疫学や予防に必要な運動、食事、生活習慣などの研究

「ロコモ年齢」開発で、移動機能を「自分ごと」にしてもらう試み



3. 高齢者の運動に対するモチベーションを上げる研究

社会福祉法人との事業研究。ウォーキングショーなどを行い

「見られる意識を高める」ことで、高齢者の運動を継続できるか

4. レセプトと健診データから、歩行速度と疾患の発生の関係を調べる研究

「自分の歩く速度はほかの人より遅い」と感じる人は病気になりやすいか、など

5. 医学をわかりやすく伝える研究

新聞記事コーパス（言語データベース）の作成による

「医学研究をわかりやすく伝える手引き」の作成

講座テーマ紹介

- ◆ロコモ予防、身体機能データ活用などの一般向け、専門家向け講座
- ◆医学・健康をわかりやすく伝える講座、など

アピールポイントなど

- ◆ヘルスケア事業会社、社会福祉法人、大学病院などと連携研究をしています。
- ◆今後は地方自治体様などとの連携も通じて、地域の健康寿命を延ばす共同研究ができたらと思っています。

地域におけるヘルスプロモーション活動 ～ヘルスリテラシーと健康教育～

看護学科

石崎 順子 教授

【研究分野】 公衆衛生看護学、地域看護学

【キーワード】 健康づくり、ヘルスプロモーション、ヘルスリテラシー、健康行動

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=306ishi>

研 究 概 要

ヘルスプロモーションとは、「人々が自らの健康とその決定要因をコントロールし、改善することができるようにするプロセス」（WHO）と定義されています。ヘルスプロモーションの推進には、人々の主体的な健康づくりと誰もが健康になれる社会の創造への取り組みが重要であり、そのアウトカムとしてヘルスリテラシーへの注目が高まっています。ヘルスリテラシーは、健康や医療に関する情報を入手、理解、評価、活用するための知識、意欲、能力であるとともに、社会における資源でもあります。人々の健康行動、健康状態とヘルスリテラシーとの関連を明らかにすることで、ヘルスリテラシーの向上に着目した効果的な健康教育プログラムの開発を目指しています。

研 究 紹 介

1. 女性の身体活動とヘルスリテラシーの関連

スポーツ実施率の低い20-40代女性を対象とした調査において、ヘルスリテラシーが高い人は低い人より運動・スポーツを実施（週1回以上）しており、健康のために推奨される身体活動量を達成している人も多いという結果が得られました。また、子育てや仕事といった運動・スポーツの実施を阻害する要因の影響を差し引いても、ヘルスリテラシーの高さは、運動・スポーツ実施、身体活動量に関連していることがわかりました。

2. 高齢者のフレイルとヘルスリテラシーの関連

地域在住の高齢者における身体・社会的フレイルとヘルスリテラシーとの関連を検討したところ、フレイル該当者のヘルスリテラシーは非該当者よりも低いという結果が得られました。

講 座 テ ー マ 紹 介

- 健康づくり、保健・予防に関連した一般向けの講座
- 健康づくりボランティア等、地域における健康づくりリーダーに向けた「健康」「ヘルスプロモーション」に関する講座

アピールポイントなど

埼玉県内自治体において、保健医療に関する計画策定や保健事業の評価に関わる活動に従事しています。また、自治体保健師の階層別研修（新任）に協力し、専門的能力獲得に向けた保健師の人材育成や基礎教育のあり方についても検討しています。



看護学科

國澤 尚子 教授

【研究分野】 トイレの手すりの開発、IPWコンピテンシー自己評価尺度の開発

【キーワード】 トイレ動作の自立・負担軽減、連携・協働

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=282kuni>

壁から飛び出したトイレ手すりの開発

研究概要

学生時代に片麻痺の患者さんのトイレ介助を見学させてもらって以来、安全で負担が少ない手すりが必要だと思っていました。手すりのメーカーであるナカ工業株式会社との6年間の共同研究の末、施設トイレ用補助具「立位サポート」を開発しました（2020年発売開始）。

研究紹介

「立位サポート」は、壁からの出寸法が大きい、寄りかかることができる、手すりが2本ある、手すりがカーブしていることが特徴です（写真1）。片麻痺の人が車いすから立ち上がるときに、L型手すりでは腕を無理に伸ばしていました（写真2）。立位サポートは壁から出ているため、体の近くで手すりを把持することが可能です（写真3）。着衣のときは、L型手すりに寄りかかると健側の壁側に体が傾き、健側上肢の動きは妨げられます（写真4）。立位サポートでは、体幹が傾くことなく手すりに寄りかかり、健側を自由に動かすことができます（写真5）。検証実験により、開発した手すりはL型手すりに比べて、車いすから立ち上がる時の僧帽筋、下衣着脱時の腓腹筋などの筋負担が減少することがわかりました。また、介助する人の腰方形筋の負担も減少していました。

「立位サポート」を設置した病院や介護老人保健施設から「立位サポートを使って、安心して自分自身でズボンの脱着ができるようになった」「他人に迷惑をかけているというような気持ちの部分での負担が軽減されている」「立位サポートを気に入り、そのトイレが空くまで待っている入所者がいる」「介護者の世話をしているという意識から支援しているという意識づけにつながるという声が聞かれている」などの感想をいただいています。



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5

アピールポイントなど

企業との異業種・多職種連携による製品開発の経験を企業と研究者の共同研究の一例としてお伝えできます。

「立位サポート」は、一般社団法人日本人間工学会が人間工学の研究成果を応用したものづくりを表彰する「人間工学グッドプラクティス最優秀賞」を2022年に受賞しました。



セクシャル・リプロダクティブヘルス/ライツと健康支援

看護学科

齋藤 恵子 教授

【研究分野】 ウィメンズヘルス、助産学、国際看護学

【キーワード】 セクシュアル/リプロダクティブ・ヘルス、妊娠、出産、伝統的慣習、性教育

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=143sai>



研究概要

セクシャル・リプロダクティブヘルス/ライツにおいて、日本では発達段階に応じた包括的な性教育が十分に行われていない現状、性感染症、意図しない妊娠、周産期のメンタルヘルスの問題等、多くの課題があります。さらに、日本に住む異文化ルーツのある人々（移民、難民、技能実習生、留学生等）、障がいを持つ人々、性的少数者はセクシャル・リプロダクティブヘルスサービスにアクセスし難いという課題があります。

SDGs 目標3「すべての人々に健康と福祉を」を達成すべく、日本に住む多彩な文化的背景を持つ人々を含めた人々のセクシャル・リプロダクティブヘルスサービスへのアクセスを向上することがグローバル化が進む我が国のヘルスサービスの向上に繋がると考えます。

研究紹介

日本在住の異文化背景を持つ女性の妊娠・出産・産後における母国の伝統的慣習の認識と日本の産科医療施設の対応についての研究に取り組んでいます。

1. 異文化背景を持つ女性の妊娠・出産に関する文化に配慮した看護支援
2. 途上国において家族により提供される介護と看護師の役割
3. 若者の性の健康に関する研究
4. 埼玉県在住の移民女性の出産に関する伝統的プラクティスの認識と実践

講座テーマ紹介

- ・ セクシャル・リプロダクティブヘルス：思春期の性の健康支援
- ・ 日本に住む異文化背景を持つ女性の妊娠出産に関する伝統的慣習
- ・ 諸外国の母子保健の現状を踏まえた助産師活動
- ・ 諸外国の母子保健活動、国際化時代における助産師の役割

アピールポイントなど

日本在住の異文化背景を持つ女性の妊娠・出産に関する文化に配慮した看護支援について検討したいと考えています。また、中学生・高校生への性教育実践活動を通して若者の性の健康支援に取り組んでいます。

看護師の教育力向上に向けた教育研修

看護学科

鈴木 玲子 教授

【研究分野】 看護学

【キーワード】 看護教育、看護技術教育

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=110suzu>



研究概要

【中堅看護師の教育力深化を目指したアクティブラーニング型研修の開発と評価】

現在、後輩看護師や看護学生への教育活動、院内の教育研修計画の企画、運営を担当する中堅看護師の教育力を育成するための研修プログラムを構築する研究をテーマとしています。具体的には、中堅看護師が主体的に学べるアクティブラーニング型の研修プログラムの開発とその効果検証について取り組んでいます。

唐沢・鈴木ら.医療機関に勤務する中堅看護師に向けた現任教育プログラムの現状と課題
https://doi.org/10.32256/spujhcs.7.0_32

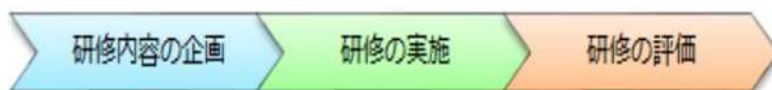
講座テーマ紹介

●医療機関における看護師研修の企画・運営・評価

- 1) 教育指導に関わる看護師の教育力アップに関する研修
 - ・学習者の主体的学びを促進する教育指導計画の立案
- 2) 主体的学びを促進するアクティブラーニングに関する研修
 - ・アクティブラーニングの意義と教育への導入方法について
 - ・状況設定を取り入れたシミュレーション教育方法
- 3) シミュレーターを用いた看護技術の教授方法に関する研修
 - ・生体シミュレーターの教育への活用方法



アピールポイントなど



- ・埼玉県内の医療機関において、中堅看護師の教育力向上を目指したEdNs（Education Nurse）研修に協力しています。
- ・2023年度は埼玉県内の医療機関に勤務する中堅看護師を対象としたセミナー（4回シリーズ）を開催しました。



乳幼児の成長発達と子育て支援

看護学科

関 美雪 教授

【研究分野】 公衆衛生看護学、地域看護学

【キーワード】 育児支援、乳幼児、成長、発達、地域づくり

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=154seki>

研究概要

子育ては大変なこともあります。子どもの成長はとてうれしいものです。しかし、児童虐待の相談対応件数の増加、児童虐待による死亡事例報告を見ると、子育ての難しさを感じます。このため、子育てを地域社会全体で取り組めるように社会システムを作ること重要です。身近に子育ての相談者がいることやパートナーや友人等、何でも相談できる相手がいることが、子育てにとって重要なことが分かっています。安心して子育てできる要因や、子育て世代の保護者のニーズに沿った支援や施策につながるよう研究をすすめています。

研究紹介

子どもの成長・発達の促進や子育て支援、児童虐待をはじめとする子育てに関する課題に取り組んでいます。具体的なテーマについては以下になります。

1. 妊娠期からの子ども虐待予防のためのアセスメント指標の検討
2. 乳幼児を持つ父親のコンピテンシーに関する検討
3. 乳児を持つ養育者の育児情報の取得と活用の検討
4. 養育者の心理的ストレスとヘルスリテラシーの検討
5. 母子のための地域包括ケアシステムの構築

講座テーマ紹介

1. 乳幼児期のお子さんを育てている保護者を対象とした講座

子どもの発育と発達を理解することで、子育ての悩みや不安が軽くなることがあります。睡眠や食事等の子どもの生活習慣を整えることは特に重要です。一方、現代では、共働き家庭が増加し、子育ては両親ともに役割分担をしながら一緒に子育てすることが重要です。お父さんを対象とした子育て講座も充実させていきたいです。

2. 子育て支援に携わっている方を対象とした講座

地域で子育て支援に携わっている民生委員、子育てボランティアの方を対象に、地域での子育てについて考える講座の開催も充実させていきたいです。

アピールポイントなど

自治体での家庭教育学級の講師や子育て広場の開催、放送大学では一般の方向けに、子どもの保健の講義を行いました。地域全体で子育てを支えるしくみづくりに貢献していきたいと思います。



看護チーム連携とインクルーシブケア促進の研究

看護学科

善生（ぜんしょう）まり子 教授

【研究分野】 老年看護学

【キーワード】 高齢者、専門職連携、看護チーム、インクルーシブケア

【URL】 https://researchmap.jp/2001_zensho-mariko



研究概要

令和2年度診療報酬改定では「働き方改革の推進」によって、チーム医療の推進だけでなく、**タスク・シェアリング／タスク・シフティング**（業務分担・協働）の評価の充実が掲げられています。

主に、一般病院の急性期病棟（肺炎や心臓病の状態の悪化で入院し、症状が落ち着いたら患者は比較的短期間で退院することが多い）では、「**急性期看護補助体制加算**」（平成22年度診療報酬改定～）が強化され、看護補助者の配置、**看護チーム**（看護職：看護師、保健師、助産師、准看護師）と看護補助者（介護福祉士を含む）との業務分担・協働の推進が期待されています。

このような働き方改革の推進の中で、医療処置や指示受け等の業務に追われて、高齢者ケアが後回しにならないように、心のこもった、**看護チームの連携のあり方と高齢者へのインクルーシブケアが促進されるような方策を考え、常に臨床現場へのフィードバックをモットーとして、研究**に取り組んでいます。

高齢者へのインクルーシブケアとは、高齢者の生き方・暮らし方等が多様であることを前提に、高齢者ご自身の希望に合った配慮を受けて療養生活を送ることを目指す看護ケア理念と実践プロセスです。

講座テーマ紹介

□ 看護チームのための連携講座

専門職連携：看護チームバージョン

講義、グループワーク、リフレクション等

□ 看護補助者のための看護基礎講座

看護事始め

要介護高齢者への日常生活援助の基本的知識と技術

講義、グループワーク、リフレクション等

□ 高齢者へのインクルーシブケア講座

看護チームの対話のコーディネーター等

アピールポイントなど

現在、**医療ICT化**を支援する事業者、**一般病院の看護管理者らと小さなチーム**を組んで、**看護業務に発生し易いヒューマンエラー**（例えば、血糖測定チェック漏れや服薬管理などの場面で看護職によって人為的におこされる間違い）を**未然に防ぐためのAIロボット応用の共同研究**に取り組んでいます（AI：人工知能）。この共同研究では、**看護チームの業務負担やストレス緩和**につながるような効果をめざしています。

そして、**看護チームがよりよく連携**できれば、**高齢者へのインクルーシブケア**に心から取り組めるような職場の環境づくりへ貢献出来るのではないかと思います。

一緒に取り組みませんか？



市民と保健医療者が共に考える People-Centered Care (PCC:市民中心のケア) の取り組み

看護学科

高橋 恵子 教授

【研究分野】 People-Centered Care、市民中心のケア、ヘルスリテラシー
 【キーワード】 市民中心のケア、市民と専門職とのパートナーシップ、健康づくり
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=326taka>



研究概要

個人や地域社会における健康課題の改善に向けて、**市民が主体となり、保健医療専門職とパートナーを組み**行われる取り組みのことを**People-Centered Care (PCC : 市民中心のケア)**といいます。

現在、超高齢社会に伴うさまざまな健康課題の改善に向けて「**People-Centered Care (PCC)**」における研究成果を集積し、さまざまな健康課題に対して、**市民にできることは何か、保健医療者にできることは何か**について、市民と保健医療者が共に考える教材づくりに取り組んでいます。



People-Centered Care の
パートナーシップの8要素
高橋恵子他 (2018) .

研究紹介

1. 市民と保健医療者が共に考えるPCCWeb教材の開発

自分の健康を自分で創り守るために、さまざまな健康課題に、**市民と保健医療者が共に考える機会となるPCC (市民中心のケア)**の教材を作成した。PCCの取り組みを国内外へ広めるため、①PCCとは何か、②PCCの実践例、③PCCの活動事例をWeb教材で紹介している。

2. 市民のヘルスリテラシー向上をめざすプログラム開発に関する研究

自分の健康を自分で創り守るために、オンラインを用いたヘルスリテラシープログラム（「健康情報を入手する力」と「健康情報を理解する力」に焦点をあてた内容）を提供し、その有用性を検討している。



PCCWeb教材

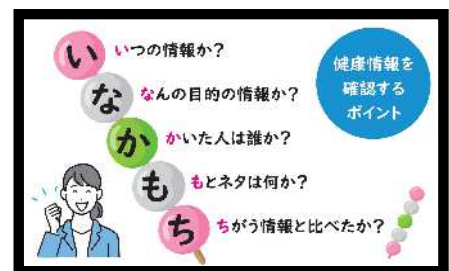
講座テーマ紹介

1. 市民のヘルスリテラシー講座：市民講座

【健康情報の探し方・調べ方のコツ】（オープンカレッジ講座）
ヘルスリテラシーの向上を図るために、市民を対象に、健康情報の探し方・選び方のコツを学び合う講座です。

2. 子ども向けの「からだ」のおはなし会 （オープンカレッジ講座）

5歳児前後の子どもを対象に、からだの紙芝居・からだぬりえ、クイズ、からだTシャツを用いて、からだのしくみを一緒に学びます。



健康情報を確認するポイント

アピールポイントなど

人々が自分の健康を創り守る社会をめざして、市民と専門職とがパートナーを組んで取り組む健康支援事業に参加し、活動しています。



「からだ」のおはなし会



病いとともに生きるための意思決定支援

看護学科

常盤 文枝 教授

【研究分野】 慢性看護、循環器疾患看護

【キーワード】 アドバンス・ケア・プランニング、意思決定支援、健康教育

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=111toki>

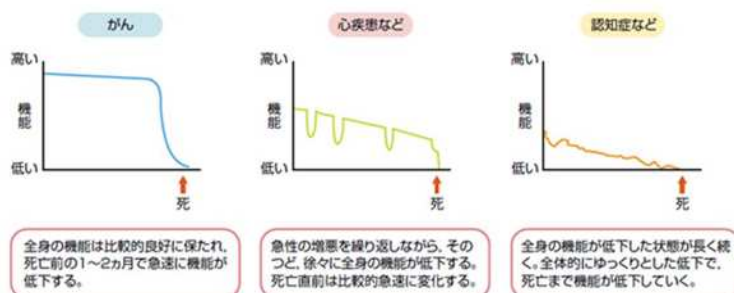

研究概要

病いの軌跡（病気になってからの行路）は、病気や個人の状況によって異なります。

（HEART 2012 /5 Vol.2 No.5

p501- p 511）

もしも病気になった時に、自分の希望を理解してもらうために、医療者、家族、親しい人とともに、情報を収集・吟味して、共に考える作業が必要です。



たとえば、リビングウィルの必要性に関する意識調査では、一般市民の70%が賛成しているが、実際に書面を作成している割合は5%以下です。これは、リビングウィルが単に生前遺言書と考えられていることが影響しています。

アドバンス・ケア・プランニング（Advance Care Planning : ACP）とは、人生の最終段階をどのように過ごしたいか、どのような治療を受けたいかについて、事前に患者と医療者が話し合い、自分の生き方を考えることです。しかし、これは特別なことではありません。普段から、病いとともに上手に生きるLive Wellためのコツを皆さんと一緒に考えます。

研究紹介

心不全患者と家族に対する包括的緩和ケアモデルの開発

地域包括緩和ケアの充実にむけた家族への教育支援プログラムの開発

講座テーマ紹介

- ・地域住民の健康教育プログラム策定と実施支援
- ・アドバンス・ケア・プランニングを考えるワークショップ
- ・地域での緩和ケアを考えるワークショップ
- ・「もしも病気になったら」準備ワークショップ

アピールポイントなど

健康教育やワークショップを通して、患者の意思尊重に関する社会的コンセンサスを高めることに貢献します。



地域で活躍する看護職の研究とケアラー支援の研修

看護学科

林 裕栄 教授

【研究分野】 在宅ケア学、家族看護学、老年看護学

【キーワード】 訪問看護、在宅ケア、介護者、家族

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=121haya>



研究概要

訪問看護や在宅ケアに関する専門職側や介護を行っているケアラー側、双方からの視点で研究をしてきました。現在は、地域包括ケアの中核を担う訪問看護師へのキャリア支援に向けたプログラム開発を現場の方々と共に行っています。加えて精神障害者の地域生活支援に向けての事例検討会や、ケアラーの概念を広く地域社会に普及するための支援を行います。

研究紹介

1. 訪問看護師のキャリア支援プログラムの開発

キャリアラダーとそれに伴う研修体系の構築について、
埼玉県訪問看護ステーション協会との共同研究中。

2. 特別養護老人ホームで働く看護職員の人材育成と課題

埼玉県看護協会看護師職能Ⅱ委員と共同研究中。

3. 精神科アウトリーチに関する研究

主に埼玉県内の地域ケアを行う精神保健・医療・福祉職
や家族会の皆さんと共に事例検討会を定期的開催。

それをもとに支援技術、地域連携について検討し県内の
精神保健・医療・福祉の質の向上を目指している。



講座テーマ紹介

- 介護者（ケアラー）支援、家族看護についての一般向けおよび専門職者向けの講義
- 訪問看護師や施設看護師のキャリア支援研修



アピールポイントなど

近年では、専門職だけでなく非専門職との連携や当事者の力が注目されています。高齢者や障がいを持つ人の支援や、ケアラーの支援をとおして、住み慣れた地域でどんな人でも、その人なりの暮らしを送ることができるような地域づくりを目指して研究活動を行っています。

委員実績：埼玉県看護職員確保委員会委員・埼玉県訪問看護推進検討委員会委員・埼玉県ケアラー支援に関する有識者会議委員・埼玉県越谷市開発審査委員・埼玉県訪問看護ステーション協会顧問・埼玉県看護協会看護師職能Ⅱ委員 など。



看護学科

森田 牧子 教授

【研究分野】

【キーワード】

【URL】

精神科訪問看護による虐待予防

精神障害者と家族の生活を支援します

精神科訪問看護による家族支援、訪問看護師における虐待予防プログラムの開発

精神科訪問看護、家族支援、精神障がい者支援、虐待予防、産業保健

<https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=132mori>

研究概要

地域で生活する精神障害者の8割は家族と同居しており、多くの家族が精神障害者の退院後の地域生活を支えています。在宅精神障害者の訪問看護利用は、介護負担や家族の高齢化に伴い、増加傾向にあります。看護内容は疾患の状態観察から日常生活支援、家族支援と多岐にわたります。そのため看護師は、家庭内で生じる虐待やリスク状態にある場面に遭遇することがあります。そのようなハイリスクな家族に訪問看護師はどのような観察や看護を提供することで虐待予防に繋がるのか、調査研究を実施しています。

受託研究では埼玉県内の地域と自殺予防対策の調査や対策を共同で行い、自殺対策委員の立場から政策を検討しています。また、依存症に関する調査を行い講演も行っています。地域社会が活性化するお手伝いをいたします。

研究紹介

●精神障害者虐待予防に向けた看護ケアプログラムの構築

- 1.訪問看護師が虐待リスクを測定できる指標「在宅精神障害者の支援状態評価尺度」の開発
- 2.訪問看護師の虐待リスク家庭への介入ケア内容の分析
- 3.訪問看護師の観察内容と「在宅精神障害者の支援状態評価尺度」のリスク度測定調査（実態調査）

など、精神科訪問看護師の実践での困難、家族や当事者の困難を共有し、支援方法を検討しています。

●依存症患者のリカバリーについて

依存症者が自助グループの中でリカバリーする過程と支援者の支援内容を研究しています。

●自殺予防に関する調査と対策

地域住民にK6等を用いてメンタルヘルスに関する調査を行い、住民の現状を把握し行政の方々と求められる対策を検討しています。

講座テーマ紹介

- 精神障がい者虐待予防、訪問看護における虐待予防などに関連した一般向けおよび専門職向けの講座
- 高齢者のメンタルヘルス、地域で暮らすひとのメンタルヘルス
- 産業保健におけるメンタルヘルスなど
- ゲートキーパー研修、自殺予防に関すること
- 依存症に関する講座

アピールポイントなど

精神科訪問看護師の経験から、精神障がい者が安心して地域生活を送るための支援や調査を行っています。自殺予防に関連する調査やメンタルヘルスに関する講演を行います。



「病院と地域を横断して働く新人看護師の教育プログラム」の導入と評価

看護学科

渡邊 千登世 教授

【研究分野】 看護管理学、看護教育学、教育プログラム、地域包括ケア
 【キーワード】 看護師のキャリア、新人看護師教育プログラム、訪問看護ステーション
 【URL】 https://researchmap.jp/chitose_watanabe



研究概要

地域包括ケアシステムにおいて、在宅ケアを提供する訪問看護師の役割は非常に重要ですが、訪問看護ステーション（以下ST）の人材不足は深刻な問題です。この問題に対処するため、新人看護師が卒業後早期から訪問看護の必要なスキルを身につけられる教育プログラムが求められています。この背景から、大学、大学病院、STの3つの機関が協力して、新人看護師が大学病院と地域の両方で効果的に働くことができる「大学病院と地域を横断して働く新人看護師教育プログラム」を開発しました。このプログラムを大学病院とSTで実施し、その有効性を評価する研究を行っています。プログラムの評価と改善を通じて、より多くの質の高い訪問看護師を育成すること、急性期の医療から在宅ケアへのスムーズな移行を支援する実践の促進、看護師のキャリアの発展、そして訪問看護師の人材不足の解消に寄与することを目指しています。

研究紹介

・プログラムの開発

神奈川県立保健福祉大学、聖マリアンナ医科大学病院、そして神奈川県内のSTと共同で開発しました。

・プログラムの構成

3年間のプログラム構成であり、新人看護師が病院と訪問看護ステーションの両方で勤務しながら、それぞれの研修場所で設定された目標が達成できるよう支援を提供します。現在、1年目が終了し、プログラムの有効性を評価している段階です。

プログラムの目的				
研修場所	プログラム	1年目	2年目	3年目
		レベルⅠ		レベルⅡ
大学病院	クリニカルラダー	レベルⅠ		
	1年目～3年目の目標	1年目目標	2年目目標	3年目目標
大学病院	3年間で達成すべき目標 項目22項目	4月5月・・・3月 項目ごとの達成期日	4月5月・・・3月	4月5月・・・3月
		←→	←→	←→
訪問看護	3年間で達成すべき目標 項目20項目（基本的能力と専門的能力）	←→	←→	←→
		←→	←→	←→
内研修	院内研修・Eラーニング・キャリア育成面接等	■■■■	■■■■	■■■■
		■■■■	■■■■	■■■■
割勤割合	病院と訪問看護STでの勤務割合	病院4日/訪問看護ST1日等	常勤所属3日/非常勤所属2日	
		病院4日/訪問看護ST1日等	常勤所属3日/非常勤所属2日	

図1. 「病院と地域を横断して働く新人看護師の教育プログラム」の構成

講座テーマ紹介

- ・「病院と地域を横断して働く新人看護師の教育プログラム」とは
- ・「病院と地域を横断して働く新人看護師の教育プログラム」導入の実際
- ・「病院と地域を横断して働く新人看護師の教育プログラム」の有効性

アピールポイントなど

- ・教育プログラムは、将来訪問看護師を目指す新人看護師が早期から地域で活躍できるよう設計されています。しかし、このプログラムの影響はそれだけに留まらず、訪問看護での生活モデルに基づくケアの知識を習得した看護師が急性期病院で働く際にもその知識を活かし、結果としてスムーズな地域連携へとつながることが期待されています。
- ・教育プログラムは、神奈川県内の地域モデルとして開発されました。その有効性を踏まえ、さらなる普及を図ることを目指しています。埼玉県内の病院と訪問看護ステーションにおいてもプログラム実施の実現に期待しています。関心を持つ機関からのお問い合わせを歓迎します。



ガイドラインに基づく褥瘡ケアの実践を目指した情報テクノロジーの活用～チームコンパスによる褥瘡管理～

看護学科

渡邊 千登世 教授

【研究分野】 看護情報学、臨床知識

【キーワード】 看護情報、診療ガイドライン、患者状態適応型パス、標準看護用語、褥瘡ケア

【URL】 https://researchmap.jp/chitose_watanabe

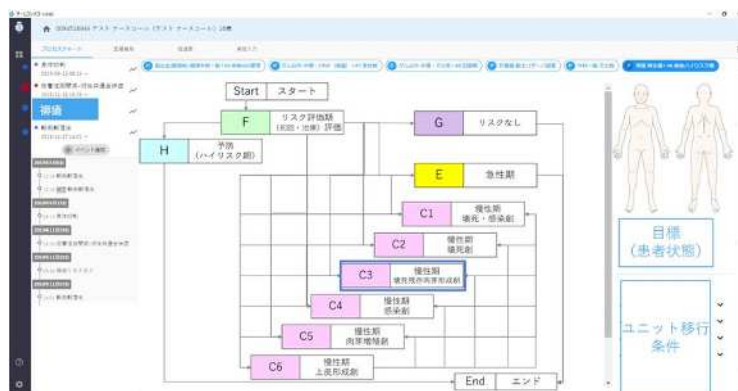

研究概要

診療ガイドラインはチーム医療における適切な判断を導き、診療結果のばらつきを減少させることを目的としています。しかし、これらのガイドラインの臨床現場や在宅医療での実際の活用はまだ十分ではありません。特に、褥瘡予防および管理においては、DESIGN-R®2020という創状態評価ツールを使用して、褥瘡の正確な評価と創状態に応じた局所管理が推奨されていますが、その判断が難しいとされています。そこで、これをチーム医療で効果的に活用するためには、情報テクノロジーの導入が重要と考え、臨床知識を構造化し、「褥瘡局所管理」の患者状態適応型パス（PCAPS）コンテンツを開発しました。このコンテンツは、チーム医療支援ツール「チームコンパス（デジタルパス）」に統合されており、現在、急性期病院での導入が進行中です。今後は、大学と急性期病院とが共同で、デジタルパスを用いた褥瘡ケアの有効性を評価する予定です。

研究紹介

・患者状態適応型パス（PCAPS）コンテンツの開発

サービスエクセレンス総括寄付講座研究会に参加している、3大学と10病院が共同で多くのコンテンツを開発してきました。褥瘡コンテンツは専門性の高い内容であり、認定看護師が中心となり開発し、多施設の病院の医師や薬剤師が内容を検証しています。



© 2021 東京大学 サービスエクセレンス総括寄付講座

・急性期病院での「褥瘡局所管理コンテンツ」導入と評価

現在、急性期病院では褥瘡局所管理コンテンツの導入と運用について検討しています。このコンテンツの導入後、参加施設での褥瘡の治癒促進を含む有効性の評価を実施する予定です。

講座テーマ紹介

- ・臨床知識の構造化「患者状態適応型パス」とは
- ・看護DXのための標準看護用語-看護実践用語標準マスターについて
- ・ガイドラインに基づく褥瘡ケアの実践を目指した情報テクノロジーの活用

アピールポイントなど

- ・質の高い褥瘡ケアを実施するためには、患者の褥瘡状態とその推移を可視化し医療チームで情報共有する必要があります。新たに開発した褥瘡局所管理のコンテンツが、チーム医療の質に貢献できることを期待しています。
- ・「チームコンパス（デジタルパス）」の導入により、多くの施設で看護記録にかかる超過勤務時間が削減され、経済的な効果も認められています。現在、県内で「チームコンパス」の導入を検討している施設や、看護のデジタル変革（DX）に興味のある方々からのご連絡をお待ちしています。



健康と生活習慣・予防・臨床判断力

看護学科

會田 みゆき 准教授

【研究分野】 生活習慣病予防、糖尿病看護、看護教育方法

【キーワード】 セルフケア教育・健康教育、臨床判断能力育成教育

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=115ai>



研究概要

生活習慣病予防、生活習慣病の中でも増加が著しい糖尿病の一次・二次予防のためのセルフケア行動支援について研究しています。特に、食生活、身体活動における生活習慣の改善および継続を支援するための教育的介入のあり方について研究しています。

また、看護実践につながる臨床判断能力育成のための教育プログラムの開発に取り組んでいます。実践につながる学びを追究しています。

研究紹介

- 1.生活習慣改善のための健康教育に関する研究
 - 「勤労男性に対する身体活動促進を目指した行動化への支援」
 - 「糖尿病予防のための肥満者における運動の習慣化」に関する研究
 - 教育プログラムの作成および行動化・行動変容の評価
 - 「大学生の健康度および生活習慣」に関する研究
- 2.臨床判断能力を高める教育の研究
 - 「視線分析を用いた多重課題における臨床推論力を高める教育プログラムの開発」
 - 臨床で遭遇する多重課題場面での学習者の情報獲得と思考過程の特徴の明確化（視線分析を活用）⇒シミュレーション教育プログラムの開発
- 3.家族参加型アドバンス・ケア・プランニング（ACP）に関する研究
 - 地域資源を活用した住民による 家族参加型のACP研修会の企画、実施、評価

講座テーマ紹介

- 生活習慣病予防に関連した講座
 - 「生活習慣と健康－健康づくりのための食事・身体活動」
 - 「認知機能と生活習慣病」
 - 「夏バテ予防－栄養と健康」など
- 多職種連携に関連した講座
 - 「多職種連携基礎研修」
- 家族参加型アドバンス・ケア・プランニング研修

アピールポイントなど

市民向けの講座は、高校生から高齢者まで、年代を問わず実施しております（高校の保健講座、未来大学、地域コミュニティでの講座など）。一般の方の生活習慣病予防意識を高め、健康づくりの支援をしたいと考えています。



寝たきり患者が車椅子シーティングを活用するための看護援助方法

看護学科

青森 広美 准教授

【研究分野】 車椅子シーティング、基礎看護学

【キーワード】 車椅子シーティング、寝たきり患者、動作分析

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=285aomo>



研究概要

現在の日本において、一個人として自立して社会生活を営むことができる「健康寿命」と、生が尽きる「生命寿命」のギャップは約10年あり、その間を寝たきりで過ごす高齢者も少なくありません。寝たきりであることは、患者の「生きがい」、能力の維持、社会とのつながりを削ぎ、患者の「生活の質」に大きく影響します。寝たきりで過ごしている患者の医療処置や看護援助をベッド上だけではなく、安楽に車椅子上で実施できるという変換ができれば、患者がベッドから離れる時間を増やすことができます。このことが患者のQOLの向上に寄与すると考え、車椅子上での看護援助に関する研究に取り組んでいます。

研究紹介

・ベッド上、車椅子上での看護援助時の動作分析

模擬患者にて、ベッド上、車椅子上の患者への看護援助の負担を分析した。看護師の背部に、無線3軸姿勢センサを配置し、センサ間の相対角度から、「腰痛につながる脊柱の傾斜やねじれ」の程度を比較した。

・車椅子シーティング中に安全に看護援助を受けるためのガイドラインを作成中。



講座テーマ紹介

- ・患者／援助者に負担の少ない日常生活援助技術
- ・車椅子での生活への介助
- ・意思表示が困難な患者とのコミュニケーション

アピールポイントなど

車椅子シーティングに精通した理学療法士と共同研究をしています。先進的な車椅子シーティング技術を持つカナダや欧米の現状についてもお伝えします。



周産期・小児医療における子ども・家族中心のケアの実践 および協働意思決定に関する研究

看護学科

浅井 宏美 准教授

【研究分野】 助産学、母性看護学、新生児看護学

【キーワード】 周産期、新生児看護、Family-Centered Care; FCC

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=146asa>

研究概要

近年、周産期医療において、家族は子どものケアに関わるチームの一員として、医療者と**良好なパートナーシップ**を築くこと、**患者・家族と医療者の協働意思決定**が重要視されています。これらの実践をより促進・普及していくために、臨床の看護職の方々と共に実際の臨床に生かしてゆくにはどうしたらよいかという視点を大切にして、研究に取り組んでいます。また、周産期医療に従事する看護職対象のセミナー、中学生・高校生対象の性教育や新生児の看護に関する出張講座などの教育活動を行っています。

研究紹介

1. 周産期における子ども・家族中心のケア(Family-Centered Care; FCC)に関する研究

- 1) FCCの理念に基づくケアの評価尺度の開発
- 2) 周産期・小児医療におけるFCCの概念分析
- 3) 新生児集中治療室におけるFCCを促進する個人的・組織的要因の探索

2. 多職種連携・協働意思決定に関する研究

- 1) 新生児医療に携わる医療従事者向けの教材開発
 - ・DVD『重篤な新生児の医療をめぐる協働意思決定』（医学映像教育センター制作、2016年）
- 2) 患者・家族と医療者の協働意思決定に関するワークショップ企画など
 - ・雑誌「小児看護」企画『特集 話し合いの環境を考えよう！ 家族を含めたチームカンファレンス みんなで育てる“コラボ”プロジェクト』（2018年6月号）
 - ・第27回日本小児看護学会テーマ『子どもの最善を守るためにチームで協働意思決定できる職場風土を創ろう』
 - ・第30回日本小児看護学会テーマ『患者・家族の意見を尊重した意思決定支援：ロールプレイを通して考える』

3. 病院、診療所、助産所における助産ケア方針に関する調査研究

4. 日本におけるヤングケアラー支援に関する研究

講座テーマ紹介

●中学校・高校出張講座（＋新生児モデルの抱っこ体験・妊婦体験演習）

1. いのちの教育・思春期の性（性教育）、新生児・未熟児の看護に関する講座
2. 看護職を志す中学生・高校生のための講座

●一般向け講座

1. 子育て中のママ・パパ対象の母乳育児・育児技術に関する講座・交流会など

●専門職講座（看護職対象）

1. 産科看護職のための学習会（地域における母子保健活動、産科医療補償制度と助産活動など）
2. 周産期・小児医療に関わる看護職のためのファミリーセンタードケア実践入門

アピールポイントなど

教育機関（中学校・高校）ご担当者様へ：上記の講座テーマの中でご要望がございましたら、出張講座のご依頼に対応可能です。日本の将来を担う生徒様のために、微力ながらお役に立てれば光栄です。
医療機関・自治体ご担当者様へ：上記の研究・講座テーマに関連した講座のご依頼に対応可能です。



セクシュアル・マイノリティのメンタルヘルス

看護学科

江口 のぞみ 准教授

【研究分野】 精神看護学、精神保健学

【キーワード】 メンタルヘルス、セクシュアル・マイノリティ、性別違和

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=287egu>



研究概要

多様性が尊重される社会の形成過程において、個人のセクシュアリティもまた多様性をもって尊重されることが重要な課題となっています。

セクシュアル・マジョリティとされるシスジェンダー（性別自認と割り当てられた性別が一致する人）やヘテロセクシュアル（自認する性別と異なる性別の人に性的指向をもつ人）ではないセクシュアル・マイノリティの人々がセクシュアリティに基づく社会生活上の困難を抱えることなく、その人らしく生きていくためにはどうすればよいか、保健医療福祉の場・教育の場で研究を行っています。

研究紹介

- 1) 性別違和を有する人のメンタルヘルスに関する研究
 - ・性別違和の緩和を目的とした治療が生活の質および精神的健康に与える影響
 - ・性別違和を有する人のベネフィット・ファインディング
- 2) セクシュアル・マイノリティのメンタルヘルスに関する研究
 - ・COVID-19感染拡大がセクシュアル・マイノリティの人々に与える影響

講座テーマ紹介

セクシュアリティに関する一般向けおよび専門職者向けの講座

- ・性の多様性（SOGIESC）
- ・セクシュアル・マイノリティ／LGBTQ+

アピールポイントなど

ダイバーシティとインクルージョンの考え方が浸透しつつある中、あらゆる組織において、すべての人が尊重され、活躍できる社会の仕組みづくりが求められています。

多様性が尊重される社会に向けて、当事者のグループや自治体、教育機関、保健医療福祉の関係機関と連携しながら取り組みたいと考えています。



埼玉県マスコット
「コバトン」「さいたまっち」



婦人科がん体験者のための支援モデルの開発

看護学科

大場 良子 准教授

【研究分野】 がん看護学（婦人科がんの心理とケア）、健康心理学

【キーワード】 婦人科がん、女性性、再適応、ピアサポート

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=117ooba>



研究概要

近年、子宮がん（頸がん、体がん）、卵巣がんなどの婦人科がんは増加傾向にあります。婦人科がんの治療後の後遺症の実態は、認知されにくく、適切な時期に適切な情報提供と心理社会的なケアは十分ではありません。当事者は女性ならではの問題（結婚、恋愛、妊娠、出産、性の問題、外見の問題など）を相談する機会がもてないため、孤独になりやすく、女性としての生きづらさを感じている場合があります。

本研究では婦人科がん体験者のインタビューやアンケート調査に基づき、女性ならではの問題に対する支援と、本来の自分を取り戻す支援を検討しています。

研究紹介

1. 婦人科がん体験者のための支援モデルの開発

女性特有がんのサポートグループとの連携による共同研究

- 1) 本来の自分を取り戻すための語りと交流の場
- 2) 婦人科がん特有の後遺症に対する支援
 - ・卵巣欠落症状（閉経に関わる問題）、排泄障害、リンパ浮腫、セクシャリティ等
- 3) 治療による外見の問題に対する支援（アピアランスケア）

2. 婦人科がん体験者のためのフェムテックの開発

後遺症に関わる生活上の困り事や不安を解決するために、当事者の体験に基づいた後遺症対策の製品開発を検討中。

講座テーマ紹介

1. 婦人科がん特有の後遺症への対処に関する講座
2. 治療による外見の問題と対処（アピアランスケア）に関する講座
3. 婦人科がん体験者のためのピアサポート（がん体験者向け）

アピールポイントなど

長年、女性特有がん（婦人科がん、乳がんなど）のためのサポートグループにおいて、体験者への支援に関わっています。また、患者会団体と共同研究にも取り組み、学会発表や講座企画、様々な視点からの支援プログラムを企画し展開しています。

婦人科がん体験者のためのフェムテックの開発も検討中です。企業との共同開発のお誘いもお待ちしております。



小児期発症の慢性疾患患者への成人移行支援

看護学科

櫻井 育穂 准教授

【研究分野】 小児慢性疾患患者と家族の移行期支援に関する研究

【キーワード】 成人移行支援、思春期・若年成人期、小児慢性疾患

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=136saku>



研究概要

近年の小児医療・看護の進展と社会福祉サービスの拡充により、小児期発症の慢性疾患患者の多くが成人年齢に達しており、移行（Health care transition）を促進させるための体制整備が求められています。

移行とは、「患者が成人期を迎えた際に、本来の持てる能力や機能を最大限に発揮し、その人らしい生活を送れることを目的としたプロセスを指す」と定義され、小児看護にとって患者と共に目指すべき重要な目標となっています。

私は、**思春期・若年成人期の患者主体の移行支援に関する医療者対象の生涯教育プログラムの開発**に関する研究を行っています。

講座テーマ紹介

- 移行支援に関する患者・家族および医療専門職者向けの講座
 - 【患者・家族向け】
 - ・「大人の医療へむけて何を準備すれば良いの？」：移行準備に関して
 - ・「移行支援って何？どうして必要なの？」：移行の必要性に関して
 - ・「親として子どもにどのように関われば良いの？」：親の役割に関して
 - 【医療専門職向け】
 - ・「移行支援の必要性と実際について」：思春期・若年成人期の患者の特徴を踏まえて
 - ・「移行プログラムについて」
 - ・「成人診療科における思春期・若年成人期にある患者への対応について」
- 各施設における移行プログラムの作成・運営・普及に関する助言、資料作成等
 - ・移行プログラムの作成、支援者養成テキストの作成等への助言
 - ・チーム作り・多職種連携に関する助言
 - ・事例検討における助言
- 移行に関する臨床研究への助言、国内学会発表・論文作成におけるサポート

アピールポイントなど

- ・2009年よりガイドブック及びチェックリスト等を作成し、看護師への生涯教育講座を行っています。
(思春期看護研究会：<https://san-j.info/index.html>にて「看護師、医療スタッフのための「移行期支援ガイドブック」第2版」を収録。フリーダウンロード可能)
- ・日本小児科学会、日本小児リウマチ学会の移行支援に関するWGに参加させていただいています。



地域在住高齢者の「通いの場」を活用したフレイル予防対策

看護学科

柴田 亜希 准教授

【研究分野】 公衆衛生看護学、地域看護学、公衆衛生学
 【キーワード】 フレイル、通いの場、ヘルスプロモーション
 【URL】 <https://researchmap.jp/shibata-aki/>



研究概要

急速な高齢化が進展する我が国において、高齢者の健康増進を図り、健康に長生きできるよう健康寿命を延伸することが重要な課題となっています。高齢者は、身体的脆弱性や複数の慢性疾患、認知機能や社会とのつながりの低下といった、多様な課題と不安、いわゆるフレイル状態になりやすいという特徴がある反面、フレイルは改善することが可能でもあります。フレイル予防対策を推進するにあたり、健康な高齢者も含めた幅広い対象にアプローチすることが重要であり、そのため近年広がりを見せている「通いの場」を活用した取組みに期待が寄せられています。

「通いの場」活動など、住民が主体となっていく健康づくりを支援することにより、誰もが安心して暮らせる地域づくりの推進に寄与できるような研究に取り組んでいます。

研究紹介

1. 「通いの場」活動の健康寿命延伸への寄与に関する研究

KDB（国保データベース）を活用した、「通いの場」における活動が骨折や要介護状態への進展といった健康寿命に及ぼす影響の検討

2. フレイルの早期介入支援の検討

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査を活用した、フレイルの社会的側面からみた介入可能な要因の検討

3. 「通いの場」の継続運営のための課題解決に向けた支援

インタビュー調査による、「通いの場」が抱える運営上の課題の明確化と課題を解決するために必要な支援の検討

講座テーマ紹介

- ・住民の健康づくり活動の評価
- ・対人支援スキルの獲得に向けた専門職向けの講座

アピールポイントなど

地域を取り巻く環境の変化とともに、健康課題も複雑化・多様化する中、すべての人が安心して暮らせることを目指して、地域住民の健康づくりに関する研究を行っています。そして、地域住民や地域で活躍する支援者の皆様に役立つような実践的な研究を目指しています。

自治体の健康づくり推進協議会の委員や健康増進計画のオブザーバーとして関わらせていただいております。



看護学科

渋谷 えり子 准教授

【研究分野】 看護代替療法、ハンドマッサージを活用したセルフケアや介護支援
 【キーワード】 ハンドマッサージ、リラクゼーション、介護支援、コミュニケーション
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=112shibu>



ハンドケア（触れるケア）の活用

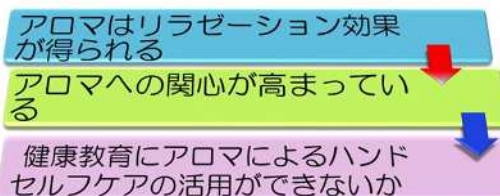
研究概要

患者様への安楽なケア提供のために、意図的タッチやハンドマッサージなど看護技術の研究を行っています。これら看護技術を看護教育に生かす工夫や、一般の方々の活用方法についての研究と、ハンドマッサージを活用したハンドケア（触れるケア）について、認知症患者家族を支援するための研究を行っています。

研究紹介

1. 看護技術としてのハンドマッサージの活用に関する研究

リラクゼーション効果や患者との関係形成にも効果のあるハンドマッサージの看護基礎教育方法に関する研究。



2. セルフハンドマッサージに関する研究

女性を対象に、セルフハンドマッサージを実施し、その効果としてのリラックス度やストレス度に関する研究。（右表の結果参照）

セルフハンドケア前後のJUMACL(元気度)結果n=26

ストレス度	実施前	実施後	t検定
低い(10以下)	0名	0名	
やや低い(11~16)	0名	12名	
普通(17~30)	13名	12名	
やや高い(31~36)	8名	2名	
高い(37以上)	5名	0名	
平均値±SD	30.5±5.38	32.0±5.29	p=0.049 *

*p<0.05

3. ハンドマッサージを取り入れた認知症高齢者を介護する家族支援プログラムの開発

病院や施設では、認知症患者との関係性維持にタッチやハンドマッサージが活用されている。在宅で介護している家族が効果的なハンドマッサージを実施できるための教育プログラムを構築するための研究。

講座テーマ紹介

- 更年期女性を対象としたハンドマッサーやストレス緩和に関連した健康講座
- 高齢者の介護に関連した家族のための講座 など

アピールポイントなど

ハンドマッサージを活用したハンドケアについての研究を続けています。その結果を生かし、ハンドケアやアロマを活用したセルフケアについての健康教育や認知症患者様を介護している家族支援のための講座を担当してきました。今後は、在宅で介護をしている方に、ハンドケアの効果と活用法を知ってほしいと思います。家族介護の講座、研修会など協力させていただきますので、よろしくお願いします。

新たな看護技術教育方法の検討

看護学科

新村（しんむら）洋未 准教授

【研究分野】 看護技術、看護技術教育

【キーワード】 看護基礎教育、看護技術

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=105shin>

研究概要

看護実践に必要な看護技術の習得は、看護職としての必要不可欠なものです。一方、医療技術の高度化などにより、必要となる技術も変化しています。そのため、看護職は生涯を通して自律的に最新の知識・技術を学び続ける必要があります。

看護学生が看護技術に関する知識・技術を向上するだけでなく、卒業後においても主体的に自己研鑽を積み、自己を成長させていくことができるようになるためには、看護技術の学び方を習得することが重要です。そこで、看護技術の深い理解につながる「気づき」を引き出しながら、学び方を習得する十分な教育設計に基づいた新たな看護技術教育の方法を検討しています。

研究紹介

- ・「学習者中心の教育」を実現する看護技術教育プログラムの開発と評価

採血技術に焦点をあて、「学習者中心の教育」をコンセプトに、知識・技術だけでなく、技術習得の学び方の習得を目標にした教育プログラムの開発と評価に取り組んでいます。

「学習者中心の教育」

ゴール	・ 内発的動機づけと学習への愛 ・ 自己調整スキルの発達 ・ 転移を含む、知識やスキルの習得 ・ 協同スキルの発達
教授方法	・ 学習者に応じて学習ペース、方法、内容、評価をカスタマイズ ・ 学習者が学習ゴール、方法について意思決定 ・ 仲間との協同を通じて学ぶ ・ 自己省察、自己評価を重視

講座テーマ紹介

- ・ 高校生に対する看護師の魅力を伝える講座
- ・ 看護技術に関し、自律的に学ぶ方法を仲間とともに考える講座

アピールポイントなど

埼玉県看護協会開催の現任者研修の講義、埼玉県内の病院における看護研究に関する講義と助言などを担当させていただいています。

また、看護基礎教育に使用するテキストの分担執筆をしています。



訪問看護ステーション新採用者育成のための支援

看護学科

武田 美津代 准教授

【研究分野】 訪問看護ステーション支援、リラクゼーション（マッサージ、セルフケア）
 【キーワード】 訪問看護師養成、新採用者、在宅療養、看護技術（褥瘡・ストーマケア）
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=104take>



研究概要

県内の訪問看護ステーションの新採用者（新卒者および既卒者）は、訪問看護に関する専門知識や技術不足の不安を抱えながらも訪問看護に興味関心を持って勤務しています。しかし、新採用者に対して訪問看護ステーションごとに必要な教育プログラムを計画実施するのは困難であるため、新採用者が訪問看護を継続できるように**半年間の「訪問看護師育成プログラム」**の企画運営に携わりました。

同じプログラムで年に2回開講しており、各自で行うe-learningと集合研修で構成されています。研修で得た知識や技術を勤務の中で実践しながら理解を深め、一人前の訪問看護師として成長できるよう支援しています。

研究紹介

1. 新卒者等訪問看護師育成プログラム

埼玉県訪問看護ステーション協会と連携し、**育成プログラム冊子**を作成して新採用者を支援しています。

- 1) 講義内容：ポートフォリオ、訪問看護の制度、サービス提供の仕組み、リスクマネジメントなど
- 2) 技術研修：在宅医療技術（栄養管理、呼吸管理、排泄、採血など）
- 3) 事例検討：受講生全員が訪問事例について対象理解や訪問看護の実践を振り返り共有



2. 育成プログラム受講者の状況と支援

新採用者の多くが既卒者で、病院勤務を経て訪問看護に興味をもっています。子育て中の方が多く、自宅の近くに訪問看護ステーションがあることや夜勤がないことも訪問看護を希望する理由になっています。しかし、看護師経験があっても訪問看護の専門的知識や技術不足に不安をもつ者が多く、同僚や管理者（指導者）の支援を必要としています。集合研修では業務を離れて新採用者が同期として学べたり、事例検討では多角的な視点から対象理解のヒントを得たりしています。

育成プログラム冊子には研修や学習のスケジュール、実務の目安、技術評価、面談の機会などを提示し、受講者だけでなく管理者にもサポートの視点を示しています。自ら学習進捗を確認できる、新採用者の状況把握できるなど計画的な支援につなげています。

講座テーマ紹介

- ケーススタディ**など、実際の看護を振り返り対象者の理解を深めたり、看護を追究したりできるような検討会
- 原理原則を再確認しながらの**看護技術に関する研修**（清潔や排泄ケア、創傷処置など）の実践や検討会

アピールポイントなど

看護に不安がある方に向けた研修プログラムや看護技術の研修など、学生への指導経験と皮膚・排泄ケア認定看護師の経験から一緒に支援内容を検討したいと考えています。



看護学科

辻 玲子

【研究分野】

【キーワード】

【URL】

高齢者虐待の予兆を察知し虐待に至らしめない 外来看護支援モデルの開発

准教授

高齢者虐待予防、介護者支援、認知症ケア、認知機能維持・向上、多職種事例検討

高齢者虐待、予兆、外来看護、予防、介護者支援、看護支援モデル

<https://researchmap.jp/twin-brother/>

研究概要

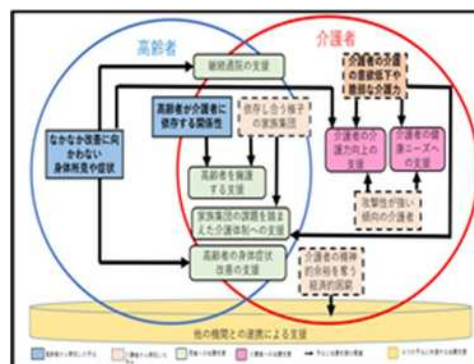
公表されている件数が高齢者虐待の実数ではなく、顕在化しない高齢者虐待、隠されている高齢者虐待が、その何倍・何十倍にも存在するといわれ、確認されている高齢者虐待は氷山の一角であるといわれています。そこで、病院や診療所の外来に通院する高齢者を対象に、病院や診療所の外来看護師が、本来の受診目的である診療や看護を提供する中で、高齢者の家庭生活に潜む高齢者虐待の目を摘むために、高齢者虐待の予兆を捉え、予防も含む看護支援を提供し高齢者虐待に至らしめないようにすることを目的に、外来看護支援モデルを開発する研究を行っています。

研究紹介

インタビュー調査より明らかになったのは、外来看護師が察知する高齢者虐待の予兆は、高齢者から察知した

【なかなか改善に向かわない身体所見や症状】【高齢者が介護者に依存する関係性】、介護者から察知した【介護者の介護の意欲低下や脆弱な介護力】【介護者の精神的余裕を奪う経済的困窮】【攻撃性が強い傾向の介護者】【依存し合う様子の家族集団】の6つでした。高齢者虐待に至らしめない外来看護支援は、[通院継続の支援] [高齢者の身体症状改善の支援] [高齢者を擁護するための支援]

[介護者の介護力向上の支援] [介護者の健康ニーズへの支援] [家族集団の課題を踏まえた介護体制への支援]、[他の機関との連携による支援]の7つでした。これらの関連から「高齢者虐待の予兆を察知し虐待に至らしめない外来看護支援モデル」を構築しました。

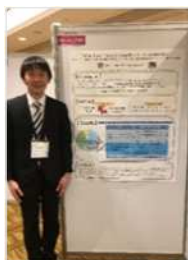


講座テーマ紹介

- 高齢者虐待事例に過去に遭遇したことがない外来看護師が、高齢者虐待の予兆を察知するための高齢者と介護者に対するアセスメントを修得するための研修
- 高齢者虐待予兆察知後に予防的看護支援が実践できるようになる研修
- 元気高齢者対象「認知機能と生活習慣病」「認知症予防」「認知症を知ろう」
- 介護を考える講座：介護で出くわす問題を学び、認知症介護を楽にする方法を紹介
- 認知症に関連した多職種連携の講座、病院・外来での看護倫理についての講座

アピールポイントなど

高齢者大学（埼玉未来大学）や様々な自治会で、認知症の知識・予防方法、認知症と生活習慣病の関連についてや認知症介護を考える講義を行っています。また、日本認知症ケア学会 関東1地域部会委員として、よりよい認知症ケアを行う為に、地域の専門職と一緒に事例検討会を実施して、多職種連携実践を検討しています。加えて、多様化するケアラーの中でも高校生ヤングケアラーに着目し、その支援者間連携モデルの構築に取り組んでいます。



小児がん患児をもつ親のレジリエンス向上のための ケアモデルの開発

看護学科

辻本 健

准教授

【研究分野】

小児がん、ケアモデルの開発、概念構築

【キーワード】

小児がんをもつ親、レジリエンス、ケアモデルの開発

【URL】

<https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=271tsu>

研究概要

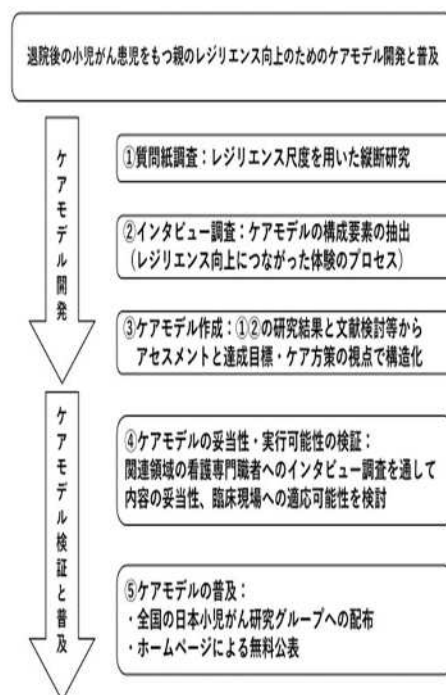
小児がん患児が健やかな社会復帰を果たすため、退院後その子どもを支えていく親に対するサポート体制を整えることは急務です。

小児がん患児をもつ親が逆境の体験に立ち向かったり、克服したり、逆境の経験によって強化されたり、変容させる能力を向上できるケアモデルの開発と普及に関する研究を行っています。

研究紹介

退院後の小児がん患児をもつ親のレジリエンスの概念の構造をモデル化するため、国内外の文献より小児がんをもつ両親のレジリエンスの概念分析を行い、本概念分析より既存の尺度から質問紙調査を作成し、分析を行いました。その結果、退院後または外来通院中にレジリエンスを高めることができればPTSDになる可能性が低くなることが検討されました。一方でレジリエンスとの関連がある出来事は明らかになりましたが、どの時期に、どのようなプロセスでレジリエンスが高まったのかは明らかにできず、探求していく箇所であると考えております。

今後は退院後の小児がん患児をもつ親のレジリエンス変化とレジリエンスの向上に影響を与えた体験のプロセスを質的に分析し、ケアモデルの開発と有用性の検証を行い、ケアモデルを全国に普及させることを目的とし研究を進めております。



講座テーマ紹介

小児がんの患児・家族等に関連した専門職者向けの講義

アピールポイントなど

小児専門病院での臨床経験を活かし、小児がん患児・家族への告知、小児がんの長期入院に伴う環境整備、小児がんの妊孕性に関する様々な小児がんの看護研究を行ってきました。今後、課題が山積している小児がん分野の研究を行い、看護を発展させるためのエビデンス構築の看護研究を行っていきたいと考えております。



看護学科

服部 真理子 准教授

【研究分野】 公衆衛生看護学、地域看護学

【キーワード】 保健師教育、健康行動、心の健康

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=295hatto>

保健師の育成と健康行動について

研究概要

保健師は基礎教育で資格を取得、就職後も専門職として生涯学習することを求められます。また、社会の変化はこころとからだの健康、健康行動に関係します。保健師教育と健康や健康行動に関心をもち、学内外の研究者と協力して2021年度は下記の研究を行いました。

研究紹介

研究活動について

2021年度は、学内外の研究者と協力して学術集会で下記の発表をいたしました。

1. 関美雪,服部真理子,石崎順子,佐藤玲子,上原美子,柴田亜希,伊草綾香 :
父親の出産前教育参加の実態とストレス対処との関係 (第68回小児保健協会学術集会)
2. 服部真理子,小谷野康子,金子真理子 :
壮年期における新型コロナウイルス感染症の影響とセルフコンパッション、心の健康の関連について (第41回日本看護科学学会学術集会)
3. 石崎順子,大久保菜穂子,服部真理子,柴田亜希,伊草綾香,関美雪 :
成人女性における健康問題の認知・理解度と運動・スポーツ実施との関連 (第80回日本公衆衛生学会総会)
4. 服部真理子,石崎順子,柴田亜希,伊草綾香,関美雪 :
首都圏在住の壮年期の新型コロナ感染症予防行動と個人属性及びSOCとの関連 (第80回日本公衆衛生学会総会)
5. 石崎順子,服部真理子,関美雪,伊草綾香 :
新任保健師研修参加者における専門的能力の獲得 :
「標準的なキャリアラダー」による評価 (第一報) (第10回日本公衆衛生看護学会学術集会)
6. 服部真理子,石崎順子,関美雪,伊草綾香 :
新任保健師研修参加者における専門的能力の獲得 :
現任教育体制・就労環境との関連 (第二報) (第10回日本公衆衛生看護学会学術集会)
7. 関美雪,服部真理子,石崎順子,伊草綾香 :
卒業時の到達目標の学生自己評価による保健師教育の評価 (第10回日本公衆衛生看護学会学術集会)

講座テーマ紹介

2021年度は、埼玉県令和3年度新任保健師研修とPDCA研修のファシリテーター、越谷市保健師階層別研修の講師をさせていただきました。

アピールポイントなど

2021年度は、埼玉県国民健康保険団体連合会保健事業支援・評価委員会委員、さいたま市健康づくり・食育推進協議会委員をさせていただいています。



要介護高齢者の入院治療時および治療後の回復支援

看護学科

丸山 優 准教授

【研究分野】 老年看護実践

【キーワード】 入院治療、要介護高齢者、回復

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=125maru>



研究概要

要介護高齢者の入院治療に際して、「動けなくなった」「認知症が進んだようだ」という言葉を聞きます。もともと予備能力が低い要介護高齢者は、入院に至った疾患の影響だけでなく、入院治療に伴う安静によって心身に様々な弊害が起こります。

すべて元通りに回復することは不可能ですが、適切なケアの提供によって弊害を減らし、その人らしい生活の継続につなげられます。病院や介護保険施設で働く看護職にとっては自明の理ですが、その実現には効果の見えにくさ、安静保持や事故予防との兼ね合い、組織的に取り組む必要性など様々な困難が存在します。これらの課題をクリアすべく研究に取り組んでいます。

研究紹介

1. 急性期治療後の後方支援施設への転入時ケア実践モデルの開発

急性期病床から医療療養病床に移行した高齢患者に適用する「転入時ケア実践モデル」を開発しました。（右図、URL参照）

医療療養病床での実践に基づいて、モデルを構築しましたが、地域包括ケア病棟や介護保険施設等、急性期治療後の高齢者を受け入れる施設に適用できる可能性があると考えています。モデルに基づいた実践による成果を明らかにすることに取り組んでいます。



<https://ci.nii.ac.jp/naid/120006414071>

2. 急性期病院における高齢患者のmobility（動き）促進に向けた実践プロトコルの開発

急性期治療のために入院する高齢者のmobilityを促進する病棟看護実践プロトコルを開発しています。現在進行中です。

身体可動性の保持や回復は生活の継続に重要な要素ですが、入院治療を受ける高齢者は不動に陥りやすく、看護師は安静保持や事故予防の観点から積極的な実践となりにくい現状があります。本研究では、病棟看護師の日々のmobilityの積極的な把握によるアセスメントから実践に結びつけるプロトコルを開発し、ADLの維持回復、転倒やルート類抜去等の事故の減少、身体拘束の最小化を図ることを目指しています。

講座テーマ紹介

- 要介護高齢者に関わる病院、介護保険施設の専門職者（看護職・介護職他）を対象とした講座…病院・施設の現状に合わせて演習を組み合わせた講座の実施も可能です。

アピールポイントなど

要介護高齢者にとって生活のターニングポイントとなる急性疾患への罹患や入院治療の機会におけるケア方法を考える機会になればと思います。



慢性の病いとともに生活する人のセルフケア支援

看護学科

山岸 直子 准教授

【研究分野】 糖尿病とともに生活する人のセルフケア支援、アセスメント、ACP
 【キーワード】 慢性の病い、糖尿病、セルフケア、自己管理、アセスメント、高齢者、独居、ACP
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=113yama>



研究概要

糖尿病や高血圧などの「慢性の病い」とともに生活をする人は、健康維持のため様々な「セルフケア」が必要となります。「セルフケア」とは、‘自分自身のために’、‘自分で行う’ことを意味しますが、このようなセルフケアを生活の中で継続的に行うことは容易なことではありません。さらに、セルフケアが困難となりやすいひとり暮らし高齢者や高齢夫婦のみで生活している人も増加し、生活状況に合わせたセルフケア支援が求められます。

そのため、その人の生活状況に合わせて、生命や健康の維持のみならず生活の楽しみも維持しながら自分らしく生きることを目指した「セルフケア支援」に関する研究に継続的に取り組んでいます。

研究紹介

- 糖尿病とともに生活をする人を対象とした調査と、その人々を支援している看護師を対象とした調査に取り組み、双方の視点を統合した多角的・包括的な支援を検討しています。
- 独居の高齢2型糖尿病患者の自己管理の実際と支援ニーズ
 –同居者のいる高齢2型糖尿病患者との比較–
- 独居の高齢2型糖尿病患者に対する熟練看護師の看護支援
- 高齢糖尿病患者のセルフケア支援のためのアセスメントツールの開発
- 人生の最終段階における医療・ケアについて、本人が家族等や医療・ケアチームと繰り返し話し合う取り組み（アドバンス・ケア・プランニング）の推進に向けた共同研究にも取り組んでいます。
- 「もしも」の時の医療・ケアの話し合い行動意図尺度を用いた家族参加型アドバンス・ケア・プランニング（ACP）研修の効果

講座テーマ紹介

- 糖尿病・高血圧・慢性腎臓病などの生活習慣病の予防や健康維持を目指した行動促進（行動変容）に関する講座
- 高齢者やひとり暮らし高齢者の健康や生活の楽しみの維持を目指した支援に関する講座
- 健康な人・慢性の病いをもつ人へのアドバンス・ケア・プランニング推進に関する講座

アピールポイントなど

これまでの研究では、主に糖尿病とともに生活をしている人々からの「病いの語り」を伺い、どのような体験や思いを抱きながらセルフケアに取り組んでいるか、求められる看護について明らかにしてきました。病いとともに生活をする人々の視点に立ち、生活の楽しみの維持を大切にしたセルフケア支援に取り組んでいます。

身体活動・シミュレーション教育

看護学科

山本 英子 准教授

【研究分野】 身体活動、助産師・看護師教育、規範意識

【キーワード】 行動変容、親子体操、育児肯定感、シミュレーション教育、模擬産婦

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=144yama>



研究概要

- 身体活動（生活活動＋運動）は、糖尿病、循環器疾患、がん、認知症などのリスクを低減し、メンタルヘルスや生活の質の向上などの効果が認められています。子どもから高齢者まで、多くの人が無理なく日常生活の中で身体活動を実施する方法の提供や環境をつくることが求められています。**とくに、女性のライフステージに応じた身体活動に焦点をあてて、研究を行っています。**
- 妊娠・分娩のハイリスク化、分娩数の減少、さらに、感染症流行下において、臨地実習経験の不足が懸念されています。そのため、助産師・看護師教育において、臨床判断力や実践能力などの向上を目指したシミュレーション教育が重要であり、その実践と研究を行っています。

研究紹介

1. 乳児をもつ母親の育児肯定感を高める親子体操プログラムの開発とその効果検証

- － 乳児とその母親が日常生活で実施しやすい親子ふれあい体操プログラムを作成しました。
- － プログラム参加による母親への効果が確認でき、母子関係や母親の心身健康状態を良好に維持させる可能性も示唆されました。

●親子体操の開発

子どもの成長発達にあわせたベビーマッサージ・エクササイズや母子のふれあいと産後の身体を考慮した母子体操を歌の活用など継続しやすい工夫をし、同一対象者に3回実施

●効果検証

唾液アミラーゼ値と不安感が有意に低下、快感情やリラックス感が有意に向上
プログラム継続理由は、母子関係や母親自身への効果の実感、習得の容易さなど



2. 模擬産婦やICTなどを活用したシミュレーション教育

看護師・助産師教育におけるシミュレーション教育、模擬産婦養成などの研究を実施しています。



講座テーマ紹介

- ベビーマッサージ・エクササイズ
- 親子ふれあい体操
- 育児期ママのエクササイズ
- 更年期女性のエクササイズ など

アピールポイントなど

埼玉県看護協会助産師職能委員会、県内高等学校・学校評議員会などに参加させていただいております。



看護学科

小川 千恵子 助教

【研究分野】 精神看護学

【キーワード】 精神看護学、精神科、メンタルヘルス、人材能力の可視化

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=310ogawa>

メンタルヘルスと精神科医療の課題

研究概要

人の健康と、人が生きる社会の健全な発展のためにメンタルヘルスは欠かせません。自分自身の、そして大切な人のこころの健康に関心を持ち、メンタルヘルスと精神科医療がより身近なものになることを願っています。

学校保健の分野から子どもたちのメンタルヘルスに関する研究、地域住民のいのちを守る活動の一環として自殺予防に関する研究を行っています。また、誰もが安心して精神科医療にアクセスできるようになるためには、精神科医療の質を高める必要があります。患者ケアを行う看護師の育成は重要な課題ですが、個人の経験や勘に頼るような実践では、人材の育成はできません。そこで、精神科看護師の専門性を明らかにし、人材能力を可視化するための研究を行いたいと考えています。

研究紹介

- 発達障害グレーゾーン（境界域）の子どもの行動特性と臨床的特徴
- 地域住民の自殺予防に関する研究
- 精神科看護師の専門性に関する研究
- 精神科急性期病棟における看護量に関する研究
- 精神科病棟におけるリスク評価に関する研究

講座テーマ紹介

- ゲートキーパー養成研修

自殺予防のためには、自殺のリスクにつながるような悩みに①気づき、声をかけ、②話を聴き、③必要な支援につなげ、④見守る、ゲートキーパーの役割が重要です。ゲートキーパーに必要な知識と適切な対応のための技術を学んでいただき、地域の自殺予防に貢献します。

- 高校生を対象とした出張講座

看護の仕事や大学での授業内容の一端を紹介し、看護職の活躍の場や仕事の楽しさ、興味深さといった看護の魅力をお伝えします。

アピールポイントなど

2022年度より、埼玉県救急医療審査会委員、また、ゲートキーパー養成研修の講師を含めた吉川市自殺防止対策事業に携わらせていただいております。

主に精神科の救急医療に携わった経験、また災害派遣精神医療チーム（DPAT）の隊員として訓練を受けた経験などから、メンタルヘルスと精神科医療に関わる様々な分野での課題に取り組みます。また、臨床時代の教育担当・中間管理職経験から、精神科看護師の人材能力の可視化にも取り組みたいと考えています。



看護学科

金 さやか 助教

【研究分野】 慢性病看護、睡眠衛生、眼疾患患者の看護

【キーワード】 慢性病看護、ナルコレプシー、睡眠障害、過眠症

【URL】 <https://researchmap.jp/-1209>

ナルコレプシー患者の支援

研究概要

ナルコレプシー患者のQOL（Quality of life）向上につながる看護支援モデルの開発を目的として研究を行ってきました。

ナルコレプシーは日中の強烈な眠気の特徴とする過眠症です。個人により違いはあるものの、情動脱力発作（笑いや驚きなどの感情の動きに伴い生じる筋力の脱力）、入眠時幻覚や金縛りなどの症状が生じます。有病率は世界で2,000人に1人（0.05%）ですが、日本では600人に1人（0.16%）と、他国と比べて高いとされています。子ども・青年期の発症が多いことから学業や仕事への影響も大きく、患者のメンタルヘルスにも問題が生じやすいことは知られていますが支援には課題があり、その解決に向けて研究をしています。

研究紹介

現在まで

- 患者を対象とした実態調査
- 患者の困難さに焦点を当てたインタビュー調査
- 患者のQOLへの影響要因の検討

今後の予定

- 医療機関を対象とした支援実態調査
- 支援ツールおよび看護モデルの開発

講座テーマ紹介

●学校を対象とした睡眠衛生に関する講座

若年層で多くみられる睡眠の問題（睡眠不足、概日リズム障害、ナルコレプシーや特発性過眠症の概要）と学校生活への影響、学校での配慮などについてお話します。

対象（教員、生徒）にあわせた講演が可能です。

●一般の方を対象とした睡眠衛生講座

睡眠に関する一般的な知識、セルフケアについてお話します。

アピールポイントなど

睡眠は、健康や気分だけでなく労働生産性にも影響を与えることから、個人としても社会的にも重要なトピックといえます。研究としては過眠症に焦点を当ててきましたが、今後は、保健師・養護教諭・公認心理師としての知識を生かし、一般の人も含め、幅広い対象に対して、睡眠に関する健康教育の実施やメンタルヘルス支援を行いたいと考えています。

中絶ケア・シミュレーション教育

看護学科

斎藤 未希 助教

【研究分野】 ウィメンズヘルス、母性看護学、助産学
 【キーワード】 人工妊娠中絶、リプロダクティブヘルス&ライツ
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=292sai>



研究概要

- 日本では「人工妊娠中絶＝よくないこと」という認識が強いですが、中絶は女性のリプロダクティブヘルス&ライツ（RHR）を達成するための重要な選択肢です。
 これまで、中絶の中でも妊娠12週以降の中期中絶に焦点を当て、ケア提供者である助産師を対象とした研究を行ってきました。中絶ケアの質向上と、ケア提供者である看護職者の心理的負担軽減を目指しています。
- 近年の分娩件数の減少、COVID-19の流行による臨地実習の制限を踏まえ、ICTを活用したシミュレーション教育を行っています。

研究紹介

「中期中絶を受ける女性へのケアで助産師に生じる葛藤と折り合い」

助産師がケアで抱く葛藤に折り合いをつける現象とプロセスを明らかにしました。

「中期中絶ケアにおける助産師の感情尺度の開発と信頼性・妥当性の検討」

助産師がケアで抱く感情（陰性感情および陽性感情）を測定可能な尺度を開発し、信頼性と妥当性を検討しました。

講座テーマ紹介

- 中絶ケアに関する講座
- 中絶を受ける女性に関する講座

アピールポイントなど

- 助産師を対象とした「助産師の中絶への向き合い方」講座の経験があります。
- 2021年より日本助産学会のリプロダクティブヘルス・ライツ/アボーションケア（SRHR & Abortion care）プロジェクトに参加し、アボーションケアのためのベストプラクティスガイドラインの作成を行っています。
- <https://researchmap.jp/saito-miki> もご覧ください。



発達障がい児と親の支援・発達障がい児の看護

看護学科

瀧田 浩平 助教

【研究分野】 小児看護、発達障がい児、子どもの権利擁護

【キーワード】 小児看護、小児保健、発達障がい、子どもの権利擁護

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=291taki>



研究概要

発達障がいをもつ児の多くは身の回りの生活習慣を含めセルフケアに困難を示すことが多く、児本人によるセルフケアが困難もしくは不十分なときは家族が担っています。児が元々もっている生きる力を最大限活用し、社会的な自立や発達をしていくためにもセルフケア獲得へむけた支援は重要です。

発達障がい児とその親へのセルフケア獲得に向けた支援ならびに支援する看護師や支援者に関する研究を行っています。

1. 発達障がい児の看護に関する研究
2. オレムセルフケア不足理論に基づいた看護実践に関する研究
3. 子どもに携わる看護師の権利擁護実践能力に関する研究

講座テーマ紹介

- 子どもの健康・疾患に関連した講座
 - ・子どもの身体的特徴や発達など基礎的な内容
 - ・子どもに関連した代表的な疾患など
- 子どもの安全に関連した講座
 - ・子どもの事故予防や救急処置
 - ・子どもの感染予防
- 発達障がい児に関連した一般講座
 - ・発達障がい児の特徴や現状
 - ・発達障がい児との関わり方（養育者・看護師・施設スタッフ向け）

アピールポイントなど

放課後デイサービスや児童デイサービスなどで子どもの健康や疾患、看護技術等に関する講演・研修を行ったことがあります。発達支援施設のスタッフや利用する子どもの養育者などを対象に講演や研修等をお考えでしたらお声掛けお待ちしております。

また発達障がい児と家族の支援や看護に関する研究などもお誘いお待ちしております。



外国人住民支援・シミュレーション教育

看護学科

千葉 真希子 助教

【研究分野】 母性看護学、助産学、国際協力

【キーワード】 在留外国人支援、多職種連携、シミュレーション教育

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=275chi>



研究概要

●妊娠・出産・育児はどんな方にとっても重要なライフイベントとなります。外国人住民にとっても、日本で妊娠・出産・育児をする機会が増加する一方で、言葉や文化の相違等により妊娠や育児に影響を及ぼすリスクが指摘されています。誰もが安心して妊娠・出産・育児するために必要な母子保健サービスについて、自治体や外国人支援団体、専門機関等の多職種連携や支援体制の整備について研究を行っています。

●臨地実習が困難となる状況のなかで、臨地での母性看護学実習に近づけたシミュレーション教育（学内代替実習）を行うことで臨地実習経験の少ない学生に実習教育の質が担保できるよう、工夫と実践を行っています。

講座テーマ紹介

●母子保健サービス提供にむけた簡便なコミュニケーション、更なる情報提供

・多くの母子保健サービス提供者が外国人住民への適切な情報提供に課題や葛藤を抱えながらサービス提供をされているなかで、やさしい日本語などをはじめとするコミュニケーションや情報提供の更なる可能性についての検討など。

●国際協力についての出前講座等（国際協力出前講座/遠隔での講座も対応）

・国内外において、国際協力の必要性や身近な国際協力とはどんなことから始められるのか等についての情報や体験学習などに関するご提案等。

●シミュレーション教育（学内代替実習）

・臨地実習経験が少ない学生の代替実習実習における工夫や実践の検討等。



タイ Chiang Mai
Rajabhat University
出張講座



代替学内実習
の1シーン

アピールポイントなど

- 自治体や外国人支援団体の皆様に研究のご協力をいただいております。
- 日本・タイの小学校～専門学校、大学等への出張講座をさせていただいた経験があります。
- 国内外問わず、妊娠・出産・育児のライフサイクルをその人らしく過ごすための支援についてご相談させていただければ幸いです。



高齢者の生活の見通しをもった食支援向上のための NSTリンクナース育成に関する研究

看護学科

宮部 明美 助教

【研究分野】 成人看護学

【キーワード】 栄養管理、食支援、高齢者、看護師教育

【URL】 <https://researchmap.jp/akeahs>

研究概要

NST（Nutrition Support Team, 栄養サポートチーム）は栄養障害あるいは栄養障害リスクのある患者に対し、専門的なケアを提供しています。NSTリンクナースは病棟で必要な栄養管理の知識を有して看護技術を実践する病棟看護師の役割モデルとなり、病棟内で栄養障害患者をNSTへつなぐ機能があります。しかしリンクナースは病棟業務の一部として病棟看護師が任命され、数年で交代することが多いです。また、栄養管理に特化した教育を受けていない病棟看護師が担うため、その役割を引き受けた際、即座に役割モデルを果たすことが難しいです。

高齢者は身体的・社会的・精神的要因により容易に栄養障害に陥りやすいため、NSTリンクナースがNSTと病棟看護師をつなぎ、協働して高齢患者の退院後の生活を見通したアセスメントをすることで効果的に栄養障害の早期発見や予防につなげることができると考えます。

研究紹介

● 病棟看護師による退院後の見通しをもった高齢者の食支援尺度の開発

Akemi Miyabe, Mana Doi, Yuka Kanoya. Development of the ward nurses' discharge-oriented dietary support scale for older adult patients in Japan. Jpn J Nurs Sci. 2023 Jun 6:e12541. doi: 10.1111/jjns.12541.

● 病棟看護師とNSTをつなぎ、NSTリンクナース育成モデルの開発

- ・ NSTリンクナースの役割指標の作成：NST看護師を対象にしたインタビュー調査
デルファイ法による項目の精錬
- ・ NSTリンクナース育成モデルの検討・実施・評価

講座テーマ紹介

● NST活動の向上のための講座

- ・ NST専任（専従）看護師の役割
- ・ NSTリンクナースの役割
- ・ 病棟看護師の役割
- ・ 多職種連携

● 看護師の栄養管理・食支援に関する実践力向上のための講座

- ・ NSTや教育担当者が栄養管理や食支援に関する教育をする際のポイント

アピールポイントなど

日本臨床栄養代謝学会関越支部世話人をしています。
NSTで活動している方、あるいは栄養管理や食支援に興味のある方、看護師だけでなく多職種の方とも一緒に患者さまの退院後のQOL維持・向上に向けて取り組んでいけたらと思います。

慢性疾患をもつ子どものセルフケア能力獲得支援

看護学科

望月 浩江 助教

【研究分野】 小児看護学

【キーワード】 小児、慢性疾患、セルフケア、子育て支援

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=138mochi>

研究概要

慢性疾患をもつ子どもは、成長発達に伴い親が子どもに代わって行っていた病気のケアを子ども自身が獲得し、日常生活の中で実施していくことが必要になります。

慢性疾患をもつ子どもが自分自身で病気の管理を行っていく力（＝セルフケア能力）を獲得できるための支援について、研究しています。

研究紹介

●慢性疾患をもつ子どものセルフケア獲得支援に関する研究

慢性疾患(特に1型糖尿病)をもつ子どもがセルフケア能力を獲得していくために、親は子どもにどのような関わりを行っているのか、どのような困難があるのか、子どもはどのようにセルフケア能力を獲得していくのか、そのための支援について研究を行ってきました。

●慢性疾患をもつ子どもへの保育所での支援に関する研究

慢性疾患をもつ幼児期の子どもの保育所生活において、保育所看護職がどのように保育士や親と連携しながら子どものセルフケア能力高める支援をしているのか、また親のケア能力を高める支援を行っているのか明らかにし、保育所における慢性疾患をもつ子どものセルフケア能力を高める支援の看護方法モデルを開発していきたいと考えています。

講座テーマ紹介

- 慢性疾患をもつ子どものセルフケア能力を獲得への支援について
- 慢性疾患をもつ子どもの保育所・学校での支援について

アピールポイントなど

小児病棟での臨床経験から、慢性疾患をもつ子どもと家族への支援について研究を行ってきました。慢性疾患をもつ子どもがセルフケア能力を獲得していくための支援、慢性疾患をもつ子どもが保育所や学校で生活しやすい支援体制を構築するための研究に、取り組んで参りたいと考えています。



心のケアを担う支援者の在り方についての研究

看護学科

山田 牧子 助教

【研究分野】 苦悩に向き合うケアの現場での「こころ」のケアと倫理
 【キーワード】 スピリチュアルケア、利他的価値、サーバントリーダー、意思決定支援
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=313yamada>



研究概要

苦悩にある人を支える関係において、ともに考えることができるフラットな関係を作り出すリーダーシップに、利他的価値や奉仕（サーバント）という考え方がある。そのような資質を持ったなリーダーはコミュニティを作り出し、地域社会に影響を与えているとされている。そのようなマインドや行動がどのように生成されていくのか、東日本大震災で心のケアを継続して行っている宗教者からのインタビューをから検証する包括的研究を行っている。他者を思いやる思考やそのような行動に影響を与える個人的、状況的な要因について、分析し明らかにすることを試みている。

研究紹介

1. 東日本大震災で心のケアを行う宗教者の倫理的アイデンティティの形成について

東日本大震災の被災地でこころのケアを継続して行う宗教者のケアラーとしての倫理的アイデンティティ形成のプロセスについての研究。

2. 不登校の子供たちのスピリチュアリティとリカバリー

講座テーマ紹介

- 意思決定への力の共有について
- コミュニティを築くこと
- 学校に行けない子ども・家族の気持ち～不登校支援を考えるワークショップ～

アピールポイントなど

病院・施設・在宅・地域（災害ボランティア・不登校支援）での看護の経験のなかから、心のケア実践者の在り方について探求してきました。愛情と思いやりのあるケア提供者にはどのような姿勢が必要なのか、現場の方と一緒に考えていけたらと思っています。



専門職連携教育（IPE）の評価研究

看護学科

吉村 基宜 助教

【研究分野】 専門職連携

【キーワード】 専門職連携教育、多職種連携教育、尺度

【URL】 https://www.jstage.jst.go.jp/article/spujhcs/8/0/8_1/_article/-char/ja/



研究概要

近年、保健医療福祉の多様なニーズに対応していくために、各専門職の専門性だけでなく、職種間連携の重要性が増しています。しかし、IPEは発展途上であり、特に、評価研究においてはその実証性が課題として挙げられています。現在IPEの評価方法は様々であり、各教育機関の実情に合わせて独自に行われているものが多いです。そこで、汎用性の高い評価尺度を開発し、IPEプログラムの客観的な評価指標としての活用や、教育プログラムの改善を目的に研究に取り組んでいます。

研究紹介

既存の尺度や先行研究を参考に、IPEに必要とされる技術や態度、コンピテンシー等において共通する要素について検討し、5つの下位尺度と24の質問項目から構成されるIPE評価尺度（原案）を作成しました。※調査項目の詳細は上記URLの本研究の文献よりご覧になれます。

IPE評価尺度を用いて本学の学生を対象に調査・分析を行ったところ、下記の3因子11項目が抽出されました。今後は、この結果を元に更なる検討を重ねて、尺度の精練を図っていこうと思っております。

第1因子：協働的能力

第2因子：提言力

第3因子：組織形成力

		(N=367)			
		因子分析前		因子負荷量	
因子名	質問項目	1 下位尺度 $\alpha = .781$	2 $\alpha = .782$	3 $\alpha = .771$	
【第1因子】 協働的能力	他者に興味・関心を持つことができる	コミュニケーション	0.776	-0.154	0.019
	チーム活動に意欲的に参加することができる	協働的能力	0.645	0.112	0.026
	チームメンバーが集めた情報をメンバーと共有することができる	協働的能力	0.628	0.157	0.005
	チーム活動を通して、自分と他者の価値観の違いに気づくことができる	リフレクション	0.564	0.062	0.013
【第2因子】 提言能力	自分の考えを分かりやすく伝えることができる	コミュニケーション	-0.212	0.823	0.152
	自分の体験、考えを振り返り、言語化できる	リフレクション	0.126	0.747	-0.16
	課題解決に向けて、具体的な方法をチーム全体で検討することができる	協働的能力	0.246	0.563	0.023
	自分の意見を述べることができる	コミュニケーション	0.092	0.425	0.091
【第3因子】 組織形成能力	他者の考えを引き出す関わりができる	コミュニケーション	-0.01	-0.033	0.850
	チームが形成されていくプロセスを自分で振り返ることができる	リフレクション	-0.067	0.135	0.672
	他者の気持ちをつきとめることができる	コミュニケーション	0.241	-0.073	0.568
<因子間相関>		第1因子	第2因子	第3因子	
		第2因子	0.649	—	
		第3因子	0.530	0.589	—
		尺度全体 $\alpha = .870$			

講座テーマ紹介

・専門職連携に関連した講座「チームについて考える」

アピールポイントなど

【文献】

・吉村基宜, 田口孝行, 常盤文枝. 保健医療福祉系大学における専門職連携教育（IPE）評価尺度の作成. 保健医療福祉科学. 2019; 8 : 1-9.

【科研費】

・基盤研究C 専門職連携教育（IPE）評価尺度の因子構造および信頼性・妥当性の検討（研究代表者）

【所属学会】

・日本保健医療福祉連携教育学会



Fascia（ファシア）に関連する研究・開発

理学療法学科

今北 英高 教授

【研究分野】 基礎理学療法学分野

【キーワード】 Fascia、ファシアハイドロリリース、ファシアモデル開発

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=327ima>



研究概要

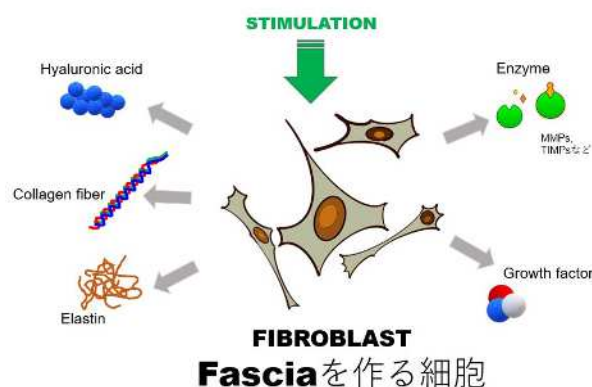
ようやく日本でも、fasciaという言葉がメディアでも取り上げられ、浸透してきました。世界的にはfasciaに関する研究が盛んに行われてきており、その構造や機能が運動器、特に“動き”と“痛み”、そして“美容”に大きく関わるようになってきています。身近でいえば、肩こりや腰痛症などの1つの原因とも言われています。また、動きと痛みといった医療関連だけでなく、小じわやたるみといった美容業界でも大変注目を浴びてきており、その研究開発は国内外問わず盛んに行われつつあります。

研究紹介

現在、臨床現場で活躍している医師、理学療法士、鍼灸師、柔道整復師の方々と症例を共有し、治療効果について日々研鑽しています。特に、医師が実施するファシアハイドロリリースに関しては治療効果が高く、学術論文にも掲載されているほか、海外の専門家からも注目されています。理学療法分野においても臨床の理学療法士と一緒に治療手技に関して、共同開発しています。

講座テーマ紹介

- ・ Fasciaの解剖生理学的意義
- ・ Fascial pain syndrome
- ・ ファシアハイドロリリース
など、ファシアに関する初歩的な理解から、
それに対する介入効果について講演可能です。



アピールポイントなど

2018年11月に、ドイツベルリンにて開催されましたファシアに関する国際会議『5th International Fascia Research Congress』にて、『Best Basic Science Abstract Award』を受賞しました。

2022年2月に、Fasciaに関する秀作ともいわれる洋書『Fascia: The Tensional Network of the Human Body』の第2改訂版にて、Chapter 7.23『Hydrorelease of Fascia』を共同執筆しました。

また、カズレーザーと学ぶ（日本テレビ系）、Medical Frontiers（NHK WORLD予定）にも出演。



呼吸・循環・代謝系障害への介入効果に関連する研究開発

理学療法学科

今北 英高 教授

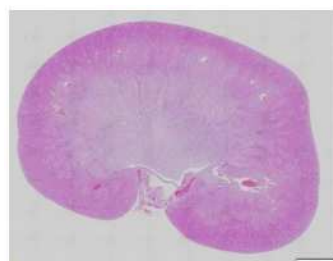
【研究分野】 基礎理学療法学分野
 【キーワード】 COPDモデル、心不全モデル、糖尿病モデル、腎障害モデル、肝障害モデル
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=327ima>



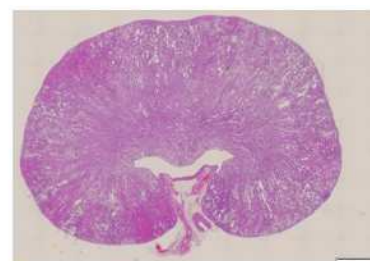
研究概要

呼吸・循環・代謝は、生きていく上で欠くことのできない組織・機能であります。私は主に、呼吸器疾患モデル、心不全モデル、腎障害モデル、肝障害モデル、血管閉塞モデル、横隔神経切除モデルなどから、その後に生じる生体反応や病態生理を分析したり、運動療法や物理療法、栄養療法、薬物療法などの介入における効果を検証したりしております。

2023年に加圧酸素ルームも本学に導入したので、酸素療法の効果なども分析していければと思っております。



正常な腎組織



腎不全モデルの腎組織

講座テーマ紹介

2020年から2022年に実施した実験課題のタイトルです。

- ・慢性腎不全モデルに対する軽度高圧酸素療法の検証
- ・心不全モデルラットに対する糖質摂取が心機能に与える影響
- ・糖尿病性心筋障害モデルラットを用いた高強度インターバルトレーニングが及ぼす効果
- ・肺気腫モデルラットに対するMild Hyperbaric Oxygen Therapyが骨格筋に及ぼす影響
- ・呼吸器疾患モデルに対する運動療法および加圧酸素療法の併用が筋機能へ及ぼす影響
- ・薬理的筋損傷モデルラットにおける筋再生への週齢別検討
- ・関節固定後の筋萎縮における分岐鎖アミノ酸摂取によるAkt/mTOR系の反応など、多角的に実験してきました。

アピールポイントなど

呼吸・循環・代謝系障害モデルを用いた研究は20年以上続けております。その間に大学院にて多くの修士修了生、博士修了生を輩出し、今でも共同で実験を継続しております。さらには、留学経験からアメリカや台湾の研究者とも交流を続けております。

様々なモデルにおいての介入効果についての共同研究をお待ちしております。



理学療法を対象とした疾患に対する運動の効果検証

理学療法学科

金村 尚彦 教授

【研究分野】 理学療法学、リハビリテーション医学

【キーワード】 運動器、中枢・末梢神経の神経可塑性、加齢

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=164kane>



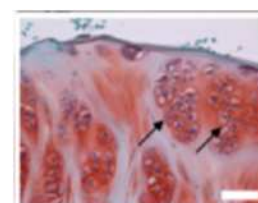
研究概要

運動器疾患や廃用、末梢神経や脊髄神経などの神経可塑性に関する運動介入がどのような効果をもたらすのか、組織学や分子生物学的手法による分析と、バイオメカニクス的手法により理学療法の効果を検証しています。

研究紹介

1.異常関節運動が関節内環境へ与える影響に関する研究

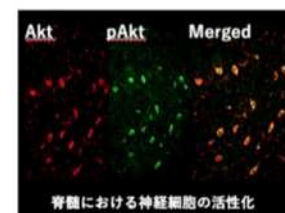
変形性膝関節症や靭帯損傷などにおける異常な関節運動が関節内組織や神経機能にどのような影響を与えるのかについての研究を行っています。



変形性関節症モデルラットの関節軟骨像

2.末梢神経損傷後の理学療法効果に関する研究

運動介入により末梢神経損傷後や脊髄神経などにどのように活性化されるか、神経機能回復に着目した研究を行っています。



脊髄における神経細胞の活性化

3.加齢における運動が神経機能に与える影響に関する研究

加齢における身体機能低下を予防するためには、運動することがよいとされていますが、運動の効果について、筋や神経に着目し研究を進めています。

4.身体運動におけるバイオメカニクス

人の動きを捉えるために、三次元動作解析装置や表面筋電計、加速度計などの計測装置により、運動機能や障害の定量的評価を目指しています。

講座テーマ紹介

変形性膝関節症の発症と運動療法の効果について、研究室で実施してきた基礎研究や身体運動におけるバイオメカニクス研究における研究、臨床研究の知見を踏まえた講座

アピールポイントなど

人や動物を対象として基礎研究から得られる結果をもとに、運動の身体への与える効果を研究しています。



健康づくり・地域づくりシステムの開発

理学療法学科

田口 孝行 教授

【研究分野】 地域リハビリテーション、地域支援、ヘルスプロモーション

【キーワード】 健康づくり、フレイル予防、地域づくり

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=165tagu>


研究概要

「地域包括ケアシステム」および「地域共生社会」において、住民主体による地域課題の解決力強化や体制づくりが必要であることが提言されています。

自分個人の健康課題として内向きにとらえるのではなく、地域全体の健康課題として外向きにとらえる志向を持って、**住民が主体となって課題解決（健康づくり）に取り組むことができるシステム（地域づくり）開発**に関する事業研究を行っています。

研究紹介

1.自治会主体の健康づくり活動システムの開発

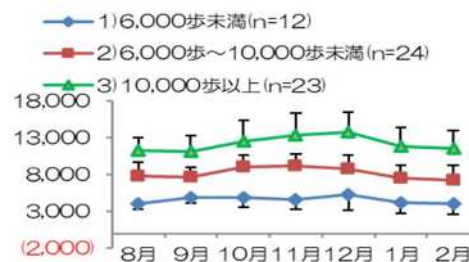
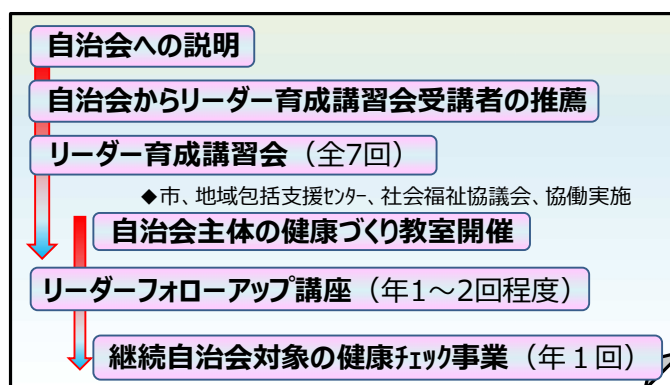
市、地域包括支援センター、社会福祉協議会との連携による事業研究。

- 1) ご当地体操の開発（ポスター・DVD作成）
- 2) 「健康づくりリーダー育成講習会」プログラムの開発・事業実施支援
- 3) 効果・事業成果に関する研究
- 4) 参加者アンケート調査 等

2.「毎日1万歩運動」の効果検証（受託研究）

歩数計測、体力測定結果、血液検査結果、医療費 等から事業の効果検証を実施。

- 開始初月の平均歩数から、6か月間の平均歩数がある程度予測できる可能性。
- 6,000歩以上の歩数を6か月間継続することで、下肢筋力や複合動作能力も向上。・・・など



講座テーマ紹介

- 健康づくり/介護予防**リーダー育成講習会**、住民が主体となった**地域づくりのための講習会**など
- **地域支援事業**への関わりのポイント：専門職が地域支援事業に関わる際の留意点など
- パーキンソン病の在宅支援：パーキンソン病に特化した在宅生活支援についての解説

アピールポイントなど

自治体における介護保険運営協議会（会長）、地域包括ケア推進協議会（会長）、介護保険認定審査会等にも関わらせていただいております。

自治体との政策等に関わる共同研究、企業とのヘルスプロモーション等に関する共同研究のお誘いをお待ちしております。



フレイル予防・地域リハビリ・多職種連携

理学療法学科

田口 孝行 教授

【研究分野】 地域リハビリテーション、フレイル予防、多職種連 (IPW/IPE)
 【キーワード】 多職種連携教育 (IPE)、多職種連携実践 (IPW)、大学間連携教育、フレイル予防
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=165tagu>



研究概要

フレイルには、身体的・精神的・社会的フレイルが存在します。フレイル研究の多くは、スクリーニングとして早期発見に焦点が当てられます。しかし、その後のアプローチ方法についても検討が必要と思います。たとえば、社会的フレイルは身体的フレイルを引き起こすと言われ、社会参加（他社との交流、趣味活動、ボランティア活動など）が強く推奨されています。しかし、すぐにこれらを実行に移すことは困難であり、直接的にこれらを勧めるアプローチにも無理があると思います。このように、アプローチ方法について検討を進めております。

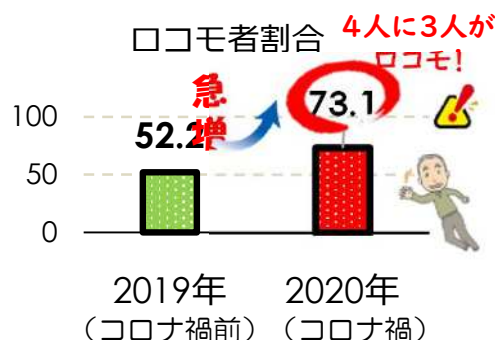
研究紹介

1.フレイル予防事業（受託研究・共同研究）

- フレイル・サルコペニア・ロコモ該当者の状況調査
- フレイル予防事業導入に関する事業研究
「フレイル予防サポーター養成テキスト作成」、
「講習会プログラム作成・実施」、事業効果検証

2.総合事業サービスCにおける遠隔併用リハビリ

- 実施方法と効果検証
- 遠隔リハビリにおけるICTの活用方法



講座テーマ紹介

- フレイル・サルコペニア・ロコモ予防、介護予防に関連した一般向けおよび専門職者向けの講座
（一般者向けには、楽しく講座を聞けるよう工夫しております）
「体力測定結果の意味や見方」、「からだの“痛み”を軽くする運動方法」
「フレイルってなに？ロコモってなに？サルコペニアってなに？」：基礎的な知識と改善のためのヒント
「外出のすすめ」：外出することで得られる刺激についての解説
- 家族介護、介助方法について実技も合わせた講座
「楽に行う介護方法」：楽な介護方法についての実技指導
「家族も一緒に体力アップ」：当事者と一緒に行う運動方法を紹介
- 多職種連携に関連した講座
「多職種連携教育 (IPE)・多職種連携実践 (IPE) の基本」
「大学間連携教育」：彩の国連携力育成プロジェクトに関する実践紹介

アピールポイントなど

ご当地体操の作成・運営・普及に関する助言等も行っております。

今までに関わったご当地体操は、「そらまめ体操（春日部市）」「なまらん体操（吉川市）」「ながちか体操（行田市）」「パリポリくん体操（草加市）」「転倒予防基本体操（足立区）」などです。

『健康づくりリーダー育成講座テキスト』、『フレイル予防サポーター育成テキスト』



理学療法学科

山崎 弘嗣 教授

【研究分野】 からだを動かす原理の探求、応用運動学、運動身体学
 【キーワード】 日常動作、運動協調性、最適性、運動動作分析、姿勢調節、運動制御
 【URL】 <https://researchmap.jp/hym6541>



運動身体の微調整を読み取る

研究概要

日常生活の動作において、ほとんど無意識*に行われている身体運動の調節は、心的負担の経済性や最適性の観点からも、とても高度かつ重要な身体機能です。この仕組みは『姿勢調節』や『運動制御』と呼ばれ、応用運動学の分野で研究されています。

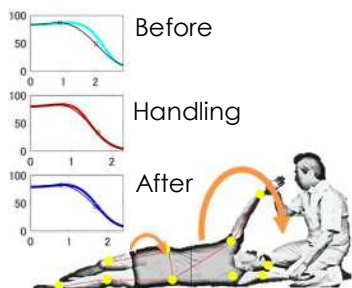
*例) 『ニュース』と言う前から、唇の形は無意識のうちに、すでに『ニ』の次の『ユ』になっている。

この制御機能がうまく作動しているかどうか、普段は気になりませんが、もしかすると、気づかないレベルで、調子が少しずつ変わってきているかもしれません。昨今では、この変動を予知して、健やかな日常動作の基盤を保つための**身体動作の脆弱化の予知・予防**の方法開発も求められています。

『からだを動かす原理』の探究をもとに、**運動中の身体で行われる数多くの微調整を簡便に読み取り見える化する方法の開発**などへの応用が展望できます。

研究紹介

身体治療操作の 効果を見える化



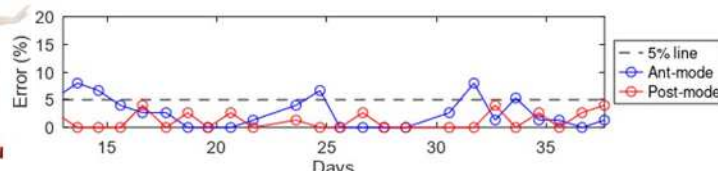
運動治療では、対象者の**気づかないレベル**で体の動き方が変わっています。

体がうまく動く状態かどうか 動く前に読み取る

Ready

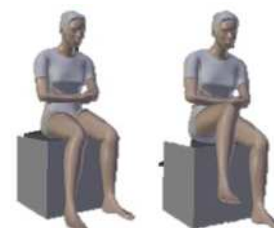
Go

立位での生体情報から、中腰姿勢で課題を行うときに起こる**エラーの発生可能性**を読み取る。日によってうまく動かせない時もあります。



歩くのに助けがいるかどうか 歩く前に読み取る

腰かけの姿勢で片足が上がるかどうかではなく、**足のあげ方**に歩行能力の違いが出てきます。



講座テーマ紹介

- ・ 運動身体学の一般向けの講座
- ・ 運動協調性、運動最適性 に関する一般向けおよび専門職向けの講座
- ・ リハビリテーションにおける**運動動作分析**に関連した講座 など

アピールポイントなど

応用運動学は、運動科学・医工学・認知情報科学・システム科学分野などの**学際的分野**です。実践的な応用を視野に入れたご提案や共同研究のお誘いもお待ちしております。



効果的な健康増進を考える－健康寿命延伸に対する提案

理学療法学科

井上 和久 准教授

【研究分野】 身体バランス、健康寿命延伸、生活環境、日常生活に関する理学療法学

【キーワード】 バランス、健康増進、予防

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=166ino>



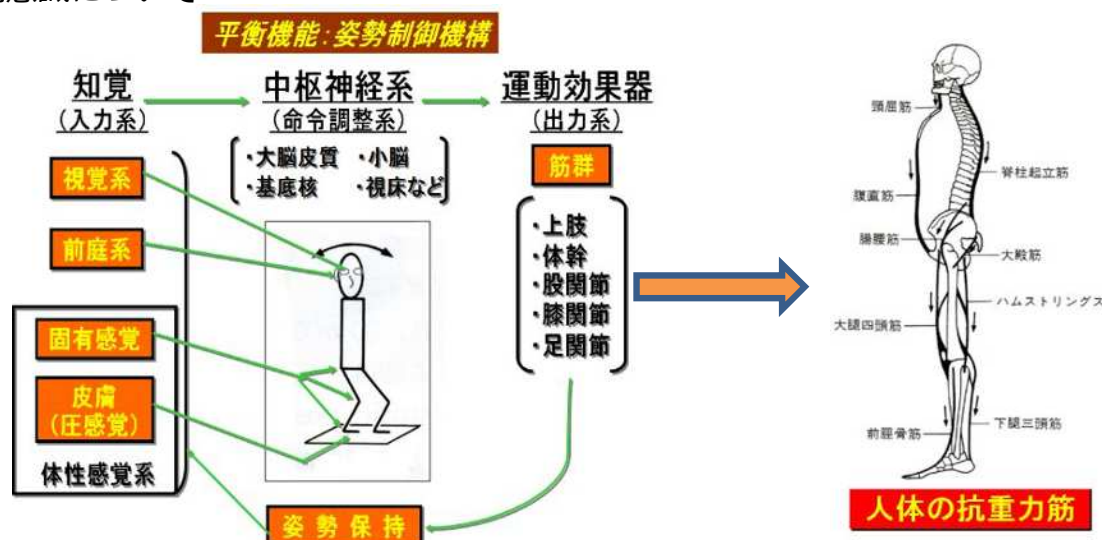
研究概要

「身体バランス機能低下を予防するトレーニング」「機器を利用した運動効果」「運動習慣の導入効果」など。

研究紹介

現在進めている研究として、下記のテーマに関連した内容を実施しています。

1. 健康増進（生活環境支援）に関して
2. 下肢筋力と重心動揺との関係について
3. 義肢・装具について
4. 規範意識について



講座テーマ紹介

1. 健康のために取り組む生活習慣病の対策
健康を維持するために生活習慣病の実際と対策について講義をさせていただき、普段の生活の中で取り組む具体的な運動について体験等もさせていただきます。
2. 身体バランス（平衡機能）について
人間が立位を保持するためには、身体のだどのような仕組みでバランスをとっているかについて講義し、また、バランスを測定する機器について紹介させていただきます。

アピールポイントなど

2014年6月より日本地域理学療学会の運営に関わっており、日本予防理学療学会の運営にも6年間関わっていました。また、全国レベルの研修会・学会等の運営にも参画してきました（第49回日本理学療法士協会全国学術研修大会：準備委員長、日本地域・支援工学・教育合同理学療学会学術大会2020：合同学術大会長）。



理学療法学科

小栢 進也 准教授

【研究分野】 リハビリテーション

【キーワード】 変形性膝関節症、膝の痛み

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=267oga>

膝の痛みを予防するには ～軟骨がすり減っても元気な膝を保つために～

研究概要

変形性膝関節症は軟骨のすり減りによって生じ、膝関節に痛みを生じる疾患です。
しかし、軟骨がすり減った方のうち、70%は痛みを感じないと言われています。

定期的な運動、適切な体重、正しい病気の理解

健全な精神状態、負担のかからない歩き方

これらを維持することで**膝の痛みは予防ができます。**

私たちは膝の痛みを予防、軽減する方法を研究しています。

研究紹介

歩行による膝関節ストレスの検討

筋骨格シミュレーション解析、膝回旋解析によって膝関節へのストレスを定量化を試みています。

膝関節に負担をかけない歩き方を研究しています。



膝の痛みを予防するフィットネスエクササイズ「くにかくにや体操」の開発

膝の痛みを有する人は、膝をこわばらせた硬い動きをします。

私たちの研究室はこわばった動作から、しなやかな運動をとり戻すエクササイズを開発しています。

健康増進シューズ、ウェア開発

膝関節へのストレスを最小化する靴、インソール、ウェアの開発に取り組んでいます。

講座テーマ紹介

膝の痛みを予防する方法

効果的な筋力トレーニングの方法

アピールポイントなど

子ども、部活動、スポーツ選手、勤労者、高齢者を対象とした体力測定会の実施により、個別にトレーニング法を指導します。



呼吸循環系・姿勢動作に関する評価・治療・支援機器開発

理学療法学科

木戸 聡史 准教授

【研究分野】 内部障害理学療法学、リハビリテーション工学、運動生理学
 【キーワード】 心肺系トレーニング、転倒予防と検知、支援機器、栄養と身体機能
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=171kido>



研究概要

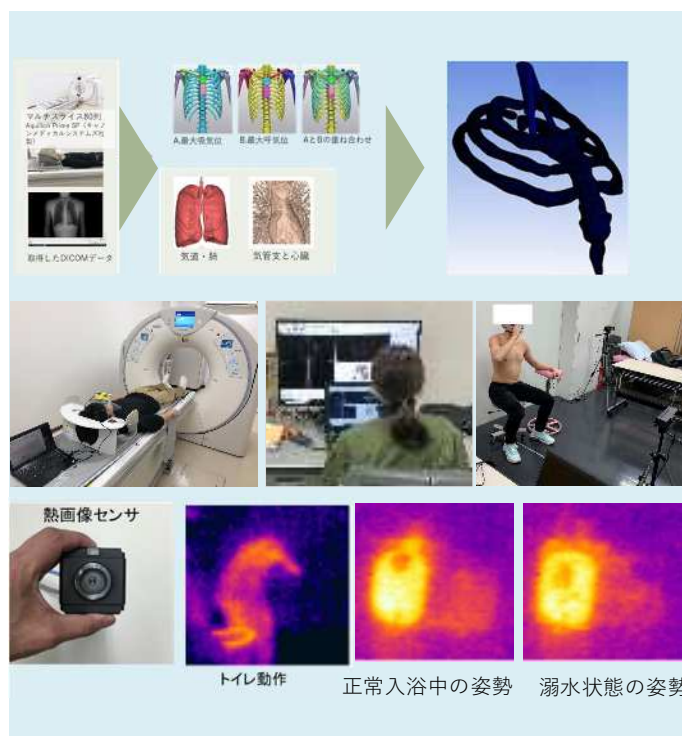
本研究室では主に中高年・高齢者・障がい者における内部機能系・姿勢・動作の、評価・治療・支援を行うことで、ADL・QOLの維持及び向上を図るための機器開発及び新たな知見の解明を行っています。

機器開発に繋がる研究を多く行っているため、研究成果の社会還元を実現すべく、研究初期段階から産学共同研究を行い、助成金等を活用して市場ニーズを意識した研究を行っています。

研究紹介

- 呼吸器のトレーニング支援に用いるシミュレーションモデリング
- Chest Wall Motion評価によるCOPD患者スクリーニング手法の開発研究
- 呼吸筋トレーニングの生理学的メカニズム解明と最適化研究
- 高齢者・障がい者における新たな転倒・転落予測手法の開発
- トイレ・浴室での異常検知システムの開発
- 熱画像センサを用いて転倒・転落の検知通報を行う見守りシステム開発
- ICU入室患者・心不全患者の栄養・身体機能関連研究

* 詳しくは研究室ホームページで紹介しております。 <https://kido-lab-info.com/>



講座テーマ紹介

上記研究テーマに関するもの

アピールポイントなど

- 埼玉県産学連携研究開発プロジェクト補助金：プライバシーを保ちながら転倒転落等を感知・通報するシステムの開発
- 科研費（基盤研究C）：リハビリテーション評価および治療に使用するための呼吸器シミュレーションモデリング
- 科研費（基盤研究C）：運動時呼吸負荷トレーニングによる呼吸応答戦略の解明と効果予測モデルの構築



理学療法学科

久保田 章仁 准教授

【研究分野】 高齢者の身体活動

【キーワード】 行動変容、行動記録、低強度身体活動、座位行動、健康づくり

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=170kubo>

健康づくりのための行動変容

研究概要

生活習慣病にならず、無理のない生き生きとした暮らしを送るために 日常生活でいかに活動量を維持していくか

- ・座位行動時間を短くする
- ・低強度身体活動を増やす

研究紹介

1. 健康づくりのために個々の行動変容をねらう
 - ・3軸身体活動量計にて、座位行動、歩数、低強度身体活動の量と時間を計測
 - ・自分だけの行動記録票の作成
2. 身体活動に季節性の特徴がみられるか

講座テーマ紹介

高齢者大学「体力を確認する」	A市
未来大学「楽しく体力アップ」	B県
市民大学「健康講座」	C市

行動目標を達成するまでの5段階の考え方を学ぼう

活動量計を使ってみよう

生活行動記録票を作ってみよう

身体活動量って何？

座りっぱなしって体に良くない？

日常行っている生活活動っていっぱいあるね!!

一日の生活活動を見直してみる?!

リラクゼーション、必要な時にしてる?!

あんなとき、こんなときのストレッチ

靴の選び方

綺麗に歩いて体のラインもきれいに-ノルディックウォーキング-のすすめ

骨のための食事と栄養

おうちでできる楽楽筋トレ

転び方と骨折のいろいろ

アピールポイントなど

出会う全ての方に、NNK（ねんねんころり）でなく、PPK（ぴんぴんころり）を願います



女性のライフステージにおける健康支援

理学療法学科

須永 康代 准教授

【研究分野】 ウィメンズヘルス理学療法学、バイオメカニクス
 【キーワード】 ウィメンズヘルス、姿勢、動作、運動、骨盤、妊娠、産後
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=173suna>



研究概要

女性の生涯にわたる健康支援を目的として、運動学的解析をもとに身体的変化を捉え、各年代における身体機能の諸問題に対する予防・改善のための支援について検討を行っています。

具体的には、思春期における月経周期に関連したスポーツ傷害、妊娠中～出産後の身体的変化に伴う姿勢・動作の問題や痛み、中高年女性の骨粗鬆症や尿失禁など、各年代でのライフイベントに伴う身体機能の変化や加齢による影響など、ライフステージに即した健康課題の解決に向けて研究に取り組んでいます。

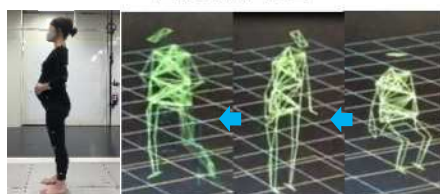
研究紹介

■ 思春期 ■



月経周期における身体の変化とスポーツ傷害に関する検討を行っています。

■ 成熟期 ■



妊娠中～産後の姿勢・動作変化の解明や、骨盤ベルトの姿勢安定性への効果検証を行っています。

■ 更年期・老年期 ■



骨粗鬆症予防や尿失禁予防のための調査、指導を行っています。

講座テーマ紹介

■ 中高生の月経とスポーツに関する講座

スポーツに取り組む中高生、指導者など一般の方向けの講座

■ 妊娠中から産後の問題（腰痛・尿失禁など）に関する講座

妊娠中・産後の一般の方向けの調査・運動指導、専門職向けの講座

■ 骨粗鬆症や尿失禁などの予防講座

一般の方向けの調査・運動指導

アピールポイントなど

様々な女性の健康問題に対する支援に取り組んでいます。特に、妊娠中から産後の健康問題に対し、地域の産婦人科や整形外科等との支援体制構築に力を入れています。

論文：Changes in motion patterns among pregnant women turning while carrying an object after rising from a chair. Sunaga Y, et al., Int. J. Ind. Ergon. 2020; 80

<https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S0169814120306478?via%3Dihub>

学会：一般社団法人 日本理学療法学会連合 日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法研究会 理事



理学療法学科

清水 新悟 助教

【研究分野】 足底挿板療法、スポーツ工学、義肢装具学

【キーワード】 アライメント評価、足底挿板、腰部側弯症、外反母趾、治療効果

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=329shimi>



アライメント評価による足底挿板療法 義肢装具療法のエビデンスと未来

研究概要

現在、足底挿板は、スポーツジムや靴屋など様々な箇所で製作、販売されている。しかし、アライメント評価を正しく行って、製作しているのかは、疑問であり、専門分野でない方々が、マニュアルで製作しているのが多数である。私は、人の動きを変化させる足の裏に貼るパッドや足底挿板の研究を何十年と行ってきた。人の動きを細かく評価することで、正しい足底挿板療法や義肢装具療法が可能となる。

研究紹介

■腰部側弯症に対する足底挿板療法の有効性

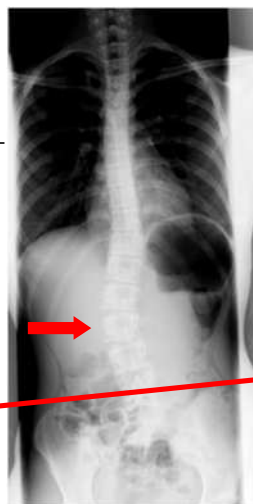
特発性側弯症に対し、足底挿板療法を行い、足底挿板装着6か月後に、cobb角 28度から14度、PCRLが 6°から3°に改善した。



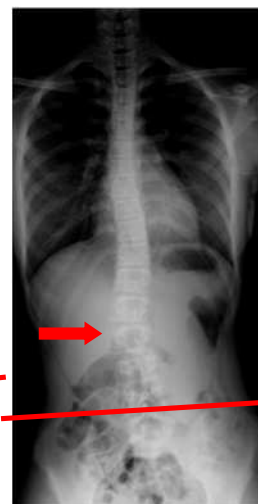
パッド装着時



完成図



装着前



装着6か月後

清水新悟 他、思春期側弯症腰椎カーブに足底挿板療法を用い、側彎の改善をみた1症例、臨床整形外科、第46巻3号、pp269-173、2010

■外反母趾に対する足底挿板療法の有効性

足底挿板療法にて、装着6か月後に、外反母趾角が、右28度が18度、左31度が25度へ改善した。M1M2角、M1M5角も改善した。



骨誘導パッド



パッド装着時



装着前



装着6か月後

清水新悟 他、外反母趾角を短期間で改善させるための足底挿板療法の試み、理学療法学、第36巻6号、pp.359-365、2009

アピールポイントなど

- ・病院や福祉施設との臨床研究の実施
- ・企業様との義肢装具や歩行支援機器などの開発
- ・義肢装具療法の評価などの研修会の実施
- ・サッカーチームのトレーナー活動



理学療法学科

清水 新悟 助教

【研究分野】 足底挿板療法、スポーツ工学、義肢装具学

【キーワード】 足部アーチ、バネ定数、減衰粘性時間、カーボン、足底挿板

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=329shimi>



足部アーチ機能を備えた足底挿板の開発 義肢装具療法のエビデンスと未来

研究概要

足部アーチの機能の中で衝撃吸収機能があるが、この衝撃吸収機能は明確になっていないのが現状である。そこで正常アーチ足と低アーチ足の機能を計測して比較した結果、低アーチ足は、バネ定数と減衰粘性時間に差がみられることを報告した。我々は、この差を埋める材料として、カーボンに着目し、カーボン製の足底挿板を計測した。低下した足部アーチの衝撃吸収機能を補う器具は、足底挿板だけでなく、ロボットの足部、義足の足部、靴などに応用可能である。

研究紹介

足下には荷重計測器を置き、下腿の長軸上に12.5kgの荷重を掛けたときの足部アーチの高さ h と荷重 Fr を計測した。



計測装置



ヒールあり



ヒールなし

ばね定数 k (N/mm)は、力 f (N)を内側縦アーチの変化した距離 d (mm)で除した値
減衰粘性時間は、錘を膝上に載せたときのアーチ高さが定常状態に入った瞬間の時刻から錘を載せた時刻を引いた時間 T_s [sec]

正常アーチ足と低アーチ足の比較

	バネ定数[N/mm]	減衰粘性時間[sec]
正常アーチ足	58.3	0.73
低アーチ足	25.0	1.23

カーボン足底挿板はトリミングを浅くすることで調整が可能であり、正常アーチ足の衝撃吸収機能を備えたカーボン足底挿板の開発を行っていく。

カーボン足底挿板ヒールあり

	バネ定数[N/mm]	減衰粘性時間[sec]
2層	72.1	0.49
3層	64.5	0.38
4層	204.0	0.51

カーボン足底挿板ヒールなし

	バネ定数[N/mm]	減衰粘性時間[sec]
2層	39.5	0.56
3層	49.0	0.61
4層	72.1	0.56

<参考文献>

- ・清水新悟 他、機械的特性に基づく低アーチ足の衝撃吸収機能の補償、バイオメカニズム25・慶應義塾大学出版会、pp.139-148、2020
- ・清水新悟 他、扁平足に対するフットプリントとアーチ高率値の信頼性、臨床バイオメカニクス、Vol.30、pp.243-248、2009

講座テーマ紹介

- ・入谷式足底挿板導入コース
- ・知覚連動インサート
- ・NPGインサート

地域での自立支援ケアに関する研究

作業療法学科

臼倉 京子 教授

【研究分野】 リハビリテーション、社会福祉
 【キーワード】 地域リハビリテーション、自立支援、社会参加、通所介護、就労支援
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=182usu>



研究概要

介護や地域リハビリテーションに関する研究を行っています。

- ・通所介護における生活行為を視点としたマネジメントに関する研究
- ・要介護高齢者の生活期リハビリテーションマネジメントに関する研究

研究紹介

- ・通所介護における生活行為向上を視点とした総合的なマネジメントモデルの開発に関する研究
- ・通所介護における要介護高齢者の機能訓練の質を高めるために、主体性を伴うとともに社会的な自立を促進する総合的な自立支援型機能訓練マネジメントモデルの構築に関する研究
- ・多主体協働による地域課題解決を推進するための体制・方法に関する研究

講座テーマ紹介

- 生活課題解決型機能訓練研修
- 心身機能の維持回復から社会参加に至るまでの戦略的自立支援ケアの実践研修
- 福祉用具講座（高齢者と体の不自由な方の生活に便利な用具を知ろう）
- 住宅改修講座
- シーティング講座
- 生活行為と作業療法
- 利用者の意向確認の現状・課題、対応方法
- 本人の想いに沿ったケアを展開するためのスキルアップ研修会：「高齢者疑似体験プログラムの提案」
- A銀行新人社員研修：「新入社員向けノーマライゼーション研修」

アピールポイントなど

県や市町村との研修会・講座、企業との共同研究・講座の実績もあり、今後も積極的に地域貢献に努めてまいります。よろしくお願いいたします。



高齢者の睡眠と昼間の活動との関係性

作業療法学科

久保田 富夫 教授

【研究分野】 睡眠障害、昼間の活動量と内容

【キーワード】 睡眠、活動

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=176kubo>



研究概要

睡眠・時間生物学に関する研究

・高齢者の在宅生活における、昼間の活動量と生活リズムが夜間の睡眠にどのような影響を与えているのかなどの研究を行っている。

研究紹介

コロナ禍における一人暮らしの在宅高齢者の睡眠の見守りと訪問支援の検討（日本睡眠学会2021より）

研究の目的は、在宅で訪問看護サービスを利用している一人暮らし高齢者の日中の活動と夜間の睡眠の実態を明らかにし、訪問看護の効率化や支援の一助とすることである。方法対象は8名の一人暮らしの高齢者、1人2週間、昼夜の活動を測定した。日中はリストバンド型の活動量計、夜間はシート型体振動計を用い、各測定項目との相関関係を分析した。その結果、対象者のPSQI得点は平均6.4点であり、主観的に睡眠に問題を抱えているのは4名であった。活動量計からは、日中の歩数が少ないことなどの問題が明確に示された。

講座テーマ紹介

- ・シニア世代の睡眠健康学－睡眠準備体操
オリジナルの睡眠準備体操を考案し、ビデオなどでその特徴を紹介し一緒に実施することで入眠がスムーズにおこなえるような工夫などについて講演・実技を行っている。
- ・埼玉未来大学（春日部・熊谷など）睡眠の不思議
2021年には高齢者の方を対象とした、講義を5回実施した。睡眠はまだわからないことが多く、不思議な世界である。その不思議をクイズ形式などを用いて優しく解説・理解する。
- ・「こころの健康づくり講座」睡眠を中心に
- ・なぜ学生は授業中に眠くなるのか
大学生へのアンケートなどを参考にして、昼間に学生が眠くなる理由や改善方法について講義する。

アピールポイントなど

COVID-19により、高齢者への感染リスクと死亡率の上昇を恐れ、不要不急の外出制限が推奨されました。それに伴うサルコペニア、ロコモティブシンドローム、フレイルなどの機能低下が懸念され、今後大きな問題となる可能性があります。コロナ禍では人との交流も極端に減っており、一人暮らし高齢者の日常生活の過ごし方に注視する必要があります。もう一度、睡眠と健康について、一緒に考えてみませんか。睡眠に不安があれば、ぜひ講演を依頼してください。



「生活の質」からケアや支援を捉える社会的ケア関連QOL尺度の活用

作業療法学科

中村 裕美 教授

【研究分野】 地域リハビリテーション、在宅生活、尺度開発
 【キーワード】 介護保険利用者、家族介護者、社会的ケア関連QOL
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=177naka>



研究概要

我々は「生活の質」の観点から、介護保険を含む社会的支援の理解や見直しを推進しています。そのために、社会的ケア関連QOL尺度（ASCOT）の日本語版を開発してきました。これは英国で開発され、国際的に利用されている尺度（評価したいことを測るモノサシ）です。

この尺度は、介護保険等社会的ケアを利用して在宅生活を営む人びと、そして家族介護者の生活の質を測定します。

多様なケアの場で利用できる尺度なので、臨床はもとより組織管理（自己評価・内部評価等）、自治体の介護保険実施計画や施策に活用できます。

研究紹介

1.在宅生活を営む介護保険等社会的ケア利用者版

①文化間妥当性と尺度の信頼性妥当性の検証

(Nakamuraら2019 国際学術誌 Health and Quality of Life Outcomesで公開)

②日本人用採点システムの構築

(Shiroiwaら2020 国際学術誌 Quality of Life Researchで公開)

③得点に影響する要因の解明（森山ら2020 国内学術誌:保健医療科学で公開）

2.家族介護者版

①尺度の信頼性妥当性の検証

(Nakamuraら2022 国際学術誌 Home Health Care Management & Practiceで公開)

②日本人用採点システムの構築

(Shiroiwaら2022 国際学術誌 Quality of Life Researchで公開)

講座テーマ紹介

- 1) 「生活の質」の観点からみた介護保険を含む社会的ケアの理解
- 2) 社会的ケア関連QOL尺度（ASCOT）の訪問サービスでの活用
- 3) 同尺度を用いた組織管理（自己評価・内部評価等）
- 4) 同尺度を用いた自治体の介護保険実施計画や施策への活用

アピールポイントなど

我々は「社会的ケア関連QOL ASCOT日本語版」普及委員会を組織して、この尺度の啓蒙活動を行っています。参画者は、医療福祉サービスの企画や評価を専門とする多領域の研究者です。興味がある方は下記サイトをご覧ください。

<https://scrqol-ascot.jp/index.html>





手指運動機能リハビリテーション評価システムの開発

作業療法学科

濱口 豊太 教授

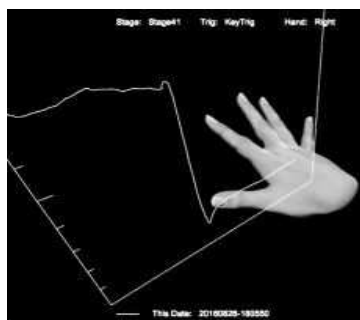
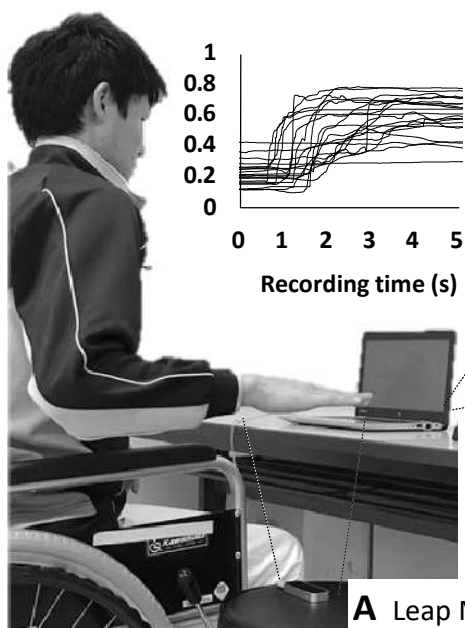
【研究分野】 リハビリテーション、サイバネティクス、行動医学
 【キーワード】 脳卒中、運動麻痺、手指、運動機能評価、キネマティクス
 【URL】 <https://researchmap.jp/toyota>



研究概要

- 私たちは熟達した理学療法士や作業療法士が判断した患者の運動障害の程度を、人工知能に学習させ、パターン解析によって得られた識別子（classifier）によって、様々な患者の病態を自動解析するシステムを開発しています。
- リハビリテーション評価システムは、脳卒中片麻痺患者の運動麻痺の重症度評価、骨折や末梢神経障害による運動器疾患患者の関節運動の重症度判断等を、人工知能（Support Vector Machine, Convolutional Neural Network, Generative adversarial networks）を用いた画像解析によって行うものです。
- この装置を用いれば、人工知能により、これまではリハビリテーションの評価技術に熟達した理学療法士や作業療法士が行っていた運動障害のある患者の手指の重症度を、小さな赤外線カメラで「グー」「パー」のわずか二つの動作をさせるだけで、数秒で、それらを高い精度で評価できるようになりました。

研究紹介



B Application of hand motion recording

A Leap Motion Controller detection

- 現在は、開発した人工知能システムを強化しながら、手指だけでなく、肩関節、肘関節、下肢の関節など、あらゆる運動を画像解析して運動障害を正確に診断できる評価システムの開発を進めています。
- 開発した手指病態運動評価装置（特許No. 6375328）は竹井機器工業株式会社により2019年9月に製品として市販されました。
- 2021年度より再開発を進めています。

【この研究に関する論文】

- Takeshi Saito, Toyohiro Hamaguchi et al. **Predictive Ability of Fahrenheit, a Hand Motion Recording System for Assessing Hand Motor Function in Patients with Hemiplegia Post-Cerebrovascular Disease—A Pilot Study** *Applied Sciences* 11(17) 8153, 2021.
- Toyohiro Hamaguchi, Takeshi Saito, et al. **Support Vector Machine-Based Classifier for the Assessment of Finger Movement of Stroke Patients Undergoing Rehabilitation.** *Journal of Medical and Biological Engineering* 40(1) 91-100, 2019.



脳電位でパワーアシストするロボットリハビリテーション

作業療法学科

濱口 豊太 教授

【研究分野】 リハビリテーション、サイバネティクス、行動医学

【キーワード】 脳卒中、運動麻痺、脳電位、上肢運動機能練習

【URL】 <https://researchmap.jp/toyotta>



研究概要

- 私たちが開発した上肢運動療法ロボット-Dicephalus（特許NO.6307210）を患者自身が脳波解析装置で制御して自発的に運動療法に参加できる新しいロボティクスリハビリテーションの創発に挑んでいます。
- Dicephalusとは、ギリシャ神話の双頭の生物です。Dicephalusは人間の上腕と前腕を把持する2つのロボットアームから構成されています。
- 現在のDicephalusは、ベテランの理学療法士や作業療法士が行った上肢運動麻痺の患者に対する上肢を運動療法を再現することができます。

研究紹介



リハビリテーション支援システム（特許第6598319号）

- 脳卒中片麻痺患者の運動機能を回復させるリハビリテーションで大切なことは、患者さんが自らの意思で運動しようということです。

- そのためには、患者さんの意思を正確にくみ取って、パワーアシストする方法が有効です。

そこで

- 私たちは、患者さんの脳から直接的に運動誘発脳波と呼ばれる電位を取得して解析し、その情報をロボットに伝達する仕組みを開発しています。
- Dicephalusは人間の意思を脳波からくみ取って動く方向と速さを計算して最適な運動をパワーアシストするロボットです。

【この研究に関する論文】

- Toyohiro Hamaguchi, Hiromi Nakamura Thomas. **Mechanism of the Developed Sensorimotor Therapy Device: Synchronous Inputs of Visual Stimuli and Vibration to Improve Recovery of Distal Radius Fractures.** *Biomed J Sci & Tech Res* 38(2) 2021.
- Yuki Saito, Toyohiro Hamaguchi et al. **Reproducibility between robot and human movements: preliminary development of a robotic device reconstructing therapeutic motion.** *Journal of Ergonomic Technology* 20(1) 10-19, 2020.



手指の痛みや運動障害を予防するパワーアシストハサミ

作業療法学科

濱口 豊太 教授

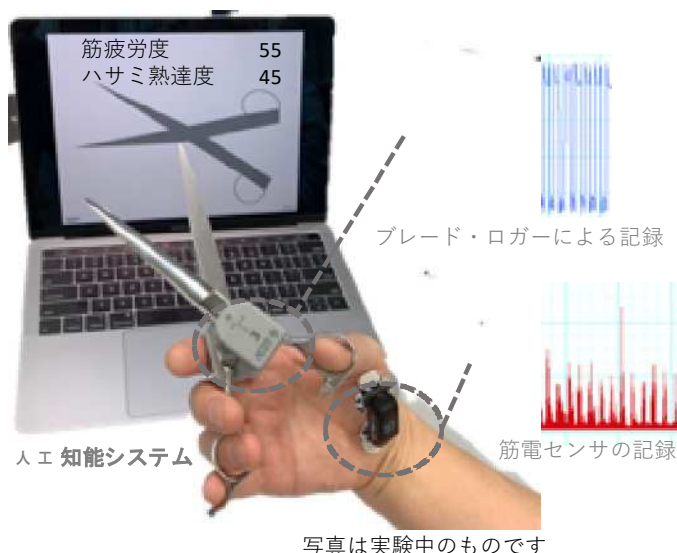
【研究分野】 リハビリテーション、サイバネティクス、行動医学
 【キーワード】 手根管症候群、関節障害、筋電位、手指運動
 【URL】 <https://researchmap.jp/toyota>



研究概要

- 私たちは、道具の操作に熟達した人の手の運動生理を人工知能（Support Vector Machine, Convolutional Neural Network）に機械学習させて、道具使いの上手・下手を判断して教えてくれる「手の使い方達人の人工知能システム」を開発しています。
- その第一弾として、「ハサミの達人」の開発に挑んでいます。
- この仕組みは「手指操作支援装置及び支援方法」として特許第6982324号を取得しました。

研究紹介



- ハサミをよく使う美容師には手根管症候群のような手の痛みや運動障害が見られます
- 手の痛みや手くびの関節運動障害は美容師らが離職する深刻な原因となっています
- * 障害を予防するためには手指の関節への負担が少ない上手な操作があるはずです

そこで・・・
人工知能システムを搭載したハサミ練習装置を開発しています

手に痛みが生じていない美容師たちの熟達したハサミ操作の運動生理を実証して

- ①人工知能システムが安全なハサミ操作を記憶して解析し
- ②それらを美容師の初心者たちが人工知能に導かれてハサミ操作を練習することで
- ③業務上で出現しやすい手の痛みや腱鞘炎による障害予防をめざします

【この研究に関する論文】

- Kohei Koizumi, Kumiko Sasao, Yuji Koike, Akihisa Okino, Kazuhisa Takeda, Toyohiro Hamaguchi. **Usefulness of Scissors with a Power-Support Mechanism to Assist Thumb Movement: An Observational Study.** *Applied Sciences* 11(16) 7756-7756, 2021.
- Takahashi Rina, Hamaguchi Toyohiro et al. **Reproducibility and reliability of performance indicators to evaluate the therapeutic effectiveness of biofeedback therapy after elbow surgery - An observational case series.** *Medicine* 99(34) e21889, 2020.



保健医療福祉分野における アントレプレナーシップ教育の開発推進

作業療法学科

上原 栄一郎 准教授

【研究分野】 アントレプレナーシップ教育、精神科作業療法、精神科デイケア、WEBモニタ

【キーワード】 アントレプレナーシップ、精神科、作業療法、当事者、授業

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=280ueha>



研究概要

昨今Entrepreneurship（以下EP）は小中学生から教育され、EP学部を持つ大学もあり、発達段階毎に教育が進んでいる。一方、本学をはじめ保健医療福祉分野の養成教育は、伝統的にクリニカル技能や知識教育が中心で、資格取得や実習対策が優先される。EPは、起業家精神などとされるが、新規ビジネスを創業する起業家教育と、創造性、積極性など広い知識や態度を含むEP教育に分けられ、**「自ら社会の課題を発見し、周囲のリソースや環境の制限を越えて行動を起こし、新たな価値を生み出していく精神」**と定義される。本研究では地域に新たな価値を生む県大生を輩出するため、保健医療福祉分野におけるEP教育の開発を行う。

講座テーマ紹介

2024年度 アントレプレナーシップ教育講座開催

（教育・研究・地域連携の一体的推進事業2024年度採択課題）

1) 学内導入キャンペーンの開催：アントレプレナー（起業家）は、家業を営む者や起業などを身近で見た経験者が多いとされる。それらに習い適正な露出は何よりもの教育であり、集中的な詰込みEP教育では得られない効果があるとされる。よってまずは学内メール、ポスター、説明会開催などアナウンス活動を活発に発信し導入を図る。

2) プロジェクトレクチャー：プロジェクト参加者を学科学年、教職員問わず全体に公募する。EP教育と学生、さらに教職員を結びつけ、異なる専門領域からの知識交流を促進する。講座は隔週開催2コマ連続講座×5つのテーマで5回開催し、地域プロジェクト実践を課題として設定する。

- テーマ1：課題に気づく力を育む授業：自身の身の回りの商品やサービス経緯を知る
- テーマ2：創造する力を育む授業：発想力、独創力から開発を行い発表と意見交換
- テーマ3：企画型授業：チームワークで企画を実行する体験を積む
- テーマ4：自分を知る授業：自身の夢の公開と将来史を構築する
- テーマ5：起業家から学ぶ授業：起業家の自己実現や社会貢献を知り学ぶ

3) 地域プロジェクト実践：プロジェクトレクチャーで得た知見と実践力で、地域課題や問題をとらえ、学生主体でリアルな地域連携インターンシッププログラムを構成し、実践体験を重ねる。プロジェクトの成果を積極的に共有するため、報告会を開催しシェアする。

アピールポイントなど

2024年度アントレプレナーシップ教育講座は、プロジェクト参加希望者を学年学科、教職員を問わず全体公募するため、まさに学生教職員連携プロジェクトとしての取り組みとなる。共同創造的な情報交換の有り方が有機的なネットワーク構築を促進し、研究概要で前述したEP教育の目的達成を目指す。



作業療法士による保育所・小学校への訪問研修

作業療法学科

押野 修司 准教授

【研究分野】 発達期作業療法学、身体運動学、作業療法教育学、動物介在療法学

【キーワード】 小児作業療法、連携、障害児保育、通級による指導

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=186oshi>



研究概要

地域共生社会の実現に向け様々な課題を、障害のある人もない人も一緒に乗り越えてゆかねばなりません。そのためには子どもの頃から共に育ち合う経験をするのが大切であるといわれています。私は、児童発達支援の経験から、特性に応じた環境調整や関わり方、集団への働きかけなど、作業療法士の視点から、各事業所、学校で可能な研修を考案しております。

講座テーマ紹介

保育園や小学校の先生方ができる幼児、児童のアセスメントを紹介、試行し、障害のある、またはその疑いのある幼児、児童の行動を理解することを目的とします。

必要な自助具、学習支援機器を作成、またはご紹介し、先生方に使用方法、または購入先をご説明いたします。その他、作業療法士の視点で、保育園や学校で実行可能なご提案をいたします。

「小学校訪問研修」

対象：通級による指導（通級指導教室）、特別支援学級を運営している小学校
小学校の教諭への研修

内容：①訪問日時についての相談・派遣依頼
②授業参観後、研修と質疑応答

費用：無料 訪問研修は1研修につき2回までとさせていただきます。

「保育園訪問研修」

対象：障害のある子どもを保育されている保育所
保育所の保育士への研修

内容：①訪問日時についての相談・派遣依頼
②保育参観後、研修と質疑応答

費用：無料 訪問研修は1研修につき2回までとさせていただきます。

アピールポイントなど

公立保育園の巡回支援を実施いたしました。

入間市教育委員会子ども未来室 スーパーアドバイザー巡回支援指導者(2012-2015年)
狭山市福祉こども部保育幼稚園課 公立保育所巡回指導講師(2014-2018年)

特別支援学校、通級指導教室の巡回支援を実施いたしました。

埼玉県立特別支援学校 大宮ろう学園 巡回教育相談指導者(2019年)
豊島区立小学校 特別支援教室 研修(2021年)



身体障害者の病態運動を再現するシミュレーション教育用ロボットを用いたリハビリテーション臨床技能教育プログラムの開発

作業療法学科

小池 祐士 准教授

【研究分野】 ロボティクスリハビリテーション、地域支援、教育、福祉用具、3Dプリンタ

【キーワード】 ロボティクスリハビリテーション、教育、ロボット、シミュレーション

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=189koi>

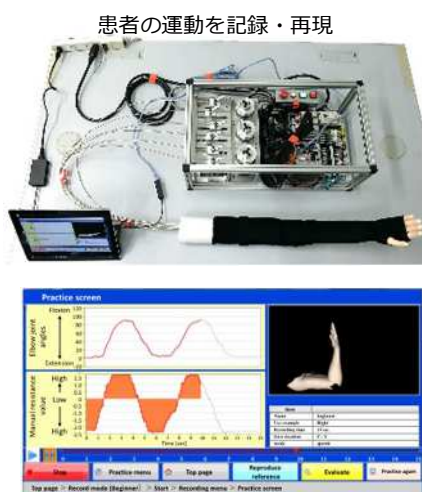


研究概要

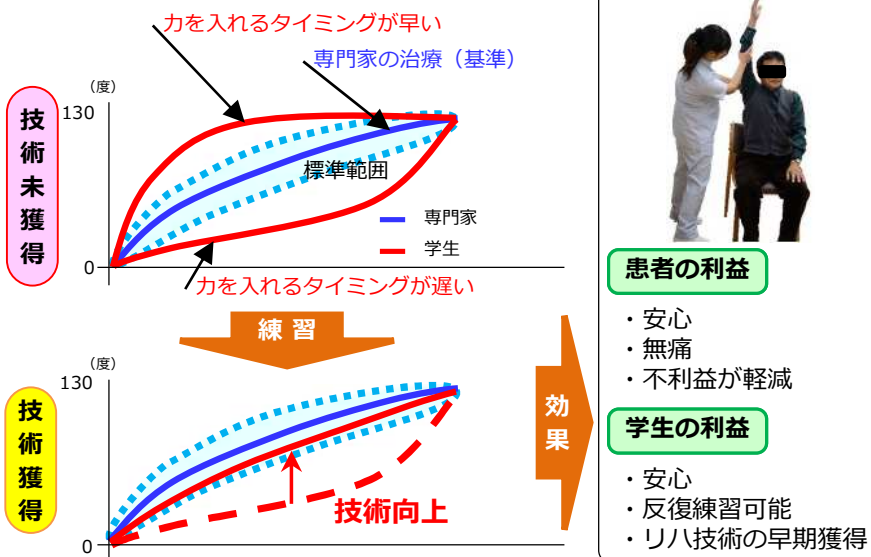
作業療法士などのリハビリテーション専門職におけるこれまでの学生教育や新人教育において、「見て学ぶ」から「学生や新人の知識や技術に合わせた指導」へと変化してきています。その教育方法の一つとして近年注目されているのが、**ロボットを活用したシミュレーション教育**です。これは、医学分野などにおいて既に取り入れられており、効果が示されています。そこで、リハビリテーション分野においてもその教育方法が有効である可能性があるため、リハビリテーション技術を視覚的に提示できるロボットを開発し、そのロボットを活用したシミュレーション教育の効果検証に関する研究を行っています。

研究紹介

①シミュレーション教育用ロボット> (特許6307210号)



②ロボットを用いた教育効果



講座テーマ紹介

患者・学生の相互に利益

- ◆ シミュレーションロボットを用いた教育効果に関連した講座
- ◆ 学生指導や新人教育、後輩育成など、教育に関連した講座 など

アピールポイントなど

- ◆ 特許第6307210号：病態解析装置とそれを用いたリハビリテーション技術教育装置
- ◆ 特許第6372882号：紐引き股割れパンツー脳卒中片麻痺者用ー
- ◆ 専門作業療法士（脳血管障害）、認定作業療法士、介護支援専門員、福祉用具プランナー、キャラバンメイト、臨床実習指導認定者、埼玉県高齢者元気力アップ応援事業所認証事業講師、高次脳機能障害者サポーター養成講座講師



障害者の自立を促進する衣服の開発

作業療法学科

小池 祐士 准教授

【研究分野】 ロボティクスリハビリテーション、地域支援、教育、福祉用具、3Dプリンタ
 【キーワード】 障害者、自立促進、脳卒中、片麻痺、衣服、排泄動作
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=189koi>

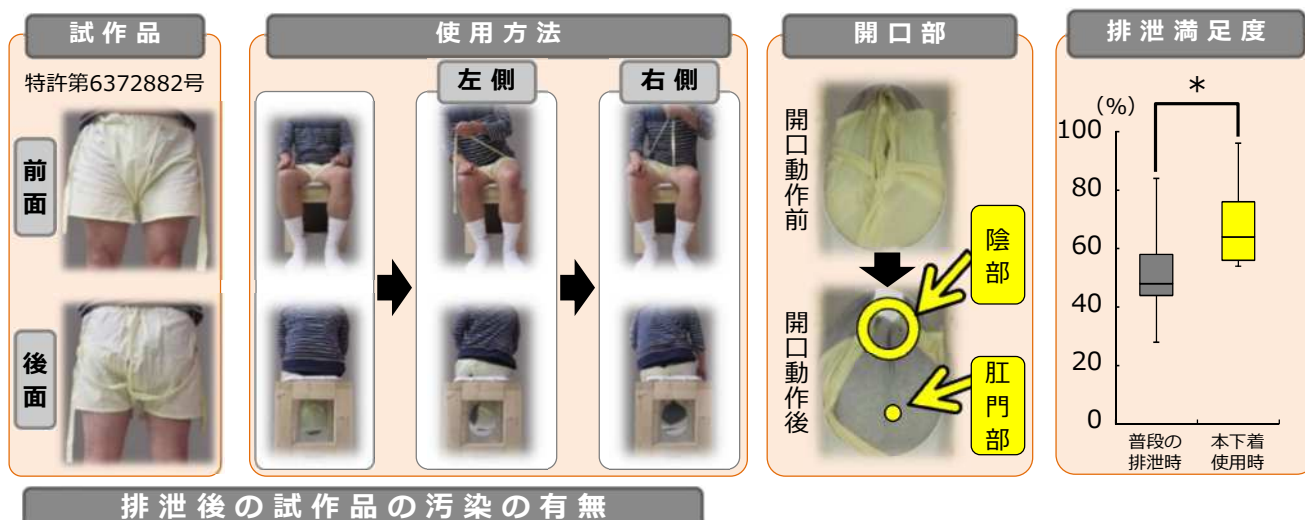


研究概要

障害者の自立促進や社会復帰に関して、国や企業等でも対策が講じられているものの、まだ障壁が多くあり、**障害者の衣服の問題**がその一つです。私たちが健康である時は、衣服のデザインやサイズが豊富にあり、自分たちが着たい衣服を着ることができています。しかし、障害を持つことや高齢になることで身体に変化が生じ、**着やすい衣服が少ない**のが現状です。障害や身体に合わせて作られている衣服も少なく、作られていたとしてもデザインが画一的でオシャレ感に欠けたりなど、**社会復帰を阻む要素の一つ**になっています。そこで、社会復帰に繋がるための障害者の自立を促進する衣服を開発しています。

研究紹介

脳卒中片麻痺者の排泄動作障害の改善に向けた衣服の考案と効果検証



➤ 片麻痺全対象者で、試作品の汚染なく、排泄が可能であった

講座テーマ紹介

- ◆ 障害者の自立促進に関連する講座
- ◆ 障害者の排泄動作など日常生活活動（Activities Daily of Life : ADL）に関連する講座
- ◆ 福祉用具の開発に関連する講座 など

アピールポイントなど

- ◆ 特許第6307210号：病態解析装置とそれを用いたリハビリテーション技術教育装置
- ◆ 特許第6372882号：紐引き股割れパンツ－脳卒中片麻痺者用－
- ◆ 専門作業療法士（脳血管障害）、認定作業療法士、介護支援専門員、福祉用具プランナー、キャラバンメイト、臨床実習指導認定者、埼玉県高齢者元気力アップ応援事業所認証事業講師、高次脳機能障害者サポーター養成講座講師



3Dプリンタを使ったリハビリテーション

作業療法学科

小池 祐士 准教授

【研究分野】 ロボティクスリハビリテーション、地域支援、教育、福祉用具、3Dプリンタ
 【キーワード】 リハビリテーション、地域支援、自立支援、自助具、福祉用具、3Dプリンタ
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=189koi>



研究概要

リハビリテーション専門職は、日常生活の困りごとについて、筋力や麻痺の改善に向けたリハビリテーションだけでなく、環境調整や道具（福祉用具やその方に合わせた自助具）を用いて解決する支援を行っています。その自助具について、近年では**3Dプリンタを使って、その方に合わせて自助具を作製**する機会が増えてきています。また、高齢化社会の我が国において、リハビリの専門職だけでなく、**日常生活上の困りごとを自分たちもしくは家族、地域住民同士、友人同士で解決できる力が求められています**。そこで、3Dプリンタを活用した自由なモノづくりの可能性を知ってもらうための活動・研究をしています。

研究紹介



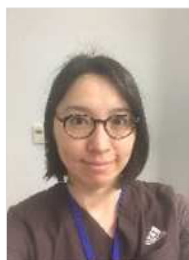
3Dプリンタで作製した作品や生活を支援する自助具

講座テーマ紹介

- ◆ 3Dプリンタに関連する講座
- ◆ 自立支援、地域支援に関連する講座
- ◆ 福祉用具・自助具の開発に関連する講座 など

アピールポイントなど

- ◆ 特許第6307210号：病態解析装置とそれを用いたリハビリテーション技術教育装置
- ◆ 特許第6372882号：紐引き股割れパンツー脳卒中片麻痺者用ー
- ◆ 専門作業療法士（脳血管障害）、認定作業療法士、介護支援専門員、福祉用具プランナー、キャラバンメイト、臨床実習指導認定者、埼玉県高齢者元気力アップ応援事業所認証事業講師、高次脳機能障害者サポーター養成講座講師



上肢切断・義手に関連した研究

作業療法学科

笹尾 久美子 准教授

【研究分野】 身体機能作業療法学、義肢装具学

【キーワード】 上肢切断、義手、情報提供

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=187sasa>



研究概要

上肢切断・義手をKeywordに上肢切断者を取り巻く現状把握やより適した義手操作技能の評価法などについて調査・研究を行っています。

研究紹介

1. 能動義手使用者の基礎的な義手操作技能を評価する指標に関する研究

日本では上肢切断者に特化した評価指標は存在せず、現場では代替の評価法を用いて実施している現状にあります。より適したツールで切断者の義手操作技能を評価できるように、能動フック使用時の能動義手の操作技能を評価する評価法を考案し、臨床での応用について研究しています。

2. 日本におけるSHAP使用に関する研究

欧米では成人の義手技能評価法として7つの標準化された評価指標が存在し、このうちの1つにThe Southampton Hand Assessment Procedure (SHAP)があります。SHAPは2002年に英国で開発された上肢機能検査であり、球体や円柱など形状と重さの異なる12項目の物品移動検査と14項目の両手動作を含む日常生活検査から構成されています。私たちはSHAPを開発した研究者に許可を得てSHAPマニュアル日本語版を作成し、日本人におけるSHAP標準値の収集などを行っています。

講座テーマ紹介

1. 義手の理解を深めよう～模擬義手操作体験～

本学には、自分の身体の動きを利用して義手をコントロールする体内力源式能動義手と筋から発生する電気信号を利用して義手をコントロールする筋電義手の操作体験が行える模擬義手があります。模擬義手の操作体験を通して、それぞれの義手の特徴や仕組み、機能を知って義手に対する理解を深めていただき、人間の手との違いについても感じていただけたらと思います。

2. SHAP評価法のご紹介・使用体験

SHAPは日本ではまだ馴染みのない評価法ですが、日常生活動作を取り入れているなどユニークな内容を含んだ評価法となっております。上肢切断者の評価にも使用できますが、他の疾患にも使用ができる構成となっております。本学にはSHAPの評価キットがありますので、使用体験をしていただきながら評価方法をご紹介します。

アピールポイントなど

- ・長らく上肢切断・義手をKeywordに調査・研究を行っており、上肢切断の作業療法経験を基に講義や執筆などを行っております。
- ・SHAPマニュアルの日本語版を作成しました。



社会生活スキルトレーニング（SST）

作業療法学科

柴田 貴美子 准教授

【研究分野】 精神障害リハビリテーション
 【キーワード】 社会生活スキルトレーニング（SST）、発達障害、コミュニケーション
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=288shi>



研究概要

発達障害を持つ子どもが増え、子どもが抱える生きづらさだけではなく、養育する親のストレスを低減する支援が必要です。発達障害を持つ子どもとその親を対象とした**社会生活スキルトレーニング（SST）**の実践や、**ロールプレイ**を用いた**社会的スキル**を測定する尺度開発を行っています。

また、精神障害を対象としたSST、心理教育の効果検証、作業科学の観点から若年性認知症者が経験する作業やジェンダーイデオロギーについて探索をしています。

研究紹介

- **発達障害を持つ子どもとその保護者を対象としたロールプレイテストの開発**
基本的な社会的スキルを対面で測定する尺度を作成。また、この尺度をタブレットを用いて測定できるツールを作成。
- **精神障害者を対象としたSST**
主として統合失調症を対象としたSSTについて、効果的な実践方法や般化を促進する方法を検討。
- **障害児を持つ母親の作業参加に対するジェンダー・イデオロギーの影響**
わが国の社会的規範などが、障害児を持つ母親の作業や複数の役割に及ぼす影響を検討。

講座テーマ紹介

- **SSTに関連した一般向け、専門職向けの講座**
 - ・「子どもに対するSST」：発達障害を持つ子どもを対象としたSSTの紹介
 - ・「親子でソーシャルスキルを高めよう」：ソーシャルスキルの概要と基本的なソーシャルスキルの紹介
 - ・「SSTの進め方」：SST実践者向けのグループ運営、アセスメントの紹介
 - ・「SSTを体験してみよう」：SSTの概要とSSTの体験
- **統合失調症などの精神障害や発達障害に関連した一般向け、専門職向けの講座**
 - ・「家族の接し方について」：統合失調症の特徴と家族支援の解説
 - ・「精神障害当事者の父親のための研修会」：精神障害の特徴と家族支援（主として父親）の解説
 - ・「発達障害に対する理解と作業療法」：発達障害の概要と作業療法の紹介

アピールポイントなど

自治体における精神保健福祉連絡会、就労継続支援B型事業所の運営にも携わっております。



人が新たな運動を学習することについて

運動学習、書字、手の動き

作業療法学科

鈴木 貴子 准教授

【研究分野】 運動学習、手の動き（特に書字）

【キーワード】 運動学習、書字

【URL】 <https://researchmap.jp/sztkkk>



研究概要

1. 病気や障害によって運動が困難になった方に対し、リハビリテーションでは体の動きの再獲得や改善を目指して運動の練習を行います。その際に、セラピストは対象者の体に触れ、支えながらより良い動きへと誘導します。この時、対象者の脳や体にはどのようなことが起きているのか、運動の再獲得をより効率的に促す手段はないか、これらを研究疑問として取り組んでいます。
2. 人が幼少期から長い時間をかけて獲得する動作の一つである文字を書く動作について、動作そのものの分析、文字に対する評価など多方向からの解明と、リハビリテーションや教育領域への貢献を目指して取り組んでいます。

研究紹介

1. 最適運動軌道と脳活動

セラピストが対象者の上肢を支持して動きの誘導・介助をするときに対象者が感じる違和感、脳内の活動はどのようなものなのか、それは何を意味しているのか、セラピストが誘導すべき運動は本当はどのようなものなのか等を明らかにするため、主に脳波計測や運動学的解析を用いて研究を進めています。

（科研費：20K11234）



身体誘導時の脳波等計測

2. 文字（数字）に対する人の主観的評価

人は文字を、上手・下手、さらには元気な・丁寧ななどの様々な形容によって表現・評価することができます。しかしこのような、人による文字の評価は絶対的なのか相対的なのか、明らかになっていません。文字に対する主観的評価の法則性を明らかにするため、機械学習を用いた研究を進めています。

（東京家政大学生生活科学研究所 総合研究プロジェクト）

3. 箸操作練習に関する調査研究

作業療法の現場で行う麻痺のある手や非利き手での箸操作練習における現状調査を行っています。（学部生と共同で実施）

過去の研究：運動錯覚と皮質脊髄路の興奮性について、書字の時の手指の動きについて

講座テーマ紹介

「手」の不思議、手に関する基本的な知識を中心に(お子さん・一般の方向け)
(過去に市民大学、こども大学等で実施)

アピールポイントなど

特許：上肢運動学習装置（特許:6425355号）（濱口豊太教授と共同）

所属学会等：日本作業療法士協会、日本作業療法研究学会、日本臨床神経生理学会、他
都内の高次脳機能障害専任相談員（H28年度～）



コミュニケーション支援用具・機器の提案・開発

作業療学科

南雲 浩隆 准教授

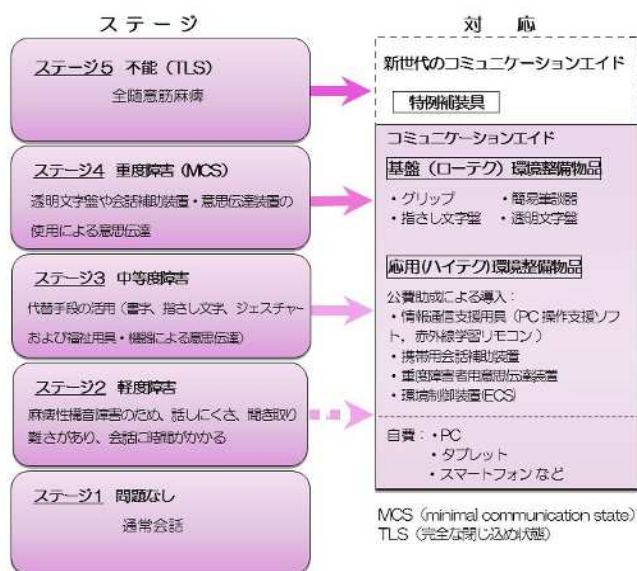
【研究分野】 コミュニケーション支援用具・機器、難病、意思伝達
 【キーワード】 神経難病、リハビリテーション、コミュニケーション支援用具
 【URL】 <http://researchmap.jp/nagumo16>



研究概要

・難病のコミュニケーションにおける支援用具・機器の特徴は、個別性が高いことです。必要性が高いながらも実用的な製品が不十分な状況です。しかしながら、これまでの研究から、一般化の出来る汎用性の高い製品を開発をすることが可能になってきています。

コミュニケーションのステージ分類と対応



コミュニケーション用の支援用具

あ	か	さ	な	は	ま	や	ら	わ
い	き	し	に	ひ	み	ゆ	り	を
う	く	す	つ	ぬ	ふ	む	よ	る
え	け	せ	て	ね	へ	め	や	れ
お	こ	ぞ	の	ほ	も	ゆ	ろ	へ
ハ	ト	タ	ル	ズ	コ	ル	・	・
1	2	3	4	5	6	7	8	9
0								



透明文字盤



特殊ハッチ



スイッチ固定用具

研究紹介

<共同研究・受託研究のご提案>

- ・難病のコミュニケーション、支援用具・機器について、共同研究や提案を致します。
 - ・福祉用具・機器の適合と支援技術に関する研究
- 神経変性疾患、いわゆる難病は進行性の病気であり、身体機能の状況に合致した支援用具・機器を活用することで、日常生活の自立度を高めるとともに、生活の満足度を大きく改善することが可能です。特にコミュニケーションは、'意思を疎通する営み'として重要であり、身体機能の状況に応じた対応が必要となります。なかでも、ALS向けのスイッチは種類が多く、さらには個別性も大きいため導入には細心の留意と対応が必要です。これらについて開発・改良を進めて製品化してみませんか。
- ・難病療養者における生活環境と作業療法支援に関する研究

講座テーマ紹介

- ・コミュニケーション障害のアセスメントと支援についての専門職種向けの講座

アピールポイントなど

- ・東京都における'コミュニケーション障害のアセスメントと支援(在宅難病患者訪問看護師等養成研修)について'の専門職種向けの講座にも協力させていただいています。



障害のある学生支援・車いす・作業療法・多職種連携教育

作業療法学科

松尾 彰久 准教授

【研究分野】 障害学生支援

【キーワード】 障害学生支援、作業療法、福祉機器、自助具

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=185matsu>



研究概要

障害学生支援では、**多職種が連携**して学生の支援を実施します。そのような中、わたしは**作業療法士**という専門職の立場から、**福祉機器の活用**や**環境の調整**を通して学生への支援を実践しています。

2013年に成立した障害者差別解消法は2016年より施行され、2020年の見直しに関する意見書の取りまとめ、事業者団体・障害者団体ヒヤリングを経て、2021年6月には改正法が成立しました。改正法では国や地方公共団体だけでなく事業者についても**合理的配慮**の提供を義務としました。障害学生支援のあり方も日々進化しており、新しい障害学生支援の取り組みやあり方について研究しています。

講座テーマ紹介

●障害学生支援に関連する講座 (専門職講座)

- ・「障害のある学生支援には、どのようなものがあるか？」
- ・「学校教育における合理的支援の考え方」

●多職種連携に関連する講座 (専門職講座)

- ・「多職種連携とは？ 多職種連携の基本を学ぶ」

●車いすについて (一般講座)

- ・「車いすに関する実技指導」
- ・「車いすから考えるユニバーサルデザイン」

●作業療法について (一般講座)

- ・「作業療法とは？ 作業療法の基本を学ぶ」

アピールポイントなど

車いすの操作・介護・介助方法については一般向けの講座で、作業療法については高校生・中学生向けの講座で多くの経験があります。

障害学生支援についてはアドハイザーとして複数の大学で実践中です。障害者差別解消法は改正され、今、制度と合わせて実践を知ることが有益なことといえるでしょう。



がん患者の前向きな生活適応へ心理支援と運動介入方略の開発

作業療法学科

小泉 浩平 助教

【研究分野】 がんリハビリテーション、行動医学

【キーワード】 身体活動量、運動療法、心理療法、がん

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=303koi>

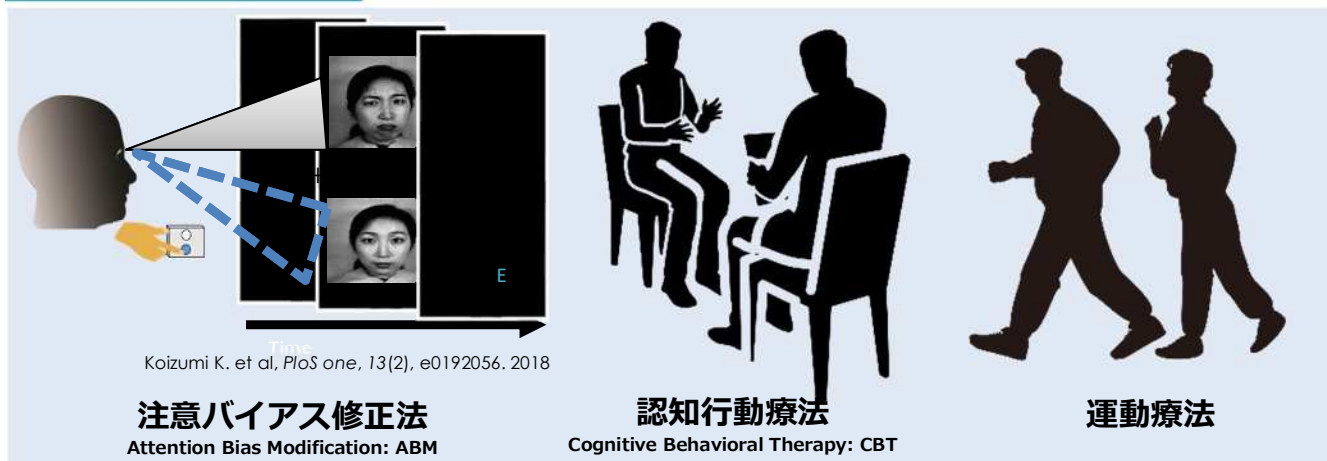


研究概要

がん患者は診断後、長期に渡り高いストレス状況下にさらされます。そのため、不安気分、抑うつ症状を呈しやすく、陰性情動の影響で行動が低減し、身体活動量が低下することが指摘されています。がん患者が前向きな生活を営むために心身の状態を高める方略は、生活支援を行うリハビリテーションにとって重要な課題です。

がん患者の前向きな生活を支援するために、心理-身体活動に配慮したリハビリテーション方略の開発を行っています。

研究紹介



1.がん患者の陰性情動惹起の機序に関する研究

嫌悪な事象へ注意が偏向する現象「注意バイアス」を調査し、陰性情動が惹起される機序について検証しています。

2.がん患者の陰性情動に起因した活動量減少を防ぐためのリハビリテーション方略の検証

心理-身体連関の側面から、心理-行動に配慮した集学的な介入が、運動効果を高めるか検証しています。

講座テーマ紹介

- がん患者の心理的効果を高める方法と実践についての講座
- がんサバイバーの身体活動量を高める、効果的な方法についての講座

アピールポイントなど

がん患者が有する多様な病態背景に対し、注意・認知・行動の視点から心理-身体活動を階層的に捉えます。多様な症状へ集学的な介入を実践することで、心理-身体活動に起因する課題を収束したいと考えています。



作業療法学科

田坂 翔太 助教

【研究分野】 発達期作業療法学 時間概念の発達に関する研究
 【キーワード】 小児作業療法、発達障害、自閉スペクトラム症、肢体不自由、重症心身障害
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=343tasa>



子どもの作業療法

研究概要

文部科学省の調査では「小学校・中学校で『学習面または行動面で著しい困難を示す』とされた児童生徒数の割合は8.8%」と報告されています。また、このように支援が必要な子どもたちが増加すると同時に保健、保育、療育、医療、教育の現場で作業療法士として必要とされる場面や求められる役割が拡大しています。

子どもを育み、社会へと羽ばたかせるために、児童発達支援事業、放課後等デイサービス事業、保育所等訪問支援などの福祉サービスとその事業所数は充実しつつあります。作業療法士として子どもの発達を支え、子どもが子どもらしく生活できる地域づくりに貢献するために発達期作業療法について研究を開始しました。

講座テーマ紹介

1. 作業療法の視点を活かした障害のある子どもの理解（保護者向け・支援者向け）
・作業療法士の視点で、子どもの行動の背景に対する理解の仕方をお伝えします。
2. 保育・療育・医療・教育の実際場面を伴う事例相談・事例検討（支援者向け）
・施設を訪問し、作業療法士の視点で支援者と一緒に支援を検討します。
・施設を利用している対応に悩む子どもについて一緒に支援を考えます。
3. 保育・療育・医療・教育の記録映像の視聴を伴う事例相談・事例検討（専門職向け）
・施設を利用している様子を記録していただきます。
・記録映像を視聴して、作業療法士の視点で支援者と一緒に支援を検討します。
・施設を利用している対応に悩む子どもについて一緒に支援を考えます。

アピールポイントなど

これまで私は、自治体の小児の診療所、児童発達支援センターで作業療法士として勤務し、子どもとその家族、支援者に関わることで、保護者や支援者向けに研修会や学習会を数多く経験してきました。また、埼玉県内の子どもに関わる作業療法士のネットワークの構築を目指し、つながりを作ってきました。

今までの経験やネットワークを基盤として、子どもの発達と家族、支援者のために、地域貢献・研究活動につなげていきます。



社会政策・社会保障

社会福祉子ども学科 社会福祉学専攻

伊藤 善典 教授

【研究分野】 社会政策、社会保障、福祉国家
 【キーワード】 政策、行政、医療、介護、貧困、イギリス、欧州、外国人労働者
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=195ito>



研究概要

学際的視点から社会政策・社会保障に関する研究を行っています。特に少子高齢化が進み、財政制約が強まる中での福祉国家・社会保障制度の持続可能性に関心があり、国際比較分析等を通じて、今後の政策・制度の在り方を考えています。

具体的には、財政危機、難民危機、高齢化や格差拡大等に直面する欧州の福祉国家のあり方について、以下のような研究を行っています。

- イギリスの医療・福祉政策
 - ・医療制度改革、高齢者介護政策、子どもの貧困対策、社会的企業など
 - 欧州の福祉国家の動向
 - ・政府債務危機時やその後の社会支出の動向とその要因、福祉国家の方向性
 - 外国人労働者の動向
 - ・先進国において外国人家事労働者が増加した要因
- また、日本の医療・福祉問題については、
- 地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の役割に関する研究
 - 在宅医療・介護における多職種連携研修プログラムの開発
 - 医療制度・医療保険制度のあり方に関する研究
- などを行ってきました。

講座テーマ紹介

一般の方、教育機関、自治体、団体等向けに、社会保障に関係する様々なテーマで話をさせていただくことが可能です。

(例)

- 社会保障制度の現状と課題
- 持続可能な社会保障制度の構築
- 外国人の社会統合・多文化共生
- 国民健康保険等の医療保険制度の現状と課題
- 高齢者介護の現状と課題

アピールポイントなど

国（厚生労働省等）や自治体において長く制度・政策の企画立案に従事してきた経験から、行政実務経験を活かし、自治体等の政策立案や計画作成などのお手伝いを行うことができます。自治体の会議への参加実績には、次のようなものがあります。

- ・埼玉県国民健康保険運営協議会会長
- ・埼玉県福祉サービス第三者評価認証等委員会委員長
- ・和光市長寿安心プラン策定会議会長
- ・越谷市まち・ひと・しごと創生懇談会委員



社会的養護の子どもと家族への支援

社会福祉子ども学科 社会福祉学専攻

大塚 斉 教授

【研究分野】 臨床心理、家族、児童虐待
 【キーワード】 社会的養護、児童虐待、家族
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=340otsu>



研 究 概 要

「子どもにとって家族とは何か」ということを関心の中核に、子どもへの支援、家族への支援の在り方を考えています。また逆境的な環境で育ったにも関わらず、しなやかな社会適応を果たした子どもたちへの関心（レジリエンス）を持っています。またそのような育ちを支える支援者の育成、研修の在り方にも関心を持っています。

講 座 テ ー マ 紹 介

【家族についての心理教育】

- 一般
 - ・学生、市民向け講座、小学校保護者会等において、家族はどういうもので、子育てにおいて、何に気を付けるとより良くなるかについての講演
- 専門家向け
 - ・家族への支援の視点や方法についての研修
 - ・ジェノグラムの理解
 - ・家族合同面接（複数が同席する面接）のコツ

【不十分な養育環境で育った子ども達への支援】

- 保育園や幼稚園、小中学校、児童養護施設等において、養育環境が整わない子どもたちをどのように理解し、支援できると良いのかをテーマに研修
- 専門家向け
 - ・被虐待児童への支援について、心理的な視点から研修

【虐待の起こった家族への支援】

- ・虐待が生じた家族のアセスメントと支援
- ・ジェノグラムによる家族理解

アピールポイントなど

【活動】

これまで家族をテーマにした市民講座、保育士、小中学校の教職員向け研修、児童相談所、児童養護施設、児童家庭支援センターの専門家向け研修を行ってきました。

【委員】

平成27・28年度 厚生労働省雇用均等・児童家庭局 社会的養護関係施設における親子関係再構築支援の取組に関する調査 検討委員会委員
 東京都臨床心理士会 子育て専門委員会 協力委員

【代表論文】

大塚斉（2014）児童養護施設における子どもと家族の歴史を紡ぐジェノグラム～システム的な援助実践～ In 日本家族心理学会編「家族心理学年報32 地域と家族の未来像」金子書房

大塚斉・田附あえか（2018）「児童養護施設における性的問題 親密な人間関係と性の育ち」精神療法第44巻第5号「精神療法とセックス」41-45.



障害者雇用における事業主支援

社会福祉子ども学科 社会福祉学専攻

小澤 昭彦 教授

【研究分野】 職業リハビリテーション、障害者雇用における合理的配慮
 【キーワード】 障害者雇用、精神障害者雇用、合理的配慮、事業主支援、事業主の態度
 【URL】 <https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000020584155/>



研究概要

障害者の就労支援を進めるうえで、本人側の職業準備の向上に併せて、受け入れ先となる事業主側の障害者の雇用に対する態度も、支援者が考慮すべき重要な要素といえます。

そこで、事業主を対象に、障害者雇用における事業主に対する支援モデルや、障害者に対する職場での合理的配慮の提供モデルに関して研究を進めています。

研究紹介

1 精神障害者雇用におけるエビデンスに基づく事業主支援モデルの構築

本研究は、精神障害者が求職活動する際に直面する参加制約のうち、事業主の態度を取り上げ、その態度の構造および態度変容の要因を把握することにより、事業主が精神障害者を雇う際の支援者による支援の基礎資料を得ることを目的とした研究です。

2 障害者雇用における障害者に対する合理的配慮提供モデルの構築

本研究は、事業主が新たに障害者を雇う際に障害者に対して合理的配慮を提供すること、に対する事業主の態度を明らかにすることで、事業主が障害者を雇う際の支援者による支援の基礎資料を得ることを目的とした研究です。

講座テーマ紹介

- 障害者雇用に関連した専門職向けおよび事業主向けの講座
- 精神障害者の自立支援に関連した専門職向けの講座

アピールポイントなど

- ・ 科学的な方法による研究を重視し、国内外への研究成果の発信を大切にしています。
- ・ 地方自治体における障害者自立支援協議会・会長、障害者自立支援協議会就労支援分科会・会長、リハビリテーション協議会・委員を、これまで務めさせていただきました。



河村 ちひろ 教授

【キーワード】 障害、当事者、てんかん

【U R L】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=196kawa>



- てんかん発作のある人々の保健福祉に関する研究
- 病気・障害の経験者からみた社会に関する研究
- 障害者保健福祉施策における相談支援の現状と課題に関する研究

●てんかん発作のある人々の語り

てんかん発作のある人を取り巻く環境

外からもち込まれるバリア

身近な人間関係

より社会的な人間関係・ネットワーク

内なるバリア

治療（医療との関わり）

スティグマ

自分の家庭を持つこと

性と生殖

コントロールを失う感覚

認知・開示

意識・負担感

発作以外の身体状況

てんかん（発作）

発作が予測困難

薬

近知難症の障害

気分・気持ち

自分（自律）

生活（収入と支出）

職業・仕事

自動車の運転

教育・資格

普通の生活（行動・行事）

てんかん発作のある人の語りから
得られたテーマ

てんかん発作と直接的にまたは間接的に関係するその他の心身の状態や症状に関する課題が、場合によってはてんかん発作やその症状よりも生活上の課題と大きいことが示唆された。たとえば、発作のコントロールが難しくかつ軽微な認知障害の低下がみられる場合では、周囲の人間との関係がうまくいかず不全感や精神的な不安定さがある。

てんかんのある人々への既存のセルフマネジメントプログラムの活用と主に、継続的かつ個別の対応の充実が必要である。

●障害当事者とともに行う講座

自治体の自立支援協議会、障害者計画・障害福祉計画の策定委員会、社会福祉法人内に設置された利用者権利擁護のための委員会などに参加しています。



個人のみならず地域・社会のウェルビーイング向上を目指した シニアのための持続可能なデジタル利用支援システムの開発

社会福祉子ども学科 社会福祉学専攻

小川 孔美 准教授

【研究分野】 高齢者福祉、高齢者虐待防止、専門職連携教育 & 専門職連携実践

【キーワード】 地域包括ケアシステム、サロン、世代間交流、デジタルデバイドの縮小、ボランティア

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=202oga>



研 究 概 要

「誰一人取り残さない」デジタル化を進める観点では、地理的・経済的・身体的制約の有無にかかわらずデジタル活用を促すため、デジタルへの接触機会を増やしその価値を実感できるようにするなどの継続的なデジタル利用支援が必要です。

「端末の操作が難しい」、「近くに相談できる人がいない」といった理由で、**デジタル活用を躊躇する人たちは高齢者を中心に存在**しており、「デジタル推進員」¹⁾や民生委員、各専門職等が支援していますが、デジタルリテラシー、セキュリティ等、支援のうえでの課題も多く指摘されています。

支援を受ける高齢者だけでなく、支援に関わる地域住民・専門職とともにウェルビーイング向上を可能にする、地域ニーズに即した安心安全なデジタル利用支援の仕組みや教材を開発し、その効果を検証しています。

1) デジタル庁「デジタル推進委員の取組」(<https://www.digital.go.jp/policies> 2024.2.14)

研 究 紹 介

1. シニア世代におけるデジタルデバイド要因の研究
2. 社会福祉協議会〔生活支援体制整備事業〕における協議体（地域支え合い会議）、自治会、地区サロン、地域包括支援センター等との連携によるデジタル支援事業
3. デジタル支援を行う「支援者」が抱える困難—課題解決に向けた支援の開発

講 座 テ ー マ 紹 介

- ・地域包括ケアシステムにおける高齢者の見守り支援とICT活用
- ・シニア世代におけるデジタルデバイド要因と支援のあり方
- ・デジタルリテラシーって？—スマホサロンの運営のポイント
- ・超高齢社会におけるデジタルデバイドと社会的孤立

アピールポイントなど

自治体における「地域包括ケア推進代表者会議 顧問」「地域包括支援センター運営協議会委員」「地域福祉計画審議会 会長」等にて、地域の実情把握、課題検討を行っています。

また、企業、NPO等との連携も大切にしており、デジタルデバイド対策に関する課題解決に関する共同研究、システム開発に関する共同研究ができればと考えております。



多職種連携のためのファシリテータ方法

社会福祉子ども学科 社会福祉学専攻

小川 孔美 准教授

【研究分野】 高齢者福祉、高齢者虐待防止、専門職連携教育 & 専門職連携実践
 【キーワード】 地域包括ケアシステム、サロン、成年後見、意思決定支援
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=202oga>



研究概要

日々日常的に行われる退院前カンファレンス、術前術後カンファレンス、サービス担当者会議などの各種カンファレンス、会議におけるファシリテーションはなくてはならないスキルと言えます。

ファシリテーションスキルによる合意形成のステップにもとづく議論の活性化と、プロセス支援のための研究、教材開発に取り組んでいます。

研究紹介

専門職連携実践に必要なファシリテーションスキル研修開発と効果の検討

講座テーマ紹介

〔一般講座〕

「地区サロン運営におけるファシリテーション」

「住民、参加者一人ひとりをいかした運営のためのファシリテーション」

〔専門職講座〕

地域包括支援センター、医療と介護の連携窓口、介護福祉施設、介護支援事業所等との連携による研修会、運営、企画

「会議参加者の意見が引き出せないと思ったときのファシリテーション」

「時間内にまとめられない！一困ったときのファシリテーション」

「苦手な人がいると思ったときのファシリテーション」

「ファシリテーションって何だろうーその役割とは」

アピールポイントなど

自治体における「地域包括ケア推進代表者会議 顧問」「地域包括支援センター運営協議会委員」「地域福祉計画審議会 会長」等にて、地域の実情把握、課題検討を行っています。

自治体だけでなく民間企業、NPO等との連携も大切にしており、政策や課題解決に関する共同研究のお誘いをお待ちしております。



地域共生社会におけるボランティアの可能性

社会福祉子ども学科 社会福祉学専攻

川田 虎男 准教授

【研究分野】 地域福祉、福祉教育・ボランティア学習、社会デザイン

【キーワード】 地域福祉、ボランティア

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=352kawa>



研究概要

地域共生社会においては、住み慣れた地域で暮らしていくための制度の構築が求められますが、同時に住民同士の支え合いやボランティア等、法制度に拠らない市民・住民の自発性に基づいた地域福祉が重要になります。私自身は、特にボランティア活動の役割に注目しており、「他者への貢献」を通じた活動者自身への影響や変容、また互いに支え合う関係や場づくりにおける要素、支援者のあり方について研究を行っています。

研究紹介

1. 学生のボランティア活動を通じた自己形成と支援方法に関する研究

ボランティア活動では活動の対象者だけでなく、活動者自身にも多様な影響がありますが、特に若者の活動者への影響について研究しています。

2. 「語り」をめぐる福祉教育・ボランティア学習の可能性

福祉教育・ボランティア学習学会の課題別研究として3年間チームで研究してきました。その中でも特に、当事者からの「語り」を聴いた者が「語り継ぎ」を行うプロセスについて研究をしています。

講座テーマ紹介

- ボランティア・市民活動基礎講座
- 住民主体のまちづくりに関連した講座
- ボランティア・市民活動に関わるスキルアップ講座（アイスブレイク体験、ミーティングファシリテーション等）

アピールポイントなど

- ・ 福祉教育・ボランティア学習学会の特任理事を務めています。
- ・ コープみらい×中央共同募金会「子ども・子育て支援助成」審査委員や生活協同組合パルシステム埼玉市民活動支援金運営委員長等、市民の自主的な活動を支える仕組みに関わっています。
- ・ 学生時代のボランティア活動を契機に、住民の自発的な支え合いや自治に関心を持ち、社会福祉協議会、市議会議員、まちづくり系のNPO、大学ボランティアセンタースタッフ等を経験し、それらの現場で感じた課題について実践的研究を行っています。



社会福祉とアジール～犯罪・非行・依存に関する フィールドワークからの社会学的考察～

社会福祉子ども学科 社会福祉学専攻

相良 翔 准教授

【研究分野】 犯罪社会学、福祉社会学、医療社会学、司法福祉
【キーワード】 アジール、回復、ケア、立ち直り、パターナリズム
【URL】 <https://researchmap.jp/sho-sagara>



研 究 概 要

更生保護施設、民間の薬物依存リハビリテーション施設であるダルク（Drug Addiction Rehabilitation Center）でのフィールドワークを通じて、研究しています。端的に言えば、犯罪・非行や依存の後の「生活」に関する研究です。

また、それらの知見を踏まえて、ケアとアジール（避難所や無縁所などの意味をもつ言葉）の関係、支援におけるパターナリズム等についても検討しています。

研 究 紹 介

①：更生保護施設に関する社会学的研究

更生保護施設の処遇のリアリティの記述を行い、そのリアリティと社会のあり方の関連について考察しています。

②：ダルクに関する社会学的研究

ダルクの実践のリアリティの記述を行い、そのリアリティと社会のあり方の関連について考察しています。

※業績に関してはQRコードにアクセスしてご確認ください。

講 座 テ ー マ 紹 介

①「犯罪および非行に関する社会学的視点からの考察」

⇒この講座では犯罪および非行に関する社会学的視点からの見解について紹介し、犯罪および非行への対応において必要なことを考えていきます。

②「支援者が抱えるストレスに関する分かち合い」

⇒この講座では支援者が抱えるストレスについてグループワーク形式で分かち合い、今後の支援実践・施設および機関運営・社会のあり方などについて考えていきます。

※講座内容に関しては、相談いただいた上で変更することも可能です。

アピールポイントなど

これまでにフィールドワークという手法から、「立ち直り」や「回復」のリアリティについて記述・考察を重ねてきました。現場のリアリティについて把握する方法やそこから考察する方法をお伝えして、よりよい現場のあり方を一緒に考えていく機会を持てれば幸いです。



多職種実践のPDCAサイクルを促進するF-SOAIPによる好循環 ～専門職および職能団体等への支援～

社会福祉子ども学科 社会福祉学専攻

鳶末 憲子 准教授

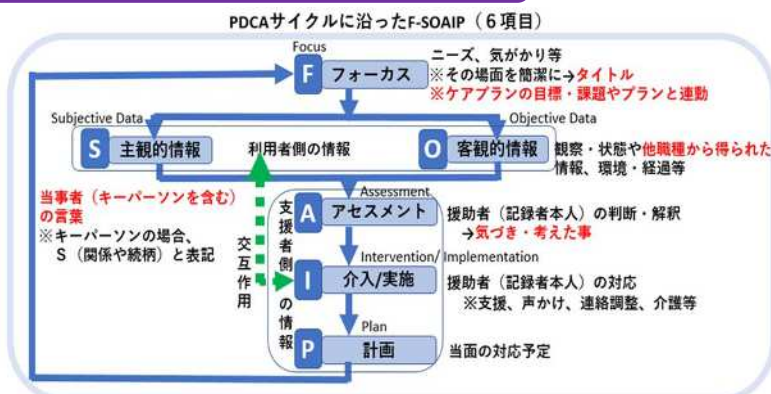
【研究分野】 ソーシャルケア、対人支援 多職種連携、地域包括ケア
【キーワード】 F-SOAIP、生活支援記録法、PDCAサイクル、IPW、リフレクション、専門職支援、職能団体支援
【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=198shima>



研究概要

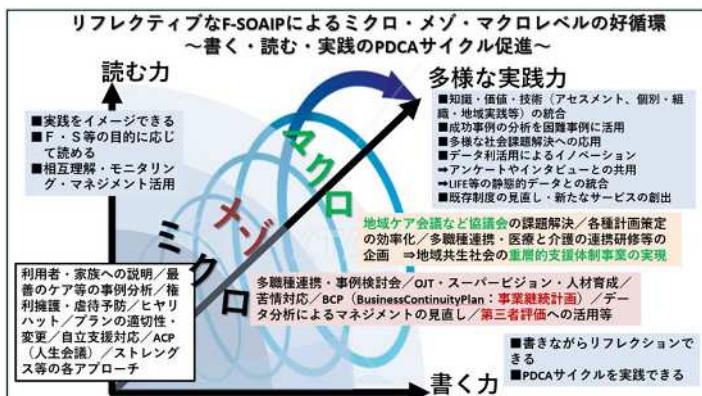
効率的かつ効果的活用が可能な経過記録として、F-SOAIP（エフソ・アイピー）を開発しました。F-SOAIPとは、①多職種協働によるミクロ・メゾ・マクロレベルの実践過程において、②生活モデルの観点から、③当事者ニーズや観察、支援の根拠、働きかけと当事者の反応等を、④F-SOAIPの項目で可視化し、⑤PDCAサイクルに多面的効果を生む、⑥リフレクティブな経過記録の方法である。（Ver.4、2019年11月）

利用者や家族・対人支援専門職・団体向け



研究紹介

厚生労働省HPに「介護分野における生産性向上の取り組みを促進するツール」として、F-SOAIPを取り上げた介護記録法の標準化（老健事業）の報告書が掲載・紹介されています。



F-SOAIP基本テキスト



鳶末憲子・小嶋章吾『医療・福祉の質が高まる生活支援記録法[F-SOAIP] 多職種の実践を可視化する新しい経過記録』中央法規出版、2020年

講座テーマ紹介

- 医療福祉専門職向け：F-SOAIPによるIPWの促進～ミクロ・メゾ・マクロレベルでの活用～
- WEB開催2024埼玉県立大学「専門職連携を学ぶ講座」IPWを促進するF-SOAIP研修 6/14(金)8/2(金)9/20(金)10-17時
- 医療福祉を学ぶ学生向け：教育課程で学びたかったという要望に応えます。上記のリーダー研修修了者等が対応予定。

アピールポイントなど

- F-SOAIP研修：各都県の介護支援専門員協会、地域包括・在宅介護支援センター協議会、社会福祉協議会、高齢・障害・医療等の法人、福岡県・政令市児童福祉司会等で実施してきました。
- 実践報告によれば、利用者・家族からも好評であり、ボランティアや民生委員の皆さんの共感性も高まるとのこと。
- ワークショップ等：日本ソーシャルワーク教育学校連盟、日本介護福祉学会、日本医療ソーシャルワーク学会等
- 自治体、国公立のや民間の病院、社会福祉法人や地域包括支援センターなどでも導入が進んでいます。
- 実践報告：『月刊ケアマネジメント』『訪問リハビリテーション』『カイゴのチカラ』『認知症ケア』『住民行政の窓』『最新医療経営PHASE3』『月刊新医療』『看護管理』『ナーシングビジネス』『エキスパートナース(2024年8月号～)』『臨床栄養』『おはよう21』等／
- F-SOAIP実践・教育研究所(共同代表者：国際医療福祉大学大学院特任教授 小嶋章吾)

<http://seikatsu.care> 本シリーズ「自治体・メディア向け」や「システムベンダー・研究者向け」もご確認ください。



重層的支援体制整備事業を見据えた自治体のシステムにF-SOAIP搭載 ～ミクロ・メゾ・マクロレベルの横断的課題解決～

社会福祉子ども学科 社会福祉学専攻

Tsukamoto Mami 准教授

【研究分野】 ソーシャルケア、対人支援 多職種連携、地域包括ケア
【キーワード】 F-SOAIP、自治体、重層的支援、横断的課題解決、ミクロ・メゾ・マクロ、協創型イノベーション
【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=198shima>



研究概要

- 対人支援(保健・医療・福祉・介護・保育・教育・心理・司法)の経過記録の方法として F-SOAIP(エフソ・アイピー)を開発しました。
- この6項目で、経過記録を漏れなく勘違いなく、効率的に書ける・読めるようになります。
- 行政の相談支援における情報共有、事例検討、OJT、スーパービジョン、リフレクションをはじめ、業務分析などのデータ利活用に役立ちます。

自治体・メディア向け

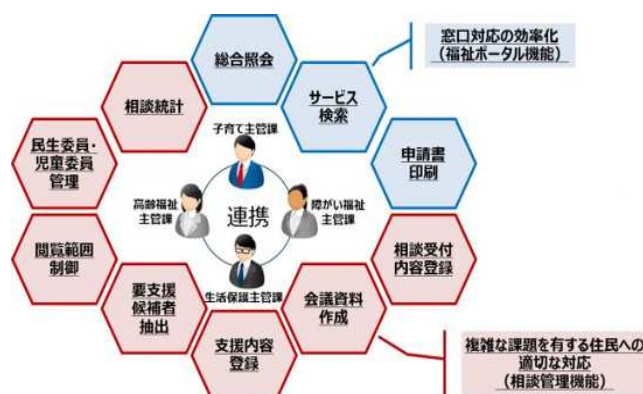
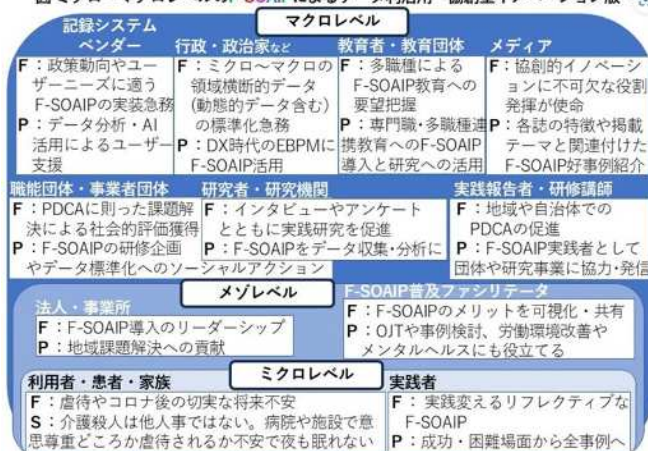
F-SOAIPの6項目(実践の可視化:必要最小限)

F Focus 着眼点	ニーズ、気になり等 ※その場を簡潔に→ タイトル ※ケアプランの 目標・課題 や プランと連動
S Subjective Data 主観的情報	利用者(キーパーソンを含む)の言葉 ※キーパーソンの場合、S(関係や統柄)と表記
O Objective Data 客観的情報	観察・状態や他職種から得られた情報、環境・経過等
A Assessment アセスメント	援助者(記録者本人)の判断・解釈 → 気づき・考えた事
I Intervention Implementation 介入・実施した事	援助者(記録者本人)の対応 ※支援、声かけ、連絡調整、介護等
P Plan 計画	当面の対応予定

研究紹介

- 科学研究費補助金による研究代表者として、実務者(介護支援専門員、介護職、ソーシャルワーカー、生活支援員、医師、看護師、作業療法士、理学療法士、薬剤師、栄養士等)、政策担当者(国会議員、行政等)、システムベンダー等へ、F-SOAIPの普及・定着に向けたソーシャルアクションに取り組んでいます。

図 ミクロ～マクロレベルのF-SOAIPによるデータ活用～協創型イノベーション版～



(株)TKC、相談支援サービスの質と生産性の向上へ「福祉相談支援システム」を機能拡充 <https://www.tkc.jp/news/2020/20200513>
ニュースリリース所収の図

講座テーマ紹介

- 自治体向け：重層的支援体制の実現～多機関多職種の協議体におけるF-SOAIPの活用～

アピールポイントなど

- 著書：Tsukamoto Mami・小嶋章吾『医療・福祉の質が高まる生活支援記録法[F-SOAIP] 多職種の実践を可視化する新しい経過記録』中央法規出版、2020年／分担執筆『ソーシャルワーク記録』誠信書房
 - F-SOAIP研修：受講者数 全国 約**1万5千人**(当法人役員が講師をお引き受けした分のみ)
 - 実践報告者等：延べ 約**200人**(連載13誌72本、単発9誌17本、延べ**21誌89本**(2023年度末現在見込))
 - 『住民行政の窓』(2021年1月～4月号)：厚生労働省、生活困窮者自立支援、地域包括支援センター、東京都特別区、福祉事業団、福祉事務所等
 - 『自治実務セミナー』(2023年12月号～連載中)：総務省、東京都、福祉事務所、児童相談所、保健師等
 - 重層的支援体制整備事業の展開に向け、F-SOAIPの搭載を要件とするシステム発注の自治体あり
 - F-SOAIP実践・教育研究所のHPより研修教材等をダウンロードできます。 <http://seikatsu.care>
- 本シーズ「利用者や家族・専門職・団体向け」や「システムベンダー・研究者向け」もご確認ください。



DX推進に資するF-SOAIP多領域汎用型システムによるプラットフォーム ～リアルワールドデータによるイノベーション～

社会福祉子ども学科 社会福祉学専攻

畠末 憲子 准教授

【研究分野】 ソーシャルケア、対人支援、多職種連携、地域包括ケア

【キーワード】 F-SOAIP、リアルワールドデータ、多領域汎用型システム、イノベーション、DX、AI、M-GTA

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=198shima>



研究概要

利用者や家族・専門職や自治体等のニーズに着目した リアルワールドデータ によるDX推進・AI化等のイノベーションを起こすべく、F-SOAIP多領域汎用型システムによるプラットフォーム構築に向け、研究紹介にある他、自治体福祉相談（株）TKC）や電子カルテシステム等のシステムベンダー各社様との共同開発に取り組んでいます。

研究紹介

- 文科省科研によるM-GTA（木下康仁）研究成果の応用を社会実装する過程にてF-SOAIPを開発（研究代表）
- AMED事業（代表：山口春保：認知症介護研究・研修東京センター）にて認知症BPSD予測のためのAIシステム開発に参画●厚労科研（研究代表 上田敏丈 名古屋市立大学大学院）にて保育領域記録システム（COVAP）を開発●老人保健健康増進等事業（F-SOAIPの試行事業）の参画施設が採用していた介護記録システムにF-SOAIP搭載の協力

●地域包括ケアシステム向け



(株)アルム 地域包括ケアシステム推進ソリューション「Team」
<https://www.allm.net/team/>

●認知症ケア(BPSD発症予測)AIシステム



ゲオム(株): 認知症BPSD発症予測システム(音声入力によるF-SOAIPの自動分類) https://www.dcnf.gr.jp/pdf/journal/decaai_20230104.pdf

講座(コンサルテーション)テーマ紹介

- 多機関多職種向けの記録システムベンダーへのF-SOAIP搭載：リアルワールドデータ分析支援等

アピールポイントなど

- 重層的支援体制整備事業の展開に向け、F-SOAIP搭載を要件とするシステム発注の自治体が複数有。
- 富士通Japan(株)の電子カルテにF-SOAIP搭載が決定。GEヘルスケア・ジャパン(株)のコマンドセンターを導入した東京都立墨東病院をはじめ、医療系雑誌にて紹介した医療機関でのF-SOAIPデータによる医療DXを期待。
- 株式会社ワイズアンドテクノロジー（筑波大学発のベンチャー企業）とF-SOAIPのアプリ開発によるロジックモデルの政策提言研究を支援予定（『月刊ケアマネジメント』2024年4月号参照）。

<http://seikatsu.care> 本シーズ「利用者や家族・専門職・団体向け」や「自治体・メディア向け」もご確認ください。

システムベンダー・研究者向け

●保育所 特別な支援が必要な保護者対応記録

フレアーズ合同会社: F-SOAIPに基づくデータベース型記録システム



<https://ueda534.my.canva.site/covap-examin>

●介護記録

【ケアノートとF-SOAIPのシナジーについて】

ケアノートはもともボタン入力（定型句や定型文を選択する記録方式）で直感的な記録ができる介護記録システムであり、日常記録の負担軽減においては既にご利用ユーザー様も含め他所の方より大変ご評価を頂いている部分であります。今回F-SOAIP形式での記録方式もカバーすることで、ボタン入力以外、つまり今まで自由記述であった日常の記録の補足や特記事項においても記録の定型化を図ることができるようになります。これにより自由記述部の書き方のバラつきを減らし、内容を充実させた上で記録時間を短縮させることが可能になり、また、データの検索・分析も行いやすくなるため、サービスの質を更に高めたい施設様には是非お使い頂きたい機能となります。

<F-SOAIP入力補助機能のメリット>

- ボタン入力の記録の他に、
- ・テキスト入力及び特記事項の記録精度向上
- ・テキスト入力及び特記事項の検索/データ活用/分析の精度向上

オールウィンシステム(株): F-SOAIP搭載の「ケアノート」
https://allwinsys.co.jp/carenote/news/20231227_1/



障がいのある方の地域生活支援

社会福祉子ども学科 社会福祉学専攻

高島 恭子 准教授

【研究分野】 障害者福祉、精神保健福祉

【キーワード】 障がい、地域生活、障害者権利条約

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=298taka>



研究概要

障がいのある方の地域生活支援に関する研究

どこで誰と生活するのかの選択の機会が確保され、地域社会の中で他の人々と共に暮らしていくことは私たちの誰もにとって普通のことであるはずです。居住、移転の自由や、「自立した生活及び地域社会への包容」（障害者権利条約第19条）は法等に明記されていますが、現実はどうでしょうか。障がいがあるとき私たちはどこでどのように暮らしたいのか、その生活を実現していくためには何をしていくのがよいのかなどを考えていきたいと思えます。その上で、障がいの有無に関わらず、誰もが自分らしい暮らし方を選択する機会が確保されるための下位目的と手段、**道筋を示すことのできるロジックモデルを作成**します。

研究紹介

1. 国内の障害をもつ方々やご家族の居住（暮らしの場、暮らし方）に関わる願い、思いについての調査研究（聞き取り調査など）により、**あるべき状況と現状のギャップ**を把握する。
2. 国連障害者委員会に提出された各国レポート、市民団体からのレポート、国連障害者委員会から出された一般的意見、障害者権利条約指標を手掛かりに、障害をもつ人の居住（暮らしの場、暮らし方）に関わる**国際動向、方策などを整理**する。
3. 居住（暮らしの場、暮らし方）に関わる選択の機会を確保し、選択肢を地域社会に具現化するための**ロジックモデル**を作成する。
4. 自分らしい暮らしを思い描き、伝える／受け止めるための**意思決定支援プログラム**を開発する。

講座テーマ紹介

- 「障がい」とは何か考え理解を深める講座
障害の構造と障害者福祉に関わる理念、精神保健福祉、合理的配慮についての背景、理論、事例など
- 対人コミュニケーションを考える講座

アピールポイントなど

自治体の保健福祉審議会委員、長崎県精神保健福祉士協会理事などをさせて頂いて参りました。また、市にて行われる精神保健福祉に関わる意識向上のための事業や長崎県手をつなぐ育成会の「障害のある人の権利擁護・意思決定を支えるための推進会議」事業への参加を通じ、地域社会全体に働きかける活動を行ってきました。その他、日本ソーシャルワーカー協会理事（国際委員）として海外のソーシャルワークを日本に紹介したり、国内外の多文化ソーシャルワークに関する調査研究に参加したりしています。



ボランティア・社会参加に関する研究

社会福祉子ども学科 社会福祉学専攻

保科 寧子 准教授

【研究分野】 地域福祉、高齢者福祉、社会参加
 【キーワード】 ソーシャルワーク、社会参加、多様性、ボランティア
 【URL】 <https://researchmap.jp/hoshina-yasuko>



研究概要

社会参加は人間にとって非常に重要であることが明らかになってきており、心身の状態にも大きな影響を及ぼしています。さまざまな人々が他者と安心して交流できる居場所づくりに国や地方自治体も取り組み始めています。

私は人と社会との関係性に関心を持ち、さまざまな角度から**ボランティア・社会参加活動の効果や課題の明確化**に取り組んでおります。

研究紹介

- ・対話・交流を行うボランティアの有効性や課題
 - ・在日外国人支援を行うボランティアの課題の明確化
 - ・埼玉県における公立中学校2年生の自己肯定感に関連する要因の検討－学校生活・経済状況・家族関係の視点から－
 - ・労働者が職場において疎外感や差別を感じる要因に関する実態調査－教育機関における労働環境改善の視点から－
- いずれもボランティア、学校、職場などの社会参加の場における実態把握や人々が社会と繋がることの有効性と課題を研究しております。

講座テーマ紹介

今までに担当した主要な講座をご紹介します。

【地域福祉・ボランティア分野】

- ・地域福祉実践能力養成研修（複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な相談支援を行うための基本的な支援方法と事例検討を通じた実践的学習）
- ・福祉推進員研修（ボランティアの定義や意義と地域課題を考えるグループワーク）
- ・脳卒中リハビリテーション看護認定看護師教育課程：地域福祉（地域で暮らす脳卒中患者の活用できる制度や社会資源）
- ・ボランティア入門講座（ボランティア活動に入る際に必要な知識とボランティアの守秘義務を考えるグループワーク）

【高齢者福祉・介護保険分野】

- ・ケアマネジャー研修（障害者福祉制度と介護保険制度を併用したケアプランの作成）
- ・主任介護支援専門員研修（8050問題の具体的な事例とそれに実際に対応するための手法・ネットワークづくり）

【ソーシャルワーク分野】

- ・社会福祉士実習指導者講習会（実習マネジメント・スーパービジョンの手法と演習）

アピールポイントなど

今までに自治体における地域包括支援センター運営協議会、高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定委員会各委員や社会福祉協議会理事などを担当させていただく機会がありました。自治体や社会福祉協議会との研究や協働に関心を持っておりますので、お役に立てることがありましたらお声がけいただけますと幸いです。支援現場の課題を解決することにも関心があります。共同研究など、お気軽にご相談いただけますと嬉しいです。



子どもと保護者の心理・保育リーダーシップ

社会福祉子ども学科 福祉子ども学専攻

越智 幸一 教授

【研究分野】 発達心理学、教育心理学、臨床発達心理学
 【キーワード】 メタ認知の発達、自尊感情、シャイネス、子育て不安、保育リーダーシップ
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=264ochi>



研究概要

- ・子どものメタ認知の発達
- ・児童、青年の自尊感情とシャイネスの関連性
- ・子育て不安・ストレスと関連する諸要因
- ・保育リーダーシップと保育組織の活性化
- ・教育実習・保育実習における不安、シャイネスの諸相

研究紹介

- 母親の育児不安、育児ストレスと関連する諸要因に関する研究
 - ・愛着の安定性と育児不安との関連性
 - ・育児ストレスを軽減させる育児サポートの効果
 - ・ママ友の両義性：育児ストレスを軽減させるか、増加させるか
 - ・育児ストレスと母親のパーソナリティとの関連性
- リーダーシップを発揮した保育組織活性化に関する研究
 - ・保育組織が活性化していくプロセスを
 - ①組織内コミュニケーション
 - ②組織目標の共有化
 - ③職員の成長の実感
 から捉え、保育組織を活性化するための園内研修を企画、運営
 - ・保育組織活性化のための「ドキュメンテーション」導入の効果
 - ・保育現場において職員の成長を測定するためのコアコンピテンシーの抽出
 - ・初任者が成長していくプロセスを明らかにするための質的研究
 - ・キャリアパスの導入が保育組織活性化に及ぼす効果

講座テーマ紹介

以下のような公開講座、保育者向けの研修会の講師を務めてきました。

- ・子どもの心理学入門（一般向け、保育者向け）
- ・保護者の心理、保護者対応について（保育者向け）
- ・保育におけるリーダーシップとは（保育者向け）

アピールポイントなど

これまで以下のような各種委員会に参加させていただいてきました。

- ・子ども関連審議会
- ・就学指導委員会
- ・公立保育所民営化委員会



障害のある子どもたちの発達支援

社会福祉子ども学科 福祉子ども学専攻

林 恵津子 教授

【研究分野】 就学前の子ども発達支援、重症心身障害児の発達評価
 【キーワード】 発達障害、特別支援教育・保育、重症心身障害児
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=206haya>



研究概要

幼稚園や保育所における発達支援

集団の中で障害のある子どもない子ども「皆とともに育つ」支援のあり方を探っています。

内因性瞬目を指標とした重症心身障害児・者の発達評価

瞬きを用いて興味関心や注意の持続について評価を行っています。

研究紹介

幼稚園や保育所における発達支援

幼稚園や保育所には、発達に課題のある子どもたちが少なからず在籍しています。集団の中で障害のある子どもない子ども「皆とともに育つ」支援のあり方を探っています。

内因性瞬目を指標とした重症心身障害児・者の発達評価

重症心身障害児・者は重度の身体障害があるために、感情や意図を表すことに制限があります。そのため、働きかけなどを受けとめているか、体の動きや表情で判断が難しく、支援者や保護者の燃え尽きの原因にもなっています。

瞬きは厳しい運動障害があっても発現することが多く、簡便な機器で記録できます。そこで、瞬きを用いて興味関心や注意の持続について評価を行っています。

講座テーマ紹介

自治体や事業所から依頼を受けて以下のような研修を開催しています。

- ・ 幼稚園や保育所における発達障害のある子どもの支援のあり方
- ・ 保護者支援のあり方
- ・ 乳幼児の発達の道すじ
- ・ 障害のある子どもたちの就学支援

アピールポイントなど

子どもが持てる力を最大限に発揮し幸せに成長できるよう、子ども中心にした支援を大切にしています。



音楽でつながる新たな自分、人との関わり方の提案

社会福祉子ども学科 福祉子ども学専攻

伊藤 知子 准教授

【研究分野】 音楽、音楽療法、音楽表現

【キーワード】 趣味、音楽鑑賞、演奏、自己覚知

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=211ito>



研究概要

子どもから高齢者まで、また、さまざまな障害を抱える方々がそれぞれの環境の中で音楽を感じることでできる活動が行われています。

音楽には生理的作用・心理的作用・社会的作用があるとされていますが、人は無意識にこれらの作用を活かし音楽を楽しみ、人と繋がっています。

これまで高齢者の音楽療法の観点から音楽の力を療法に活用する方法について考えました。また、「子どもの音楽との出会い」は保育者自身の好奇心が子どもの「もっとやってみたい」につながり、子どもの成長に重要であると考え、保育者自身の保育者養成における音楽表現について研究してまいりました。

普段、あまり気にしない音楽との関わりの中に潜む音楽の力を再確認し、新たな自分と出会い、人と人が繋がる方法を探していきます。

講座テーマ紹介

- ・親子で楽しむ音楽表現
- ・音探しと音楽作り
- ・音の重ね方を考えよう
- ・音楽理論と照らし合わせながらの音楽鑑賞の楽しみ方
- ・演奏家や作曲家の人間味を感じ、その音楽の特徴を探してみよう
- ・演奏者による演奏の違いを感じ、音楽を扱う漫画の中の演奏を想像してみよう
- ・離れていても、一人でも大丈夫、アプリを利用して合奏（合唱）を楽しもう

アピールポイントなど

日頃、保育者養成を行う中で、子どもと音の出会い、子どもの音楽の出会いについて、学生たちと考えることで、自分自身が思いもよらなかった場所に新たな音や音楽との出会いが潜んでいることに気づくことがあります。

音楽的成長を促す方法を考えることで、自身の好奇心やこだわりにも気づくことがあります。先駆者や自身の研究の中で学んだ「音楽の力」や学生たちとの関わりの中で学んだ気づきをもとに、これまで趣味で楽しむ音楽を少しだけいつもと違う楽しみ方を提案します。

演奏家や作曲家、鑑賞する私たちの小さなこだわりや好奇心に気づき、共有し合うことで、自分では思いもよらなかった新たな気づきを見つけましょう。

音楽鑑賞の幅を広げることで不安神経症の治療をおこなったという事例もあります。

少しだけの変化がご自身の大きな変化につながります。生活の中に普通に存在する音楽との関わり方を少しだけ意識することで、今までの自分に気づき、より豊かな生活につながれるといいなと考えています。

近代日本・学びのモノづくり 教育掛図・博物図・標本画の図像研究

社会福祉子ども学科 福祉子ども学専攻

牧野 由理 准教授

【研究分野】 美術教育学、美術教育史、芸術学

【キーワード】 幼児造形教育史、美術教材史、教育掛図、博物画、標本画

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=208maki>



研究概要

近代日本の子どもたちの視覚イメージの源泉を探るため、教育用の絵図や教育掛図、保育記録、教科書、錦絵、雑誌、書籍など学びの“モノ”を対象として研究しています。さらに教育掛図の原画となった博物図や標本画、それらを描いた画家にも焦点をあて図像研究もすすめています。

研究紹介

1. 幼児の造形教育史に関する研究

明治から戦前までの幼児教育の現場でどのような造形教育が行われていたのか、現存する子どもの作品や保育者による保育記録、教材、手本等を分析し研究しています。

2. 教育掛図に関する研究

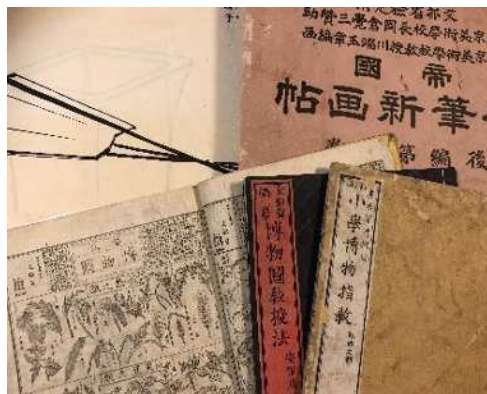
教育掛図とは、教室の黒板や壁に掲げた教授用の大判絵図や表などを指します。欧米から輸入され、幼児教育から大学教育まで幅広く使用されていた教材です。制作に携わった画家や出版者、印刷者等について研究しています。

3. 博物・標本画家についての研究

教材の原画としても扱われた博物図譜や標本画について美術史の観点から研究しています。近代生物学者の標本画家でもあった画家・佐久間文吾についての研究をすすめています。



教育錦絵（筆者所蔵資料）



図画・博物教科書（筆者所蔵資料）

講座テーマ紹介

- ・ 幼児の造形教育の歴史、美術教育史、美術教材史、教育掛図、生物学者と標本図に関連する講座
- ・ 戦前の教育史料や標本図・博物画に関する助言・調査等

アピールポイントなど

国立科学博物館の協力研究員として、美術史の観点から教育掛図や博物画に関する研究をすすめております。



かけがえのない子ども時代を支える

社会福祉子ども学科 福祉子ども学専攻

森田 満理子 准教授

【研究分野】 幼児期の教育、保育者養成、子育て支援
 【キーワード】 保育者養成、教材研究、保育内容、言葉、人間関係、素話
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=209mori>



研究概要

現在の保育者養成においては、学生が遊びや学びといった言葉の意味することを体験を通じた実感をくぐってわかりることが不可欠であるという考えのもと、体験を通ずることによる主体的学びを保証する教育研究活動を行っています。

研究紹介

1. 効果的な保育者養成のための授業研究
 遊び・教材研究・立案・保育の構想について、学生が体験を通じた学びを重ねることで、遊びや学びの意味を深く理解できるようにすることを目指して、担当する複数の種類の授業科目において実践研究に取り組んでいます。現在は、主に、ルールのある遊び、素話、ことば遊びを題材としています。
2. 子育て支援に関する研究
 保育現場における子育て相談体制の構築に向けて、他大学の教員との共同研究に取り組んでいます。
3. 保育実践・保育内容に関する研究
 過去、幼稚園教員として勤務した時代、実践者の立場から保育内容言葉・保育内容人間関係、さらに園全員で5領域の各領域・保育内容・幼小連携等、保育の実践における保育者の指導と子どもの経験について実践研究をしてきました。

講座テーマ紹介

1. 保育者・小学校教諭を対象とした過去の講演・研修
 - ・埼玉県国公立幼稚園・こども園教育研究会夏季研究協議会における講演（園生活を通じた心の形成）
 - ・埼玉県幼稚園教育課程研究協議会（国公私・幼保）における講演（教育要領における領域言葉）
 - ・越谷市教育委員会幼保小研修会における講演（幼保小の連携）
 - ・幼稚園における園内研修講師（教材研究と環境構成の視点から実践と研究への助言等）
2. 一般を対象とした過去の講座
 - ・放送大学対面授業における「幼児教育における学び」の講義

アピールポイントなど

- ・卒業生の支援として、子どもの権利の視点から子ども理解と関わりを考える勉強会を行っています。
- ・小学生の異学年間の交流を目的とした放課後子ども教室における実践研究、地域における子育て支援の実践研究において、学生スタッフの教育と実践を組み込んできました。
- ・自治体における子ども・子育て会議、子どもの権利委員会等の委員を務めています。
- ・勤務していた幼稚園からお声がけいただき評議員を務めています。



地域と協働する保育実践・保育者養成

社会福祉子ども学科 福祉子ども学専攻

田口 賢太郎 助教

【研究分野】 保育学、地域に根差した保育実践、保育の評価

【キーワード】 保育、地域連携、コミュニティ、保育者養成

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=304tagu>



研究概要

近年、幼児期の保育・教育への公的資金の投入が社会政策的にも効果的であるとの研究の裏付けを得て、保育・幼児教育への関心が社会的にも高まっています。しかし、一方でその関心の集め方には、保育の社会的な意義をただちに経済的な指標に結び付け、あるいは個々の子どもの能力の伸長のみに還元してしまいかねないという危うさもあります。

特色ある保育実践や子どもの具体的な育ちを、「園」内や個々の子どもにとっての意義のみに完結させずに、「地域」や「社会」における意義からも捉えなおしたいと考えています。「保育」の営みが地域や社会にとってどのような意義があるのかを追究し、また保育から「地域づくり」を興していくための基礎的研究に取り組んでいます。

研究紹介

1. 認定こども園におけるカリキュラム・全体的な計画にみる1号・2号（および3号）
認定の子どもに提供される「保育」「教育」の差異
2. 保育士養成課程の科目・保育士等キャリアアップ研修内容にみる保育士の専門職性・
コアスキルとキャリア展望
3. 保育学研究における（エピソード記述等を含む）現象学的アプローチの意義と課題
4. 保育・教育における「生活」概念の思想史的探究—大正新教育期の言説を中心に—
5. 19～20世紀フランスにおける「道徳」の理論・思想の研究

講座テーマ紹介

これまで自治体・保育所等からの依頼を受けて、以下のような講演・研修等の実施実績があります。

（一般向け講座）

- 男性の子育て・育児参加について（山梨県）

（保育士等専門職者向け講演・研修）

- 記録をもとにした保育の振り返り（鳴沢村・保育所）
- 保育士による保育研究・保育実践の評価（岡谷市・保育所）
- 「保育士等キャリアアップ研修」／保育所等関係職員研修（山梨県）
「幼児教育」「マネジメント」
- 「保育所保育指針」の改定に関する講習（甲州市、韮崎市、大月市、山中湖村）

アピールポイントなど

教育哲学・思想史研究をバックグラウンドに、保育の具体的な実践や保育者養成のあり方を探究してまいりました。保育の具体的な実践においては、背景にある思想—子ども、保護者、保育者、地域の思い—も同時にしっかり「考える」ことを大切にしています。



がん登録からがん対策への期待

健康開発学科 健康行動科学専攻（健康情報学専攻 2025年度より）

大木 いずみ 教授

【研究分野】 公衆衛生学・疫学、疾病登録、がん対策
 【キーワード】 がん登録、がん検診、がん対策、地域保健
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=3150ki>



研究概要

全国がん登録のデータから、都道府県ごとのがん罹患・死亡状況を観察して、その地域に重要ながん対策へつなげる研究をしてきました。

市町村のがん検診事業においても、感度・特異度、陽性反応的中度を求めたり、プロセスを含めて評価検討し、より効果的な検診事業改善への提言をしてきました。

公衆衛生対策を実施する際に必要な、エビデンスとしてのデータ収集について、様々な角度から関与しています。データ利用促進に関する研究・活動もしています。

研究紹介

Cancer Observatory がん統計ポータルサイト
<https://canobs.jp/>



講座テーマ紹介

1. がん登録から地域のがんの状況把握、がん対策への応用など（長期的な検討）
2. がん検診の精度管理の評価
3. 院内がん登録の評価方法
4. 院内がん登録を用いたがん診療の実態把握・感染症（COVID19等）や災害ががん診療に与える影響を把握する
5. がん登録の精度評価・向上対策
6. ライフステージに応じた健康講座
 「がん」に関する健康講座（一般向け）：総論的な内容と予防
 「がん」に関する授業（小学生～中学生向け）

アピールポイントなど

栃木県では、保健医療福祉関係の方の調査研究サポート事業に参加実施してきました。
 国・都道府県の各種委員会に参加しています。
 日本がん登録協議会副理事長



社会的成果につながる健康づくりへ －研究をどのように実社会に還元するか－

健康開発学科 健康行動科学専攻（健康情報学専攻 2025年度より）

北畠 義典 教授

【研究分野】 運動疫学、公衆衛生学、健康教育学

【キーワード】 自立高齢者、集団戦略型健康づくり、身体活動、協働

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=218kita>



研 究 概 要

社会的成果につながる健康づくりへ

これまで高齢者の健康づくりは機能回復に主眼が置かれる傾向にありますが、これからは高齢者が地域の中に生きがいや役割をもって生活できるような環境を整備して健康づくりを目指す必要があります。そのためには、**全ての人々を対象とした集団戦略型の健康増進対策として健康づくりを実践することが重要です**。これらを実現するためにはヘルスプロモーションを念頭においた多領域・多分野の専門家が学際的に連携し、さらに**住民と行政との協働によって、包括的な健康づくりの方法を開発**することが必要となります。

研 究 紹 介

都留スタディ

テーマ

地域の自立高齢者を対象とした生活拠点型介護予防システムの開発

山梨県都留市（総人口；31,246名、高齢者人口；8,155名） 2019年時点

* 高齢化率：26.1%（全国26.7%：県内19位/27市町村）

ベースライン調査 2016年1月

追跡調査

2018年1月
2019年1月
2022年1月

研究対象者：**全ての自立高齢者6,661名**

（市在住の要介護認定を受けていない人）

調査方法：**全数調査**（郵送法）

回収数（率）：5311名（79.7%）

調査内容：基本チェックリスト、身体活動、膝痛、認知機能、うつ、睡眠、フレイル、既往歴など

☆ベースライン調査と同様のものを毎回実施

☆介護認定者数等の把握

☆各調査期間までのデータを用いて変化を検討

※研究者と行政との連携から

→ **地域保健政策に活かせるエビデンス（根拠）の提供**

講 座 テーマ 紹 介

・地域高齢者の集団的健康づくりの開発とその評価について

アピールポイントなど

現在、我々は山梨県都留市の全自立高齢者の健康実態調査を用いて、**厚労省が進めている「通いの場」の効果検証を進めています**。**住民主体の健康なまちづくりを住民・行政・研究者の協働ですすめてみませんか。**

自治体での委員

- ・都留市 セーフコミュニティ外傷サーベイランス委員（2018年11月～）
- ・春日部市 健康づくり推進審議会 委員（会長）[2019年4月～]
- ・春日部市 高齢者保健福祉計画等推進審議会 委員（会長）[2019年4月～]
- ・越谷市 生涯学習審議会 委員（副会長）[2021年4月～]
- ・戸田市 保健対策推進協議会 委員（会長）[2021年4月～]



社会的成果につながる健康づくりへ ー身体活動を用いた不眠改善プログラムの開発ー

健康開発学科 健康行動科学専攻（健康情報学専攻 2025年度より）

北畠 義典 教授

【研究分野】 運動疫学、公衆衛生学、健康教育学

【キーワード】 自立高齢者、集団戦略型健康づくり、身体活動、睡眠

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=218kita>



研 究 概 要

身体活動を用いた不眠改善プログラム

我々は 睡眠に不満を持っている女性自立高齢者31名を4週間、毎日就寝前にヨガストレッチ（5～10分）＋日中に散歩（20分）を実施する群（介入群：15名）と4週間これまで通りの生活を過ごす群（対照群：16名）とに無作為に分けて、ストレッチ運動が不眠に及ぼす影響を検討しました。その結果、運動を実施した群で中途覚醒時間の短縮（一晩に途中で目が覚めずに眠り続けられるようになる：図1）、及び主観的な睡眠感の得点の減少（得点の減少は良好であることを示す：図2）が示されました。このことから、実施した運動によって軽度な疲労が生じ、その疲労を回復するために眠り続けられるようになり、そのことで睡眠への満足度が高まったことが分かりました。

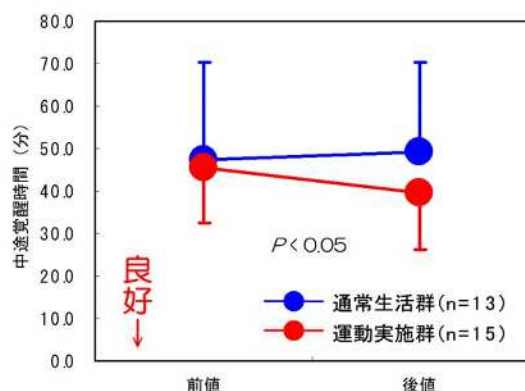


図1 中途覚醒時間の変化
＜眠り続けられるようになった＞

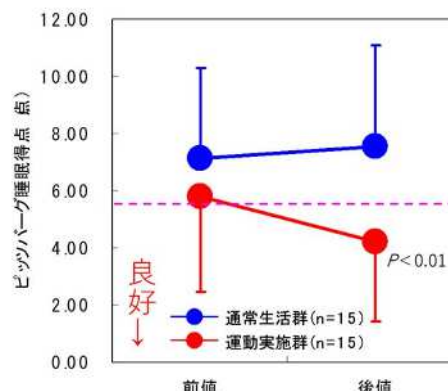


図2 睡眠総合得点の変化
＜睡眠に対する満足度が高まった＞

講 座 テ ー マ 紹 介

- ・地域高齢者の睡眠について
- ・身体活動の推進（座位行動の減少）について
- ・地域高齢者の身体機能・精神的機能について

アピールポイントなど

これまで、高齢者の健康づくりは機能回復に主眼が置かれる傾向にありました。これからは高齢者が地域の中で生きがいや役割をもって、いきいきと生活できる環境を整える中で健康づくりを目指すことも必要です。また上記のような科学的根拠に基づいた健康支援プログラムを用いて、より多くの人を対象とした際の集団戦略型の介入研究の蓄積が必要になります。住民主体の健康なまちづくりを住民・行政・研究者の協働ですすめてみませんか。

自治体との共同研究

- ・都留市 長寿介護課との共同研究（1995年6月～）
- ・都留市 セーフコミュニティ外傷サーベイランス委員（2018年11月～）



保健医療福祉に関する調査研究

健康開発学科 健康行動科学専攻（健康情報学専攻 2025年4月より）

延原 弘章 教授

【研究分野】 保健統計、疫学

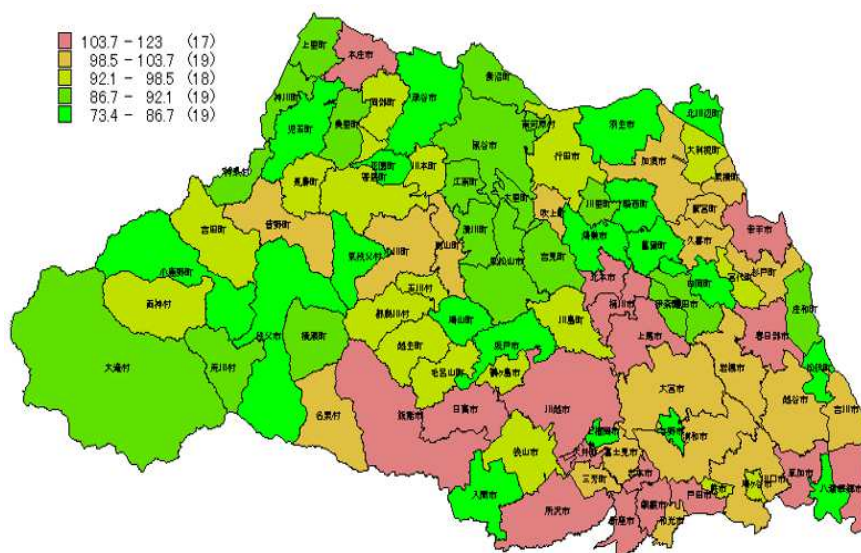
【キーワード】 標準化死亡率

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=215nobu>



研究概要

地域における調査や行政統計などを用いた疫学研究を行っています。現在は主要な死因について、1983～2017年の全国市区町村別標準化死亡率（SMR: Standard Mortality Ratio）の推移についての研究を行っています。SMRは塗り分け地図（SMR分布地図）を作成することにより特定の死因の地域的な偏在の確認ができますが、長期的な推移についてはこれまであまり検討されることがありませんでした。そのため、まず同一の基準で時系列で比較可能なSMRのデータベースの作成を試みています。



埼玉県市町村別乳がん(女)SMR(ベイズ統計量)分布地図(1996-2000年)

講座テーマ紹介

●専門職向け

「調査データ分析の基礎」：統計調査の経験の少ない方は、どのような統計手法を使えばいいのかわからなくて困っていると言われるかもしれません。しかし、一緒に作業をしてみると、そもそもデータの入力方法が間違っている、統計分析に適さないデータの収集の仕方をしているということが少なくありません。データクリーニングという概念すら知らないままに分析をする方もいます。調査データ分析の基本的な内容から簡単な分析までをお話しします。

「データ分析演習」：特別な統計分析ソフトがなくても、ある程度のことはExcelやフリーソフトで可能です。簡単な統計分析の演習を行います。

アピールポイントなど

岡山県看護教員養成講座の看護研究（調査研究）講師、岡山県看護協会研修会講師（看護研究）等の経験があります。また、2001年から約10年にわたってインフルエンザワクチン需要予測調査（厚生労働省科学研究費補助事業）を実施してきました。



エビデンスに基づいた食育の推進

健康開発学科 健康行動科学専攻（健康情報学専攻 2025年4月より）

内山 真理 准教授

【研究分野】 公衆栄養、栄養教育

【キーワード】 食育、栄養、食事調査

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=220uchi>



研究概要

食育は、対象集団の食生活に関する実態を把握し、健康・栄養上の課題を明らかにすることから始まります。そこで、下記①～③について提案を行い、学校、地域、職域におけるエビデンスに基づいた食育をサポートします。

①食育計画立案、評価のための食生活に関する実態調査（食事調査を含む）の計画、実施、分析、評価

②実態調査に基づいた食育計画の立案

③食育計画に基づいた食育プログラムの計画、実施、評価

こうした活動を通じ、食・栄養に関するエビデンスを構築し、幅広い世代の健康づくりに貢献したいと考えています。

スタート



小学生を対象とした
親子食育講座



大学生を対象とした食育イベント
(埼玉県立大学HPより)



「地域住民を対象とした
減塩講座」

講座テーマ紹介

学校・自治体・企業等から依頼を受け、下記のような講演・食育活動を行っています。

- ・食育講座 「朝食の大切さ」、「子どもからはじめる減塩」
- ・生活習慣病予防講座 「健康的にやせる栄養の基礎」、「減塩の工夫」
- ・介護予防講座 「高齢者の栄養」、「骨粗鬆症予防のための食事」
- ・市民講座、高校出張講座 「健康食品・サプリメントとの上手な付き合い方」
- ・食育活動 「親子食育講座」、「大学生を対象とした食育イベント」

アピールポイントなど

人々の食は、家族、経済、環境などの様々な要因が複雑に絡み、多様化しています。また、食は、栄養素を摂取するという生理的な機能だけではなく、楽しく食べることで心の満足感を得たり、人と人のコミュニケーションを円滑にするといった心理的な機能、食文化、食習慣を伝える文化的な機能を持ちます。管理栄養士としての専門性を生かし、さまざまな専門分野、職種の方々とのつながりを大切にしたいと考えています。



日本人の死後世界観・犯罪被害遺族と司法

健康開発学科 健康行動科学専攻（健康情報学専攻 2025年4月より）

白岩 祐子 准教授

【研究分野】 社会心理学、死生学、被害者学
 【キーワード】 死別・信仰、被害者法制・効果検証・交通事犯の撲滅
 【URL】 <https://yukoshiraiwa-rana.jimdo.com/>



研究概要

犯罪被害者という「心のケア」が注目されがちですが、多くの被害者やご遺族は**刑事司法**（捜査や裁判など）に強い関心と利害を有しています。そのため日本では2000年以降、複数の被害者法制が制定されてきました。それらの司法制度について行動科学の観点から**効果検証**を行ったり、**交通事犯**を根絶するための政策を提言したりしています。

また、被害者遺族との交流をきっかけに死別に関心を抱くようになりました。ここ数年は**日本人の死後世界観**をテーマとして、その構造や社会的な機能を明らかにするための研究（実験や調査など）を進めています。

研究紹介

1. 被害者のための司法制度

- 1) 「被害者対策要綱」の効果検証：警察による配慮・情報提供・公正な捜査
- 2) 「被害者参加制度」の効果検証：事件について知る権利
- 3) 交通事犯を根絶するために：人ではなく環境（道路・自動車など）に働きかける政策

2. 死別と他界・信仰

- 1) 日本人の死後世界観：その構造と社会的な機能
- 2) 死をめぐる所作（形見への愛着、解剖の拒否、死者の理想化）
- 3) 超自然的存在が利他的行動（寄付・援助など）に及ぼす影響

講座テーマ紹介

1. 犯罪政策・政策一般

- ・犯罪被害者のための刑事司法：これまでの遺族の歩み・制度の意義と課題
- ・本気で考える「交通事犯ゼロへの一歩」：行動科学からのアプローチ
- ・ナッジ・行動インサイト：人間の实態をふまえた政策デザイン

2. 死別と他界・信仰

- ・「故人は見守ってくれている」：ご先祖様信仰からみる日本人の死後世界観
- ・なぜ死者を批判してはいけないのか：5つの仮説と実証 など

アピールポイントなど

- ・警察庁 犯罪被害類型別調査 企画分析会議 委員
- ・東京大学 死生学・応用倫理センター 運営委員
- ・環境省 日本版ナッジ・ユニット連絡会議 有識者委員
- ・公益財団法人 犯罪被害救援基金 理事 などを歴任



健康経営の推進 健康課題の可視化と健康文化の醸成

健康開発学科 健康行動科学専攻（健康情報学専攻 2025年4月より）

津野 陽子 准教授

【研究分野】 健康経営に基づく保健・医療情報を活用した健康課題の可視化
 【キーワード】 健康経営、データヘルス、労働生産性、働き方改革、産業保健
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=299tsuno>



研究概要

健康経営とは、従業員の医療・健康問題を経営課題と捉え、健康と生産性の両方を同時に行うマネジメント（Health and Productivity Management）の手法です。

組織の健康課題を可視化し健康リスクを評価する手法および健康リスクと生産性の関連は国内外において研究が蓄積されてきていますが、健康経営に取り組んだ効果をどのように測定するのか、何をもって効果があると言えるか、学術的にも実践的にも検討課題となっています。組織における健康経営の効果はどのように測定するか、健康経営を促進する健康文化について研究しています。

研究紹介

対象組織参加型で共同研究を提案しています。

1. 医療・介護施設における健康経営
2. 健康経営に基づく健診データ等を活用した健康課題の見える化
3. 健康経営推進のための組織（職場）の健康文化の醸成
4. 健康課題の見える化と働き方改革の推進
5. 健康と生産性の最適化を目指す働き方モデルの構築
6. 健康・医療情報を活用した「健康経営」の効果測定の分析モデルの開発

講座テーマ紹介

●健康経営と働き方改革

病院組織における健康経営 -職場環境要因と生産性指標の関連-
 組織における健康経営の効果測定～健康課題の可視化と健康リスクの評価について～
 健康経営を推進するためには～健康課題を見える化し生産性を高める～
 健康経営の推進～健康課題の見える化と働き方改革について～

●企業・組織と保険者とのコラボヘルス推進

コラボヘルス・健康経営の必要性

●PDCAサイクルに基づく保健事業の展開

などをテーマにした講演、研修会

アピールポイントなど

日本再興戦略に「健康経営」という言葉が出る前の2013年から健康経営研究に従事してきました。共同研究等により実践的な健康経営の推進とともに国内外の知見を踏まえた研究的エビデンスの蓄積を進めております。これまで病院組織等との共同研究や、保険者、経営者、保健事業担当者、健康管理担当者などを対象に多数講演・研修会を実施させていただいております。

（参考）健康経営の枠組みによる健康課題の見える化 <http://square.umin.ac.jp/hpm/>



不明確な診断をめぐる諸問題の解明

健康開発学科 健康行動科学専攻（健康情報学専攻 2025年4月より）

本間 三恵子 准教授

【研究分野】 医療社会学、ヘルスコミュニケーション
 【キーワード】 不定愁訴（MUS）、医療化、受療行動、説明モデル
 【URL】 https://researchmap.jp/mieko_homma



研究概要

「健康になるための方法」というより「＜健康＞を追求する人々の価値観とは？」「＜健康/病気＞の境界とは？」のように、俯瞰的な視点から「健康」を考えています。

特に自覚症状が強いにも関わらず、診断がつきにくく・効果的な治療法がない、いわゆるMedically Unexplained Symptoms（MUS）をめぐる諸問題を、関係者の意識、解釈、受療行動に注目して明らかにしてきました。最近ではより人文社会的アプローチ、文化・社会的側面に着目して立体的に現状を明らかにしようとしており、特に北欧の取り組みや状況と比較しながら進めています。併せて診断というラベル自体が持つ意味、診断の成立過程についても、多様な利害関係者間の相互作用に着目しつつ考察しています。

研究紹介

1. 診断をめぐる諸問題、医療化（sociology of diagnosis/ medicalization）
2. 健康志向・ヘルシズムと社会文化的事象
3. 機能性疾患の診療における患者・医師の説明モデル（日本・デンマーク）
4. ナチュラル・オーガニック志向とライフスタイル（日米比較）

健康に関わる行動や人々の捉え方を、evidence-basedな選択という側面だけでなく、個人の価値観や文化という視点から広く考えています。

特にこれまで、北欧と米国（ハワイ）をフィールドとした調査を実施してきました。

アピールポイントなど

臨床のトピックに特化しているわけではなく、健康や身体に関わるテーマを中心とした現代社会論という観点で、保健医療福祉以外のテーマにも取り組みたいと思っています。特にメディアや大衆文化と人々の意識・価値観に関心があります。



睡眠を改善するための介入プロトコルの開発と効果検証

健康開発学科 検査技術科学専攻

有竹 清夏 教授

【研究分野】 臨床生理学、睡眠医学、時間生物学

【キーワード】 睡眠、脳波、温熱生理、体温（放熱）、不眠症、時間認知、女性、更年期、動脈硬化

【URL】 <https://researchmap.jp/Hawaii1224>



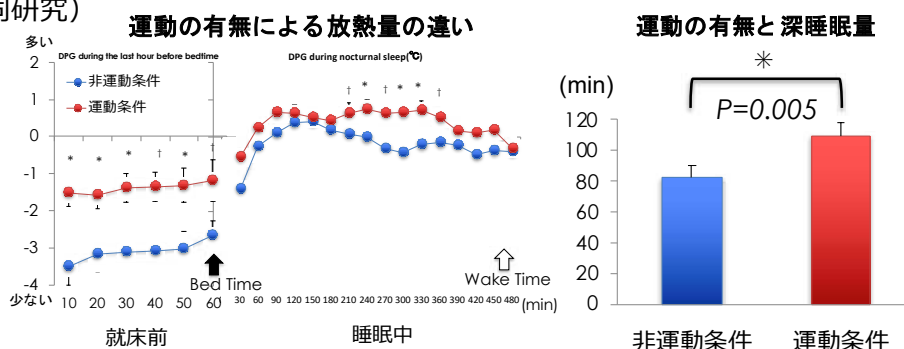
研究概要

一部の不眠症やうつ病では、自身の睡眠時間を著しく短く評価する**睡眠時の時間感覚の異常**が認められ、その背景に**深い睡眠の減少**が関連する可能性が考えられています。そこで**不眠症の生理学的メカニズム**を探るとともに、**深い睡眠を増やす身体運動や温熱刺激を用いた有効な介入プロトコルや新たな評価法**を確立し、現代社会で誰もが抱え得る**不眠の改善**に貢献したいと考えています。

また女性の体は女性ホルモンと密接に関連し、**思春期や成熟期、更年期などライフステージやライフスタイル**による生体の変化がしばしば**身体的・精神的不調や睡眠障害**を引き起こします。一方、男性の体もホルモンの影響を受ける点では例外ではなく、性ホルモンの影響を受け、**更年期**を境に男性ホルモンの分泌が乱れ始め、睡眠障害やうつ等様々な不調が生じます。**性ホルモン**に影響されやすい男女の睡眠と健康への関連因子を調べ、改善策を探りたいと思います。

研究紹介

1. 身体運動と睡眠：身体運動が睡眠中の生理機能(放熱・体温・脳活動他)と認知機能に与える影響
2. 女性の健康と睡眠、性差と睡眠：更年期・成熟期の不眠の病態生理と身体運動の効果検証
3. 睡眠中の時間感覚：睡眠状態誤認に関する生理学的研究
4. 動脈硬化と睡眠：生理学的動脈硬化指標と睡眠の関連・性差に関する研究
5. 睡眠呼吸障害患者に生じる脚運動と心血管疾患・総死亡リスクに関する研究（国際共同研究）
6. 乳幼児の発達と睡眠（共同研究）
7. プレフレイルと睡眠



講座テーマ紹介

- 高齢者への睡眠衛生に関する講座
- 小、中、高、大学生を対象とした睡眠衛生教育講座
- 睡眠の基礎、睡眠障害に関する一般、専門職者向け講座
- 睡眠計測・睡眠判定基準に関する専門職者向けの講座
- 睡眠の臨床研究（治験）における医療技術講座・支援

放熱と自覚的な寝つきの関係

促進

入眠前からの放熱の程度↑

抑制

自覚する寝付いた時間(分)

Rho = -0.639

p < 0.001

2

1

0

-1

-2

-3

0

10

20

30

40

アピールポイントなど

1. Subjective sleep onset latency is influenced by sleep structure and body heat loss in human subjects. J of Sleep Research, 2024
2. Periocular skin warming promotes body heat loss and sleep onset latency: a randomized placebo-controlled study. Scientific Report, 2020
3. Diurnal repeated exercise promotes slow-wave activity and fast-sigma power during sleep with increase in body temperature: a human crossover trial. Journal of Applied Physiology, 2019
4. Prevalence and associations of respiratory-related leg movements: The MrOS Sleep Study. Sleep Medicine, 2015
5. Increased cerebral blood flow in the right frontal lobe area during sleep precedes self-awakening in humans. BMC Neuroscience, 2012



白血病幹細胞/前駆細胞のシグナルに関する研究

健康開発学科 検査技術科学専攻

井原 寛子 教授

【研究分野】 血液学、細胞検査学

【キーワード】 白血病、幹細胞、シグナル伝達、遺伝子変異、植物化学物質

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=233ih4>



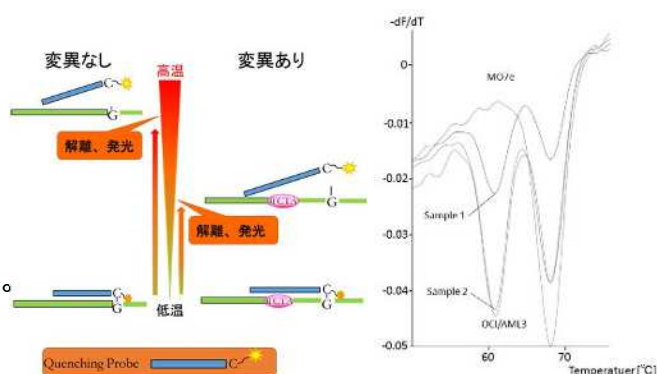
研究概要

- ①白血病幹細胞/前駆細胞(LSC)の増殖を制御しているHedgehog(HH)、Notch、Wntシグナルにおける自己複製能のコントロール機序と、クロストークについての研究。
- ②植物化学物質(phytochemical: PC)が白血病幹細胞に与える作用と他剤との併用効果に関する研究。
- ③造血器腫瘍の遺伝子異常解析とその検出法の研究。

研究紹介

①②急性白血病のLSCを制御するシグナルのリガンド作用や阻害剤効果を明らかにしてきました。シグナル阻害剤は新規分子標的薬となる可能性がある一方で深刻な副反応の懸念もあります。既存の薬剤との組み合わせで抗腫瘍効果と副作用回避を両立できる可能性があり、現在PCとの併用効果を研究しています。

③急性骨髄性白血病におけるNPM1遺伝子変異を、quenching probe(QP)を用いた簡便かつ高感度な方法で検出しました(右図)。NPM1変異は、FLT3など他の遺伝子変異と合わせ、予後予測に有用です。



QP法の原理: QPと完全に相補的なperfect match (変異なし) に比べ変異遺伝子は熱安定性が低く、より低温で解離発光する。

QP法によるNPM1変異検出: 遺伝子変異を有する細胞株 OCl/AML3と同じ低温ピークに検出された患者検体(sample1,2)

講座テーマ紹介

- 白血病幹細胞を制御するシグナル研究やQP法による遺伝子変異検出の紹介
「白血病細胞におけるWntシグナルについて」「QP法を用いた遺伝子変異検出法」など
- 血液学、血液検査学、血液検査と臨床検査技師に関する基礎講座、高校出張講座
「貧血はなぜ起こるのか」「なぜ血液は固まるか」「血液の検査とは？」など
- 小学生向け体験講座
「生命科学体験講座ー血液1滴からわかることー」など

アピールポイントなど

新規分子標的薬の開発に伴い、白血病の治癒率も上がっていますが、依然として難治・再発例があり、これらの症例では薬効を逃れたLSCが耐性、再発に関与していると考えられています。完治にはLSCの自己複製能の制御が重要であるため、LSCの自己複製に関するシグナルについて種々の白血病細胞を使用した基礎研究を行っています。

また、小学生を対象とした公開講座や高校生向け出張講座も実施しています。小学生の公開講座では、血液標本作製や顕微鏡観察など血液検査の一端を体験しながら、血液細胞の特徴や造血の仕組みについてやさしく解説します。「血液や血液の検査って面白い！」と思ってもらえるような講座を目指していますので、ぜひご参加ください。



市中の黄色ブドウ球菌（MRSA）実態調査

健康開発学科 検査技術科学専攻

村井 美代 教授

【研究分野】 細菌学、細菌遺伝学、感染制御
 【キーワード】 黄色ブドウ球菌保菌調査、MRSA、AMR対策アクションプラン
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=227mura>



研究概要

近年、抗菌薬が効かない**薬剤耐性（Antimicrobial Resistance: AMR）**細菌が世界中で増えています。これまでは適切に治療をすれば回復できた感染症が、治療薬が無効になるため重症化しやすくなり死亡に至る可能性が高まっています。何も対策を講じない場合、2050年には世界で感染症による死亡者数は、がんによるものを超えると推定されています。

AMR対策の標的のひとつである多剤耐性の**メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）**は、1980年代から病院内で猛威を振るっていました。現在MRSAは、院内にとどまらず健常者に常在していたり、環境に広く分布しているといわれていますが、その実態は明らかではありません。私たちは**市中におけるMRSA制御に貢献すること**を目的に、主に健常者やヒトを取り巻く環境から黄色ブドウ球菌を分離して、比較解析を行っています。

研究紹介

1. 黄色ブドウ球菌の咽頭保菌に関わる要因の探索

健常者の鼻腔と咽頭保菌調査から得た以下の知見を基に、咽頭からの黄色ブドウ球菌除菌法を検討しています。

- ① 咽頭保菌率は鼻腔保菌率よりも高い。
- ② 咽頭保菌と鼻腔保菌は独立した現象である。
- ③ 口腔保健行動を活発に行う集団は咽頭保菌率が低い。
- ④ 咽頭は鼻腔に比べて菌株の入れ替わりが多く、環境の影響を受けやすい。

若年健常者の鼻腔と咽頭における黄色ブドウ球菌保菌状況
2016-2018年調査（n=313）



2. 下水から分離された黄色ブドウ球菌に占めるMRSA率の調査

ヒトの全身の常在菌が含まれる生活排水（下水）から黄色ブドウ球菌を分離し、MRSAの割合をモニターしています。分離したMRSA株は、その下水処理場の流域下水道処理区域内から得られた臨床分離MRSA株と比較解析し、相互の関係を明らかにする予定です。

講座テーマ紹介

- **感染対策に関する講座〈一般向け〉**
 - ・「コロナ？インフル？それとも？」：ポストコロナの呼吸器感染症対策
 - ・「その風邪に抗生物質は効きますか？」：抗菌薬適正使用について
- **感染症遺伝子検査に関する講座〈専門職向け〉**
 - ・「今さら聞けない！感染症遺伝子検査の基礎知識」
 - ・「場面に応じたMRSAの遺伝子型別法の使い分け」

アピールポイントなど

AMR対策アクションプラン実施にもかかわらず、臨床におけるMRSA率は目標の20%に届かず、40%代後半で下げ止まっています。市中のMRSA蔓延状況の調査と菌株解析を通じて、臨床のMRSA率の低下に貢献したいと考えています。



心血管系の組織発生と標本の作製法

健康開発学科 検査技術科学専攻

安藤 克己 准教授

【研究分野】 組織学、発生学、病理学、病理検査学

【キーワード】 心臓、血管、組織発生

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=229an>



研究概要

・心冠状動脈の発生をきっかけに、発生期の心内膜組織や血管組織の染色性、血管組織マーカーの発現から、冠状動脈と大動脈の形成過程での関わりについて調べています。最近、病理検査で使われている弾性線維染色の染色能力について、形態形成途上の組織の面から比較検討しています。

講座テーマ紹介

生物組織標本の作製と観察

(一般講座)

- ・「魚の顕微鏡標本を作ろう」

「ごはんの友シラスを極める！」など小学生向けの「生命科学体験教室」として開講。食材としてなじみの深い魚を材料に、それらの組織標本や骨格標本を作り、顕微鏡観察を通じて、魚類から人類に到る進化の中で引き継がれる体のしくみについて解説。

- ・「食肉組織を見てみよう」

オープンキャンパスでの模擬講座として開講。精肉のみならず加工肉製品について組織標本作製し、肉製品の製造過程で添加される炭水化物や脂質の分布について観察。

病理学・病理検査学

(教育機関向け)

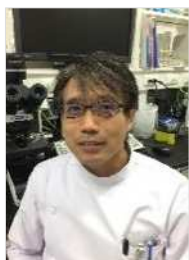
- ・「病理学・病理検査学」

高校生向け開放授業「臨床検査概論」の中の病理検査の回を担当。また以前、県立高校の専攻科にて「病理学」の授業も担当。

アピールポイントなど

当時、北浦和の地にあった前身の学校に勤めてから、動物組織を生かした教育や研究にずっと取り組んできました。昨今の騒動が始まる以前は、スーパーの店頭にも並んでいるような食材を使っの公開講座で、毎年、小学生の皆さんにもお目にかかっていました。

生物組織標本作製するためには、ミクロトームなどの特殊装置がいくつか必要ですが、本学には教育上の使命からそれらの装置が十分な数、設置されています。教育研究での希望があればご相談ください。



AI (Deep learning) による画像分類システムの開発、大腸がん検診の評価、腎尿路系がんスクリーニング検査の開発

健康開発学科 検査科学技術専攻

岡田 茂治 准教授

【研究分野】 1.AI (Deep learning) 2.大腸がん検診 3.腎尿路系がん

【キーワード】 AI、Deep learning、大腸がん検診、腎尿路系がん

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=301oka>



研究概要

●AI (Deep learning) による画像分類

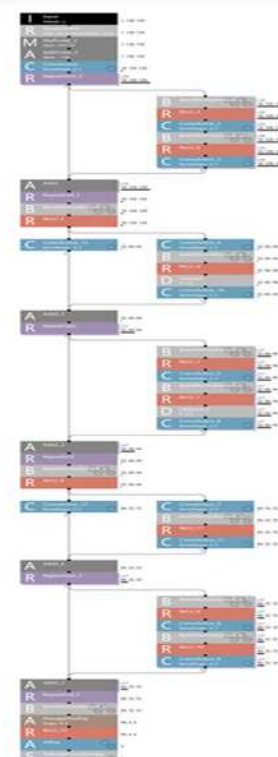
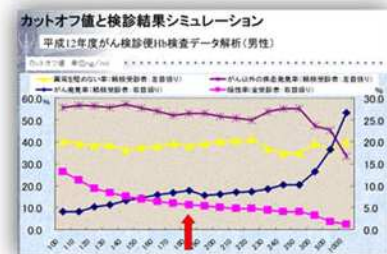
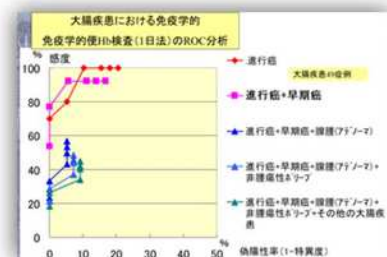
臨床との共同研究で、舌癌術後リンパ節転移の予測システムの開発や血液細胞の形態学的分類の施設間差是正へのAIシステムの開発を行っている。AI画像分類モデル技術を構築しているので、医療、工業、農業等様々な画像分類への応用が可能である。

●大腸がん検診の有用性に関する研究

我々の研究結果では、適正なカットオフ値の設定とカットオフ値を参照した精検受診の勧奨が、大腸がん検診の効率向上に望ましかった。大腸がん検診の効率化により、大腸がん発見率の向上と有効な精検受診勧奨の実施、そして大腸がんによる死亡者の抑制に貢献できるものと考える。さらに性別、年齢を加味したカットオフ値の検討を行うことで、さらに効率をあげられることが期待される。

●腎尿路系がんのスクリーニング検査の開発

非侵襲的に腎尿路系がんの早期発見や経過観察に有用で精度の高いスクリーニング検査法の開発を目指している。



研究紹介

●AI (Deep learning) を利用した、様々な画像分類に対応できるプラットフォームを開発したので、多分野でのAI画像分類システムへの応用が可能。

●適正なカットオフ値や1次スクリーニング検査陽性者に対する精検受診者への勧奨のあり方、結果報告・勧奨方法などがん検診の向上に向けた検討。

●臨床診断精度の高い腎尿路系がんのスクリーニング検査法の開発。

講座テーマ紹介

●大腸がん検診のすすめ (一般市民向けのわかりやすいがん検診の理解と受診のすすめ)

●大腸がん検診の精度向上に向けて (がん検診従事者向けの精度向上セミナー)

●わかりやすい尿検査、検診受診の有用性 (一般市民向け)

アピールポイントなど

人生100年時代、がん治療の目覚ましい発展とQOLの向上など、今後さらにがん検診や腎尿路系がん検査への理解と積極的な受診が必要になってきます。しかし、我が国における検診受診者は多くなく、一般市民への啓発活動が重要であり積極的に行いたいと思います。また、AIは様々な分野の画像識別が可能であり応用範囲がとて広い技術です。多分野の方々と共同研究ができることを楽しみにしています。



埼玉県内の臨床および下水から分離した ESBL産生大腸菌の解析

健康開発学科 検査技術科学専攻

岸井 こずゑ 准教授

【研究分野】 微生物学、臨床微生物学、感染制御学

【キーワード】 AMR、One health approach

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=269kishi>



研究概要

基質特異性拡張型βラクタマーゼ（extended-spectrum β-lactamase: ESBL）産生 *Escherichia coli* は、1980年代から欧米で出現し、瞬く間に全世界の医療機関に広まりました。我が国では2000年代に入り徐々に増加が見られ、その後、分離数が急激に増加しました。近年では、健常者の腸管内に一定の割合でESBL産生大腸菌が保菌されていることも明らかにされ、ESBL産生菌の感染対策には、臨床だけではなく市中および環境を含め、継続的に監視する必要性が高まっています。本研究では、環境および臨床由来ESBL産生 *E. coli* を対象として薬剤感受性試験、耐性遺伝子解析および全ゲノム解析を行い、各分野の薬剤耐性の状況や相互の関係性を明らかにすることを目的としています。さらに、本研究結果は新しい薬剤耐性監視システムの開発にもつながり、環境および臨床の垣根を超えた感染制御「One health approach」の一環として行うESBL産生 *E. coli* 感染対策に大きく貢献します。

研究紹介

- ①対象菌株及び菌種同定
 - ・ 下水処理場流入水由来および臨床由来 ESBL産生 *E. coli*
 - ・ MALDI-TOF MSにより *E. coli* であることを確認
- ②薬剤耐性遺伝子解析
- ③MLST解析：菌株間の関連性についての情報を獲得
- ④比較ゲノム解析：環境および臨床由来株における薬剤耐性遺伝子と遺伝子伝播に関与する遺伝子の保有・変異状況の調査



https://amr.ncgm.go.jp/pdf/20180326_ig_vol7.pdf

講座テーマ紹介

- ・ 日本国内の各分野における薬剤耐性 (AMR) 対策に関する一般向けおよび専門職者向け講座（専門職者向け講座はヒトに関する分野が中心となります）
- ・ AMRの世界的な動向に関する講座 など

アピールポイントなど

本研究は国立感染症研究所 薬剤耐性研究センターとの共同研究であり、同センターはWHOの“The Tricycle Project”から協力要請を受け、日本での実態を評価しています。本研究は関東圏の代表として埼玉県内での下水処理場流入水を収集し、AMRに関する状況の調査を目的とした下水サーベイランス事業に参加しています。それと並行して、埼玉県内の下水と生活圏が重なる地域病院からの臨床分離ESBL産生 *E. coli* の比較を行い、地域の薬剤耐性菌の関係性を解析しています。今後は同地域の畜産分野由来のESBL産生 *E. coli* の解析も進めたいと考えています。



健康開発学科 検査技術科学専攻

久保田 亮 准教授

【研究分野】 予防医学検査、食品検査に関する研究

【キーワード】 セルロースアセテート膜電気泳動法、腎障害、尿蛋白

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=234kubo>


セルロースアセテート膜電気泳動法と 高感度銀染色液を用いた腎障害部位分類法

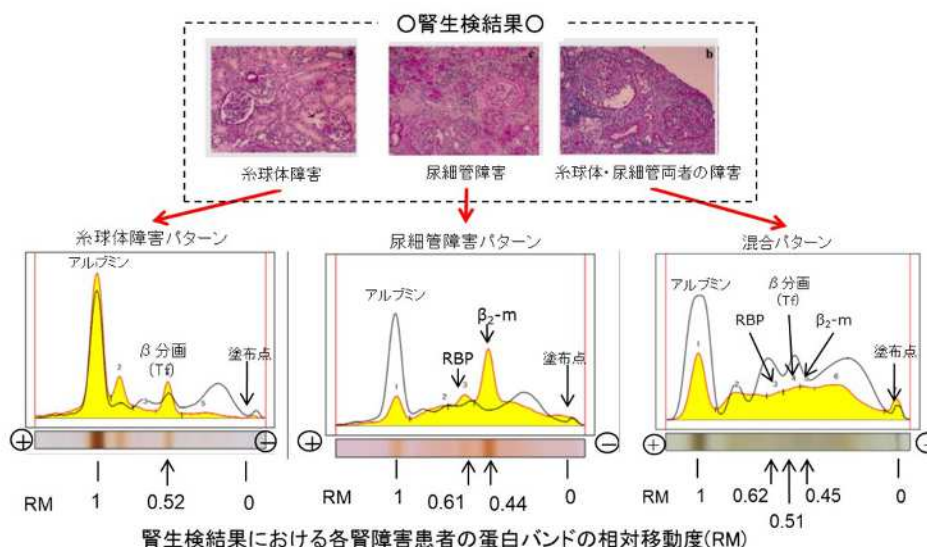
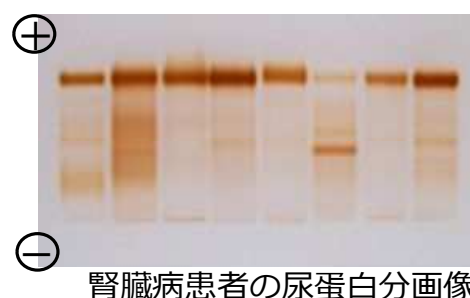
研究概要

腎疾患に関わるような尿中蛋白質を感度よく早期に発見することで、現在増加している透析患者を減らすことに貢献したいと考えて研究を行っています。

研究紹介

患者尿をセルロースアセテート膜に塗布し電気泳動を行い、専用の銀染色液で染色後、尿蛋白分画（右図）を行う。この分画像を尿蛋白病態解析ソフトウェアで解析することで、下図のように腎障害部位を分類でき、腎臓病の診断の補助になると考える。また本法は腎生検*）結果と良好な一致率が得られている。

*) 腎生検とは腎臓を細い針で刺して、一部組織を取ってくる検査



講座テーマ紹介

- 【1】 電気泳動法等の蛋白質分離方法の技術指導
- 【2】 取得資格を活かした市販薬と健康食品に関する講演（公開講座）

アピールポイントなど

これまで下記に示した様々な研究テーマでも産業支援を行っております。

- ・ 発光検出によるイムノクロマト法に関する研究
 - ・ 電気泳動法を用いたリポ蛋白質分類法に関する研究
 - ・ オゾンジェルを用いたう蝕、歯周病予防に関する研究
 - ・ 健康食品（サプリメント）の成分分析に関する研究など
- 上記研究テーマ以外でも、お気軽にご相談ください！



電子顕微鏡を用いた細胞診検査法の開発

健康開発学科 検査技術科学専攻

矢野 哲也 准教授

【研究分野】 電子顕微鏡を用いた細胞診検査に関する研究、病理組織技術に関する研究
 【キーワード】 細胞診検査、電子顕微鏡、染色法、細胞表面解析
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=270yano>



研究概要

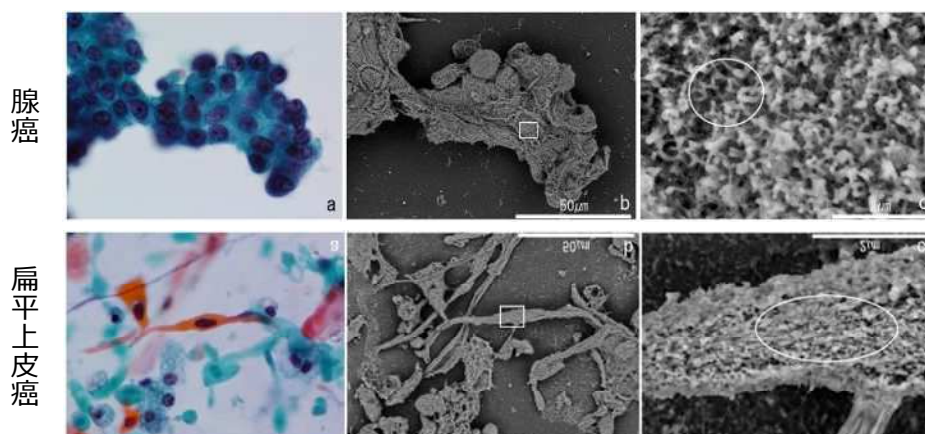
細胞診検査はパパニコロウ染色標本を光学顕微鏡にて観察し、がんなどの異常細胞を判定する検査です。しかし、光学顕微鏡での形態学的解析では分からないことも多く、分解能の高い電子顕微鏡を用いた観察によって、精度の高い検査を行うことを目指し研究しています。

研究紹介

卓上型の低真空走査電子顕微鏡を用い、細胞診検査で用いられるパパニコロウ染色標本の細胞表面の構造を詳細に解析し、悪性腫瘍の細胞判定の精度を向上することを目的としています。

細胞診検査では、病理組織診と比較し、低コストで侵襲性が低く患者さんへの負担が少ない一方、採取される検体量が少なく診断に苦慮することもあります。低真空走査電子顕微鏡は、光学顕微鏡観察後の標本にリンタングステン酸処理を施すことで、細胞表面の詳細な観察を可能とします。

病理検査や細胞診検査についてどのような検査なのか、一般の方向けに分かりやすく解説します。



典型的な肺の腺癌と扁平上皮癌のパパニコロウ染色像（左）と同部位の走査電子顕微鏡像（真ん中、右）である。右写真では、細胞表面にある微絨毛の密度や長さなど明らかな構造的相違がみられる。

文献1) Yano T et al. J Med Dent Sci. 2017;64(1):1 - 8.

J Med Dent Sci 2017; 64: 1-8より抜粋¹⁾

アピールポイントなど

細胞検査士（日本臨床細胞学会認定）として病院病理部や検査センターで従事した経験があり、検査についてがん予防の観点からお話します。

その他、病理検査関連の試薬や機器の共同開発も行います。お気軽にご相談下さい。



健康開発学科 口腔保健科学専攻

植野 正之 教授

【研究分野】 歯科口腔保健、行動変容、国際保健

【キーワード】 オーラルヘルスプロモーション、歯科保健行動、国際歯科

【URL】 <https://researchmap.jp/7000025402>

豊かな味覚づくりのために

研究概要

ファストフード産業の急速な流入に伴い、近年日本の食生活は大きく変化してきています。こうした食生活の変化は日本人の味覚にも影響を及ぼしていると考えられています。

基本味覚の中で、**うま味**は日本特有の味であり、日本食の基本である「ダシ」の主要成分です。しかし、若年者の多くがうま味を認識できていないと言われています。

健全な若年者を対象に**味覚感受性**の状況を詳細に調査し、食習慣や栄養との関連を検討することで、食生活・栄養指導、味覚教育など様々な側面からのアプローチが可能となります。こうした健全な**食の推進**は味覚の向上のみならず、**生活習慣病予防**を含む全身の健康維持のための食育にもつながります。

研究紹介

小学校の児童を対象とした研究では、対象者の6.3%が甘味に対し、14.3%が塩味に対し、20.9%が酸味に対し、6.0%が苦味に対しそれぞれ味覚の感受性低下が認められました。これら基本4味のうち1味でも認識できなかった者の割合は30.7%でした。

中学校の生徒を対象とした研究では、甘味を認識できない者は4.1%、塩味を認識できない者は10.8%、酸味を認識できない者は24.3%、苦味を認識できない者は4.1%、うま味を認識できない者は35.1%でした。

味覚とは、味蕾で食べ物を味わうだけでなく、食べ物の盛りつけ方や色、食器などを見て（視覚）、食べ物のかおりやにおいを嗅いで（嗅覚）、食べる時の音を聞いて（聴覚）、食べ物に触れたり噛んだりし（触覚）、など身体の手五感すべての機能を使う感覚です。このように**五感を使った味覚教育**の重要性とその効果について研究しています。



講座テーマ紹介

- **味覚のしくみ、豊かな味覚の育て方**に関連した一般向けの講座
- **自分の味覚**を再認識する体験学習 など

アピールポイントなど

毎年、東京都の某保健センターにおいて食育活動を行っており、小学校の児童とその保護者に対して味覚教育を行っています。

味覚教育に関する絵本である「はっきりあじがわかるかな？」(金の星社)の出版を含め、多数のメディアにて味覚教育の重要性について情報発信を行っています。



大学課程における歯科衛生士養成教育

健康開発学科 口腔保健科学専攻

吉田 隆 教授

【研究分野】 歯科医学教育、歯科衛生教育学、歯科保存学（歯内療法学）

【キーワード】 歯科医学、歯科衛生教育学

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=236yoshi>



研究概要

主として専門職養成教育の問題と課題について検討を加えています。特に医師や歯科医師とは異なり、看護師や歯科衛生士を養成する教育機関は、専修学校、短期大学、大学と様々な形態の学校があります。しかしながら現在の日本では、どのような養成学校を卒業しても国家資格としては同一であるため、資格としての違いはありません。大学課程で医療専門職を養成する意義は何なのか、について日々考えています。

研究紹介

主に歯科衛生士養成教育についての研究をしています。具体的には以下のような内容です。

1. 歯科衛生士養成教育に関する国民の意識調査

国民の皆さんが、医療職とその養成教育に対する認識について調査研究を加えています。

2. 大学課程における歯科衛生士養成教育の質保証に関する研究

専修学校と4年制大学や短期大学のカリキュラムについての比較を中心に、専門職養成教育について検討しています。

講座テーマ紹介

小学校、中学校の生徒の皆さんに対して、口腔保健に関する一般向け講座を、さらに高校生の皆さんには、歯科衛生士という職種の社会における役割や今後期待する業務などについて講座を通して説明できればと思います。

アピールポイントなど

以下の各種団体等に参加させていただいております。

- ・全国大学歯科衛生士教育協議会理事（令和元年度・2年度会長）
- ・日本歯科医学教育学会評議員
- ・日本歯科衛生教育学会評議員
- ・日本歯科保存学会評議員
- ・日本歯科保存学会保存治療専門医
- ・日本歯科保存学会保存治療指導医



歯科衛生教育に特化したタブレット端末アプリケーション の開発と教育効果

健康開発学科 口腔保健科学専攻
新井 恵 准教授

【研究分野】 歯科衛生教育
【キーワード】 歯科衛生教育、タブレット端末、アプリケーション
【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=240ara>



研 究 概 要

歯科衛生士の卒前教育にとって重要であるインスツルメント操作技術習得を効率的に行うためのiPadアプリケーションを開発し、授業やアクティブラーニングでの教育効果を学生と指導教員の双方の視点から検証して教育へ反映させています。

- ・ 歯科衛生士教育におけるオンライン授業での技術指導に関する研究
- ・ 歯科衛生士教育におけるタブレットPCアプリケーション教材開発の試み

他にも以下のテーマで研究を行っています。

- ・ 保育園における歯磨き実施状況と家庭との連携について
- ・ 保健医療福祉学を学ぶ学生の規範意識について
- ・ 保育園児の家庭での歯磨き状況と保護者の意識調査

講 座 テ ー マ 紹 介

アプリケーションを用いたインスツルメント操作技術向上の歯科衛生士卒後研修を実施することができます。

他の講座テーマ

- ・ お口からの健康づくり
- ・ 歯周病と全身の健康

アピールポイントなど

文部科学研究費基盤研究C「歯科衛生士教育におけるiPadアプリケーションの開発と教育効果に関する研究」の予算を得て、アプリケーションの内容を日々ブラッシュアップしています。

地域在住の高齢者の健康づくり

健康開発学科 口腔保健科学専攻

佐藤 玲子 准教授

【研究分野】 地域在住の高齢者を対象にした保健行動、健康づくりや口腔保健、多職種連携
 【キーワード】 地域在住高齢者、運動、休息、足のケア、口腔保健行動
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=237sato>



研究概要

健康日本21活動の提唱により、地域在住の方々、特に高齢者が健康づくり活動を行っています。

健康で過ごしたいという気持ちは皆持つものです。身体能力に見合った食事や運動をすることは「快適」「効果的」とわかっていても、しかし実際は続かなかったり、生活に取り入れることは難しいものです。高齢期であっても友人を作ったり、新たな生きがいを見出したり、セルフケアを行って、不調から回復に向かうことを研究しています。現在は、高齢者の足ケアを行い、転倒予防活動につなげようと研究をしています。

研究紹介

主に保健行動について行っています。

卒業研究ゼミナールの学生もこれらの活動に参加しています。

- ・地域在住高齢者の口腔保健（健康教室、秋）
- ・地域在住高齢者の健康づくりなど、特に、ウォーキング活動（健康日本21活動、年12回+α）

講座テーマ紹介

・地域在住高齢者のフレイル（口腔機能の低下と身体機能の関連）については、秋に半日の健康づくり講座を行っていました。現在は新型コロナウイルス感染症対策のため実施していません。

・高齢者自身ができる足のケア（温める、体操）により、循環器が安定して、さらに身体のバランスが安定します。これは地域に出向いて会場を拝借して、不定期に実施していました。現在は新型コロナウイルス感染症対策のため実施していませんが、令和4年には再開したいところです。

- ・大学に関連した内容では、多職種連携講座を行っています（Zoomで実施）

アピールポイントなど

健康づくりに取り組む「健康意識の高い高齢者」が増えています。そんな高齢者であっても、ある時期から、歩行が少なくなったり、食べこぼしが増えたり、ということが実際に起こります。健康講座にご参加いただいた地域在住高齢者の「歩行と口腔」は、実は、強く関連していたとわかりました。健康教室を行う場合は、事前に打ち合わせや調整を十分行います。



口腔領域における組織細胞形態解析

健康開発学科 口腔保健科学専攻

柳澤 伸彰 准教授

【研究分野】 歯科学（口腔解剖分野）

【キーワード】 歯硬組織形成、神経再生

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=239yana>



研究概要

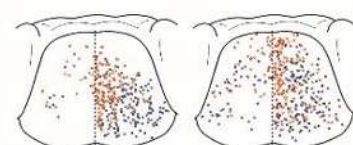
口腔は咀嚼や嚥下や発音、味覚の感受など多様な働きをする組織や器官であります。全身の健康を維持するためには口腔機能の低下を生じさせないようにする必要があります。現在、再生医療研究が進んでいますが、組織細胞形態学、分子生物学的な基礎研究も重要であります。

咀嚼や嚥下に関連している口腔機能をより詳細な理解が必要であると考えていますので、口腔・頭頸部領域における末梢神経損傷後の変性と神経再生や歯の硬組織形成の分化機構について研究を行っています。

研究紹介

・末梢神経損傷後の神経再生

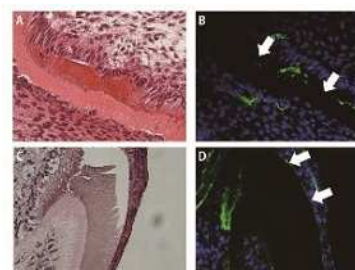
動物実験において、下唇粘膜部における神経圧迫による損傷後1週間目に神経再生が認められた。神経再生過程における感覚神経終末には大きく2種類（樹枝状終末と有被膜性小体）に分類され、樹枝状終末は有被膜性小体より回復の程度は遅い傾向であった。



神経圧迫後7, 14日目の感覚神経終末の分布図
正中線の左側；圧迫側 正中線の右側；健常側
青丸；有被膜性小体 赤丸；樹枝状終末

・歯の硬組織形成細胞に分化機構

マウス歯胚の培養実験において無血清培養で歯硬組織形成を誘導することができたが、有血清培養よりも無血清培養で硬組織形成を得るのに長い培養期間が必要であることが分かった。また、培養実験において成熟期エナメル芽細胞の基底膜構造に違いがあることを確認し、in vivoと同様でない事が一部明らかになった。



成熟期エナメル芽細胞の基底膜構造
A:無血清培養 HE B:無血清培養Laminin
C:血清培養HE D:血清培養Laminin

講座テーマ紹介

- ・口腔領域における末梢神経再生や歯硬組織に対する解剖学的基礎研究に関連した講座
- ・口腔・咽頭領域における解剖学加齢的变化や術後の機能変化に関連した講座
- ・摂食嚥下に関わる機能解剖やオーラルフレイルなど口腔機能低下に関連した講座 など

アピールポイントなど

一般者向けに口腔の機能解剖学的役割（摂食・嚥下）についての講座を行ったり、埼玉県摂食嚥下研究会などにも参加させていただいております。



ナノ多孔質シリカを応用した薬剤徐放

健康開発学科 口腔保健科学専攻

江良 裕子 助教

【研究分野】 歯科理工学、口腔保健学

【キーワード】 ナノ多孔質シリカ、薬剤徐放、う蝕予防、歯周病予防、口臭予防

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=274era>



研究概要

市販の歯磨剤や洗口剤に含まれている抗炎症薬（ β -グリチルリチン酸：GL）や抗菌薬（塩化セチルピリジニウム）を担持したナノサイズの空孔を持つシリカ粒子を作成し、う蝕予防のためのシーラント材、歯周病に対する歯科用軟膏に応用し、口腔内に少量の薬物が長時間作用できるように研究を行っています。これらの薬剤徐放が達成されると、う蝕や歯肉炎や歯周炎を起こしやすい妊産婦や授乳婦、糖尿病患者、歯磨き・うがいなどの口腔内ケアの技能が十分ではない高齢者、障がい者の歯周病治療のための効果的なツールとなる事が期待されます。

研究紹介

1. 抗炎症薬と殺菌薬とを徐放するナノ多孔質シリカ含有新規ハイブリッド歯科用軟膏の創製

①NPS含有量の検討

薬剤の試料への吸着・徐放特性へのNPS含有量の効果を検討し最適化を行う。

②薬剤徐放性新規歯科用軟膏基材の作成

酸化マグネシウム、ヒドロキシエチルセルロース、アミノアルキルメタクリレートコポリマーRS、トリアセチン、濃グリセリン等を基材とし、水溶液中で停滞性のある硬さとなる軟膏を作成する。

③薬剤徐放性新規歯科用軟膏の創製

粘度・稠度・表面性状・水溶液に対する停滞性などを検討

④殺菌剤徐放挙動の評価

口腔内温度を想定した37℃の水中に試験片を浸漬し、液中へのCPCの徐放量を紫外可視分光法を用いて経時的に追跡

⑤抗炎症薬徐放挙動の評価

液体クロマトグラフ-質量分析装置にて評価

2. 小児・乳幼児のう蝕予防を目指した薬剤徐放性新規歯科用シーラント材の開発

①生体適合性の検証

②薬剤徐放能の検討

③試作シーラント材の圧縮強度試験、操作性試験

講座テーマ紹介

●う蝕予防、歯周病予防、口臭予防に関する講座

小児から高齢者まで幅広い年齢層を対象としております。

看護師、介護士等口腔保健に関わる方々に向けた講座も可能です。

アピールポイントなど

開発途中の段階ですが、多方面での共同研究をしていただける企業様を探しております。



歯科衛生士と専門職連携実践の質に関する 新たな評価スケールの開発

健康開発学科 口腔保健科学専攻

戸田 花奈子 助教

【研究分野】 ライフサイエンス、口腔衛生学

【キーワード】 歯科衛生士、専門職連携実践、質評価、IPW、連携

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=325toda>



研究概要

2025年を目途に地域包括ケアシステムの構築が推進されるなか、歯科衛生士は医療・福祉分野との専門職連携実践のもと口腔健康管理を実践することが求められています。

乳幼児、2型糖尿病患者、要介護高齢者などを対象とした医科歯科連携研究の経験から、**歯科衛生士と他専門職との連携実践の「質」に関する研究**を行っています。

専門職間との連携実践の質を評価する新たなスケールを開発することにくわえ、チーム歯科医療の根幹である、歯科医師との連携については患者の満足度を調査し、臨床現場での応用を最終目標とした研究を行っています。

研究紹介

1. 口腔保健教育と口腔内状況の関連

1) 乳幼児の唾液中のう蝕原因菌量と生活環境との関連

戸田花奈子, 品田佳世子. 3歳児のう蝕罹患と口腔保健行動および生活習慣との関連 乳幼児期からの縦断調査. 口腔衛会誌 70(増刊) 107-107, 2020.

2) 2型糖尿病患者を対象とした口腔保健教育

Toda K, Mizutani K, Minami I, et.al. Effects of oral health instructions on glycemic control and oral health status of periodontitis patients with type 2 diabetes mellitus: A preliminary observation. JOURNAL OF DENTAL SCIENCES 14(2) 171-177, 2019.

2. 他専門職との連携実践の実態調査

1) 歯科衛生士の職種間連携実践の現状に関する調査

戸田花奈子, 鶴田潤. 歯科衛生士のInterprofessional work実践に関する文献調査. 日歯医療管理会誌 54(1) 67-73, 2019.

2) 居宅療養管理指導を行う歯科衛生士のインタビュー調査

戸田花奈子, 小原由紀, 松原ちあき 他. 居宅療養管理指導において歯科衛生士に求められる役割に関する質的検討. 日歯衛会誌 16(1) 108.

3. 他専門職との連携実践の「質」評価スケールの開発

「歯科衛生士と専門職間連携実践の質に関する新たな評価スケールの開発」(20K18821) 2020-2024

講座テーマ紹介

- ・母子保健、生活習慣病、要介護高齢者をはじめ、様々なライフステージにおける口腔保健に関連した講座(一般向けおよび専門職者向け)
- ・歯科衛生士の働き方に関連した講座



口腔保健教育 実践イメージ

アピールポイントなど

歯科衛生士のかかわる様々な知識を楽しく学べるよう、わかりやすい講義を心がけています。皆様のお口の健康の維持向上に役立てれば光栄です。



がん患者へのケア、リフレクション

研究開発センター・保健医療福祉学研究科

飯岡 由紀子 教授

【研究分野】 がん患者へのケア、がん看護、ウィメンズヘルスケア、リフレクション
 【キーワード】 がん医療、がん看護、ウィメンズヘルスケア、リフレクション、調整力
 【URL】 <https://www.iioaka-yukiko.com/> 飯岡由紀子看護学研究室ホームページ



研究概要

- ①がんは2人に1人が罹る病であり「がんと共に生きる」ことがテーマとなっています。がんの治療は、多様に発展しており、治療と生活を両立することが大切になります。がん患者や家族が、より良い生活をおくれるようサポートするケアに関する研究に取り組んでいます。
- ② 医療の現場は多忙を極めていますが、日々の看護には大切な実践的知識があります。経験を振り返るというリフレクションは、実践知の気づきを促し、自分の看護観を深め、今後の看護に役立つプロセスです。リフレクションを研修プログラムとして開発し、その効果を検証しています。
- ③医療は高度化、複雑が進み、チーム医療や多職種連携・協働が重要です。これら促進するには、専門職間をつなぐ調整力が非常に重要です。曖昧で流動的な活動である調整ですが、その能力向上を目指したプログラムを開発し、その効果を検証しています。

研究紹介

①【ホルモン治療をうけている乳がん患者が、治療と生活との両立を支援する研究】

乳がんのホルモン治療に生じやすい症状やストレス対処の状況を把握できるアプリを開発しました。利用された方からは、症状が緩和することや不安が和らぐことが検証されました。



②【看護師を対象としたリフレクションマッププログラム（RMP）】

リフレクションは、ファシリテーターの能力に依存しやすいのですが、このプログラムはリフレクションマップというツールを用いて、誰でも実施しやすく、集合研修も可能です。研究により、心理的ストレスが緩和したことと、レジリエンスが高まったことが立証されました。



③【看護師の調整力向上プログラム】

自己理解の促進、ファシリテーションスキル、交渉力トレーニングなどを含め、ワークをたくさん含めた体験型研修です。実践力向上を目指したプログラムになっています。プログラムの効果を検証する研究に取り組んでいます。

講座テーマ紹介

以下のようなテーマに関することで研修会や講習会の開催が可能です。

- ①・がん治療と生活の両立に関して（副作用対応、メンタルサポート、家族支援など）
 - ・療養生活の支援（終末期ケア、意思決定支援、症状緩和など）
- ②・リフレクションマッププログラム（RMP）
- ③・看護師の調整力向上プログラム

アピールポイントなど

- ①治療に関する講演は多く行われていますが、どのように生活するのか、気持ちをどのように保つのかも含めて、共に考えていきたいと思います。
- ②リフレクションマッププログラムの内容や時間などは臨機応変に対応します。これまでに医療機関にてたくさんプログラムを実施してきました。
- ③看護師の調整力向上プログラムの内容や時間などは臨機応変に対応します。



変形性膝関節症者の運動解析研究

研究開発センター

久保田 圭祐 特任助教

【研究分野】 理学療法、運動器

【キーワード】 膝OA、歩行、筋活動、バイオメカニクス、運動制御

【URL】 <https://researchmap.jp/kubotakeisuke>

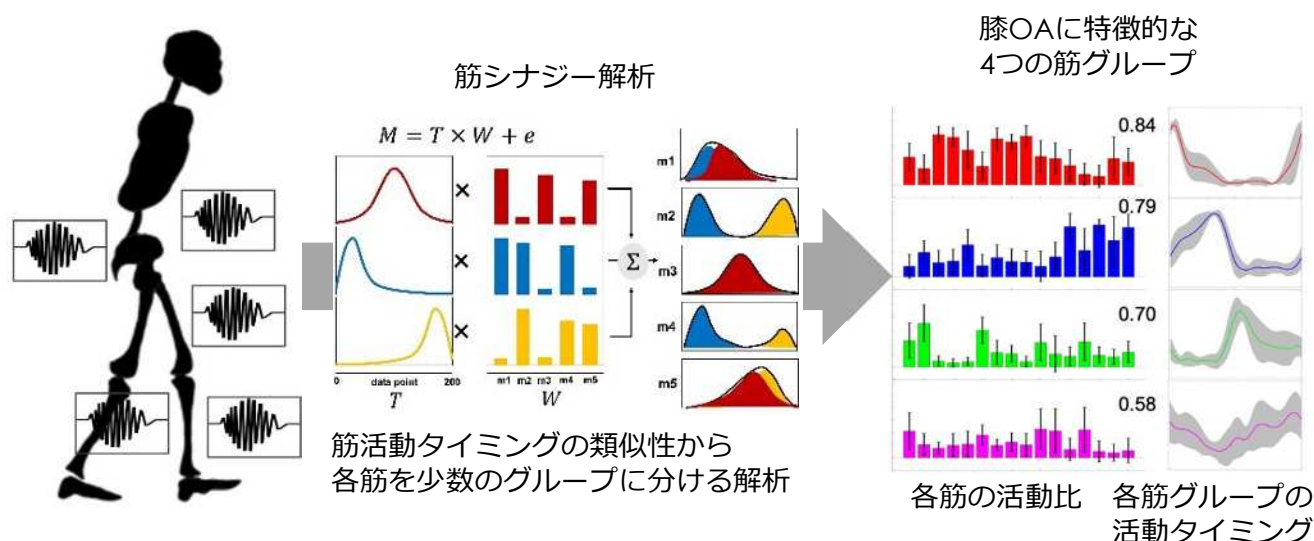


研究概要

多くの高齢者が膝に痛みを抱える変形性膝関節症(以下、膝OA)の予防・治療のためには、歩行中の特徴的な運動を正確に捉えることが重要です。動作解析装置や筋電計から得られた運動データに対して、様々なデータ解析手法を駆使して、膝OAに特徴的な歩行動作について研究を行っています。

研究紹介

■ 膝OAに特徴的な異常筋活動パターンの解明



講座テーマ紹介

変形性膝関節症者に対するセルフエクササイズの指導

アピールポイントなど

三次元動作解析装置、床反力計付きトレッドミル、筋電計など、様々な計測機器を駆使しながら研究を行っています。また、今後はウェアラブルな各種センサーを用いて、臨床現場で計測を行えるよう準備を進めています。このような基礎的な知見を臨床現場でも利用可能な情報として応用できることを目指しています。



リハビリテーション支援ロボットの開発

研究開発センター

久保田 圭祐 特任助教

【研究分野】 リハビリテーション工学
【キーワード】 脳卒中、ロボット、リハビリテーション
【URL】 <https://researchmap.jp/kubotakeisuke>



研究概要

高齢者や慢性期の疾患者にとって、住み慣れた地域で安心・安全に暮らせるように身体機能を維持・改善することは非常に重要です。

そこで、埼玉大学大学院理工学研究科の辻准教授と在宅や地域のコミュニティへの将来的な導入を目指し、自律かつ可搬型リハビリテーションロボットを開発し、その訓練効果を検証しています。

研究紹介

■ 卓上型上肢機能訓練支援ロボット

訓練者自身が手先から発揮した力をディスプレイ上にリアルタイムで表示し、その発揮力が提示した目標方向に一致した場合のみ駆動するロボットを開発しています。

脳卒中片麻痺者を対象とした効果検証実験において、臨床応用への可能性が示されました。

■ 椅子型下肢機能訓練支援ロボット

上肢のロボットと同様に、つま先をあげる力をディスプレイに表示し、目標とする赤い丸に近づけるよう力を調節する訓練を行うロボットを開発しています。

地域高齢者を対象に臨床研究を行った結果、歩行の一部機能が改善する結果が示されました。

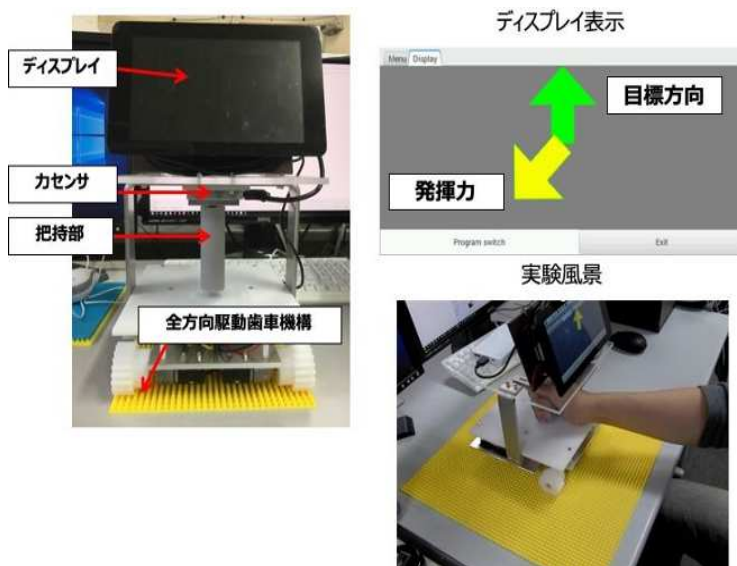
【共同研究のご提案】

将来的に臨床現場への利用を目指して、ロボットのブラッシュアップと臨床研究を進めています。

アピールポイントなど

リハビリテーションロボットは運動評価・訓練のみならず、その運動データを収集することができます。そして、これらは高齢者・疾患者の貴重なデータとして様々な場面で活用され、付加価値が生まれる可能性があります。研究のみにとどまらず、社会実装に向け、少しでも地域社会へ貢献できるよう、研究を行っています。

<卓上型上肢機能訓練支援ロボット>



<椅子型下肢機能訓練支援ロボット>





非婚・独居高齢者に関する包括的研究

研究開発センター

南 拓磨 特任助教

【研究分野】 人口統計学、家族社会学、介護福祉統計学
 【キーワード】 ライフコース、初婚、非婚、介護福祉統計、人口
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=305mina>



研究概要

少子高齢化の進展に伴う高齢者の増加と、昨今の未婚化・晩婚化の進展を連続的に捉え、未婚化・晩婚化の帰結として増加すると想定される非婚高齢者について、その質（特性）と量に関する研究を行っています。最近では、未婚の結果として増加するであろう独居高齢者について、その要介護状態の推移や利用介護サービスの特徴等に着眼した整理・分析を行っています。

研究紹介

1. 未婚化・晩婚化に関する研究
 - 婚前妊娠結婚と離婚に関する研究
 - 非婚（生涯未婚）者に関する研究
 - ライフコース上における初婚のタイミングが、その後のライフコースに与える長期的影響に関する研究
2. 独居高齢者及び介護サービス利用者に関する研究
 - 独居高齢者における認知症者の発生率及びその特性に関する研究
 - 要介護度重度化と、認定調査項目ごとの重度化の関係に関する研究
 - 在宅独居認知症高齢者のケアの場の推移に関する研究
3. 特定健診データを使用した受診勧奨・特定保健指導の効果検証に関する研究
 - 受診勧奨が健診データ各項目に与える影響に関する研究
 - 特定保健指導が健診データ各項目に与える影響に関する研究

講座テーマ紹介

- 要介護認定データ・基本チェックリスト等介護に関するデータ利用に関する講座
 - 人口データ・アンケートデータ等のデータ利用に関する講座
 - 基本的な統計手法の考え方に関する講座
- （新たにデータを取得することはもちろん、現時点でお手元にある既存データの活用方法等に関する提言・解説等を紹介いたします。）

アピールポイントなど

研究開発センターでの受託研究として、自治体における介護保険事業計画等の策定に際して利用できるデータ分析や資料作成等も行っております。



地域包括ケアの推進／介護人材の確保・定着

地域連携センター

吉田 俊之 教授

【研究分野】ヘルスケアポリシー・マネジメント、地域包括ケア
 【キーワード】リエイブルメント、介護保険事業（支援）計画、介護分野の生産性向上
 【URL】<https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=339yoshi>



研究概要

・高齢者の主体的な健康行動をリハビリ専門職等が支援するリエイブルメント・プログラムの効果検証や経済評価を研究しています。リエイブルメントの考え方では、高齢者は自分自身のケアに積極的に参加し健康とウェルビーイングを高めようと行動します。

・介護分野における生産性向上をテーマにしています。具体的には、業務の改善活動の実践や介護ロボット・ICTの活用を通じて間接業務を効率化しケアの質を高める好循環を安定的に運用するプロセスのマネジメントを扱います。

講座テーマ紹介

- 地域包括ケアの推進 → 自治体向け、介護サービス事業者向け
 - ・データ分析を含む地域課題の分析等を通じた地域ケアマネジメントの支援
 - ・リエイブルメント・プログラムを活用した通所C型（短期集中）事業の実装支援
- 介護人材の確保・定着 → 主に、介護サービス事業所・施設向け
 - ・介護分野における生産性向上に関するセミナー
 - ・業務の改善活動の実践的な導入セミナー・ワーク／伴走支援
 - ・介護ロボット・ICTの実践的な導入セミナー・ワーク／伴走支援

アピールポイントなど

- 社会貢献等
 - ・日本生活支援工学会 理事
 - ・医療経済研究機構・社会保険福祉協会 国際長寿センター 客員研究員
- 分担執筆
 - ・標準理学療法学（第5版）地域理学療法学（医学書院）
 - ・地域包括ケアシステムにおけるPT・OTの役割（文光堂）
- 寄稿・ディスカッションペーパー・レポート
 - ・介護予防・日常生活支援総合事業を通じた予防理学療法の効果評価（医療経済研究機構）
 - ・予防医療及び介護予防に関連する経済理論モデルレビュー（成城・経済研究、共著）
 - ・介護分野における持続的な生産性向上に取り組むためには（地域ケアリング）
 - ・高齢者支援組織のマネジメント（海外の高齢者介護・地域支援情報、共著）
- セミナー講師等
 - ・エビデンスに基づいた行政とのコミュニケーションについて（日本理学療法士協会）
 - ・介護分野における生産性向上に関する研修会（厚生労働省、東京都、他）
 - ・人生100年時代と理学療法士の可能性について（自民党厚生労働部会小委員会）
- その他

介護保険事業計画等の策定支援や介護保険制度等に関する全国規模の調査に従事した経験を生かし、国等の政策方針と実務的な進め方を踏まえた対話やご提案を心がけています。



多職種連携（IPE/IPW）・大学間連携教育 彩の国“連携力”育成プロジェクト（SAIPE）

理学療法学科 看護学科 社会福祉子ども学科 健康開発学科
田口孝行 教授、 國澤尚子 教授、 鳶末憲子 准教授、 久保田亮 准教授

【研究分野】 多職種連携における連携力育成に関する事業・研究
【キーワード】 多職種連携教育、連携力、大学間連携教育
【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/ipe/tabid332.html>



研究概要

地域住民の“生活の質”、“医療・ケアの質”を高めるための「地域包括ケアシステム」、「地域共生社会」等で必須とされる**多職種連携（IPW）**。IPWでは、各専門職の“**連携力**”育成が必要です。

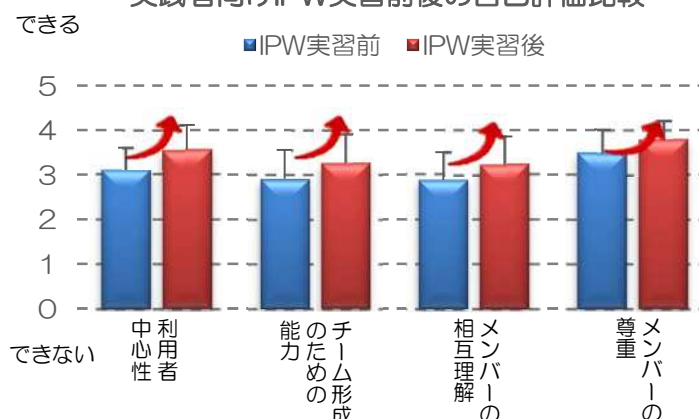
- 専門職養成校教育における**専門職連携教育（IPE）**プログラムの導入
- 各専門職能団体における**生涯学習**としてのIPE/IPW研修会の積極的開催
- 地域、施設間、施設内における**ケアの質向上**のための実践的IPW研修会の開催

研究紹介

● 多職種連携実践における連携力育成に関する研究

- 1) 専門職養成校における多職種連携力育成プログラムの発展・効果検証
- 2) 実践者（施設、自治体、地域等）における多職種連携研修プログラムの発展・効果検証
- 3) 連携力育成教育におけるより良いファシリテーション方法の検討 など

実践者向けIPW実習前後の自己評価比較



講座テーマ紹介

本プロジェクトでは、埼玉県立大学以外に埼玉医科大学、城西大学、日本工業大学と連携して、次のような支援、研修会（講習会）開催が可能です。

- 1) 専門職養成校の“連携力”を育成する授業プログラム構築・実施支援
- 2) 専門職能団体の生涯学習としての“連携力”を育成する研修会開催
- 3) 自治体、地域、施設、各種協議会等における“連携力”を育成する研修会（講習会）開催
- 4) 連携力を育成するための専門職養成校間（大学間・専門学校間）の連携支援

アピールポイントなど

彩の国連携力育成プロジェクト（通称 SAIPE:サイピー）は、**埼玉県立大学**を代表校として、**埼玉医科大学、城西大学、日本工業大学**および**埼玉県**が協働して平成24年から5年間の「文科省の大学間連携教育事業助成」を基にして、学部教育における「**連携力育成教育プログラム（IPEプログラム）**」の開発と実践し、その後も発展を目指して継続しているプロジェクトです。また、学生教育を基にして“**実践者向けIPEプログラム**”も構築・発展させました。

是非、専門職養成校（大学、専門学校）、各専門の職能団体、自治体、地域、施設、各協議会等において、本プロジェクトを活用していただければと思います。

INDEX キーワード検索

3	3Dプリンタ	77	う	運動協調性	59	か	看護チーム	22
A	ACP	43		運動制御	59,128		幹細胞	113
	AI	95,116		運動動作分析	59		患者状態適応型バス	28
	AMR	117		運動麻痺	70,71		肝障害モデル	55
	AMR対策アクションプラン	114		運動療法	83		関節障害	72
C	COPDモデル	55	え	栄養	108		がん	83
D	Deep learning	116		栄養管理	50		がん医療	127
	DX	95		栄養と身体機能	62		がん看護	127
E	EFL読解	1		演奏	100		がん検診	104
F	Family-Centered Care;F	31	お	欧州	85		がん対策	104
	Fascia	54		黄色ブドウ球菌保菌調査	114		がん登録	104
	F-SOAIIP	93,94,95		横断的課題解決	94	き	義手	78
I	ICPC	3		オーラルヘルスプロモーション	120		キネマティクス	70
	IoT	16		親子体操	44		虐待予防	26
M	M-GTA	95		音楽鑑賞	100		休息	123
	MRSA	114		温熱生理	112		教育	75
O	One health approach	117	か	カーボン	66		教育掛図	101
P	PDCAサイクル	93		介護	85		教員の離職予防	2
あ	足のケア	123		介護支援	36		競技スポーツ	15
	アジール	92		介護者	25		教材	13
	アセスメント	43		介護者支援	39		教材研究	102
	アドバンス・ケア・プランニング	24		介護福祉統計	130		協創型イノベーション	94
	アプリケーション	122		介護分野の生産性向上	131		協働	18,105
	アライメント評価	65		介護保険事業（支援）計画	131		行政	85
	アルツハイマー病	7		介護保険利用者	69		筋活動	128
	アントレプレナーシップ	73		外国人労働者	85		筋電位	72
い	医学用語	1		外的負荷	15	く	車椅子シーティング	30
	イギリス	85		外反母趾	65	け	ケア	92
	イギリス・ルネサンス文学	14		回復	42,92		ケアモデルの開発	40
	育児肯定感	44		解剖学	13		ケアを担う子ども	2
	育児支援	21		外来看護	39		血管	115
	意思決定支援	24,52,90		学習者要因	1		健康教育	24,29
	依存 & 嗜癖	4		家族	25,86		健康経営	110
	遺伝子変異	113		家族介護者	69		健康行動	17,41
	イノベーション	95		家族支援	26		健康食品	5,10
	衣服	76		片麻痺	76		健康増進	60
	医薬品	5,10		活動	68		健康づくり	17,23,57,63
	医薬品 & 健康食品等	4		過眠症	46		現象的意識	12
	医療	85		通いの場	35		減衰粘性時間	66
	医療化	111		加齢	56	こ	語彙学習	1
	インクルーシブケア	22		環境化学物質	10		効果検証	109
	隕石	11		看護基礎教育	37		口腔保健行動	123
う	ウィメンズヘルス	64		看護教育	20		口臭予防	125
	ウィメンズヘルスケア	127		看護技術	37		交通事犯の撲滅	109
	う蝕予防	125		看護技術（褥瘡・ストーマケア）	38		行動記録	63
	宇宙探査	11		看護技術教育	20		行動変容	44,63
	運動	64,123		看護支援モデル	39		更年期	112
	運動学習	80		看護師教育	50		合理的配慮	87
	運動器	56		看護師のキャリア	27		高齢者	22,43,50
	運動機能評価	70		看護情報	28		高齢者虐待	39

INDEX キーワード検索

こ	コーピング	6	し	自治体	94	し	植物化学物質	113
	国際歯科	120		質評価	126		初婚	130
	心の健康	41		児童虐待	86		書字	80
	子育て支援	51		死別	109		女性	112
	子育て不安	98		自閉スペクトラム症	84		女性性	33
	骨盤	64		シミュレーション	75		女性表象	14
	言葉	102		シミュレーション教育	44,49		自立高齢者	105,106
	孤独&孤立	4		市民中心のケア	23		自立支援	67,77
	子どもの権利擁護	48		市民と専門職とのパートナーシップ	23		自立促進	76
	コミュニケーション	36,79		シャイネス	98		神経再生	124
	コミュニケーション支援用具	81		社会参加	67,97		神経難病	81
	コミュニティ	103		社会生活スキルトレーニング	79		信仰	109
	コンサルテーション	8		社会的ケア関連QOL	69		人口	130
	コンディショニング	15		社会的養護	86		人工妊娠中絶	47
さ	サーバントリーダー	52		尺度	53		新採用者	38
	座位行動	63		若年成人期	34		人材能力の可視化	45
	在宅ケア	25		周産期	31		腎障害	118
	在宅療養	38		重症心身障害	84		腎障害モデル	55
	再適応	33		重症心身障害児	99		新人看護師教育プログラム	27
	最適性	59		重層の支援	94		新生児看護	31
	細胞診検査	119		集団戦略型健康づくり	105,106		心臓	115
	細胞表面解析	119		就労支援	67		身体活動	105,106
	在留外国人支援	49		授業	73		身体活動量	83
	作業療法	73,82		手根管症候群	72		腎尿路系がん	116
	サロン	89,90		出産	19		心肺系トレーニング	62
	産業保健	26,110		趣味	100		心不全モデル	55
	産後	64		受療行動	111		診療ガイドライン	28
し	シェイクスピア劇	14		巡回相談	8		心理療法	83
	支援機器	62		巡礼	9	す	睡眠	68,106,112
	ジェンダー	14		障がい	96		睡眠障害	46
	歯科医学	121		障害	88		ストレス	6
	歯科衛生教育	122		障害学生支援	82		素話	102
	歯科衛生教育学	121		障害児保育	74		スピリチュアルケア	52
	歯科衛生士	126		障害者	76	せ	生活支援記録法	93
	歯科保健行動	120		障害者権利条約	96		生活習慣病	10
	時間認知	112		障害者雇用	87		性教育	19
	事業主支援	87		上肢運動機能練習	71		政策	85
	事業主の態度	87		上肢切断	78		成人移行支援	34
	シグナル伝達	113		小児	51		精神科	45,73
	嗜好	4		小児看護	48		精神科訪問看護	26
	歯硬組織形成	124		小児がんをもつ親	40		精神看護学	45
	自己覚知	100		小児作業療法	74,84		精神障害者雇用	87
	自己管理	43		小児保健	48		精神障がい者支援	26
	歯周病予防	125		小児慢性疾患	34		聖地	9
	思春期	34		情報提供	78		成長	21
	自助具	77,82		食育	108		成年後見	90
	姿勢	64		食支援	50		性別違和	32
	姿勢調節	59		食事調査	108		セクシュアル/リプロダクティブ・ヘルス	19
	自尊感情	98		褥瘡ケア	28		セクシュアル・マイノリティ	32
	肢体不自由	84		職能団体支援	93		世代間交流	89

INDEX キーワード検索

せ	説明モデル	111	て	転倒予防と検知	62	ひ	貧困	85
	セルフケア	43,51		伝統的慣習	19	ふ	ファシアハイドロリリース	54
	セルフケア教育	29	と	トイレ動作の自立	18		ファシアモデル開発	54
	セルフメディケーション	5		当事者	73,88		福祉機器	82
	セルロースアセテート膜電気泳	118		糖尿病	43		福祉用具	77
	染色法	119		糖尿病モデル	55		婦人科がん	33
	専門職支援	93		動作	64		負担軽減	18
	専門職連携	22		動作分析	30		不定愁訴 (MUS)	111
	専門職連携教育	53		動脈硬化	112		不眠症	112
	専門職連携実践	126		特別支援教育・保育	99		プライマリケア	3
そ	ソーシャルワーク	97		独居	43		フレイル	35
	足底挿板	65,66		トレーニング	15		フレイル/サルコペニア	7
	足部アーチ	66	な	内的負荷	15		フレイル予防	57,58
	組織発生	115		ナノ多孔質シリカ	125		文化資源	9
た	体温 (放熱)	112		ナルコレプシー	46	へ	ペーパークラフト	13
	大学間連携教育	58,132	に	日常動作	59		ヘルスクエア (心身・口腔)	6
	大腸がん検診	116		入院治療	42		ヘルスコミュニケーション	16
	多職種連携	49		乳幼児	21		ヘルスプロモーション	17,35
	多職種連携教育 (IPE)	53,58,132		尿蛋白	118		ヘルスリテラシー	17
	多職種連携実践 (IPW)	58,93,126		人間関係	102		変形性膝関節症 (膝OA)	61,128
	立ち直り	92		妊娠	19,64	ほ	保育	103
	タブレット端末	122		認知症	7		保育者養成	102,103
	多様性	97	ね	寝たきり患者	30		保育内容	102
	多領域汎用型システム	95	の	脳卒中	7,70,71,76,129		保育リーダーシップ	98
ち	地域医療	3		脳電位	71		訪問看護	25
	地域在住高齢者	123		脳波	112		訪問看護師養成	38
	地域支援	77	は	パーキンソン病	7		訪問看護ステーション	27
	地域生活	96		パートランド・ラッセル	12		保健師教育	41
	地域づくり	21,57		バイオメカニクス	128		歩行	128
	地域福祉	91		排泄動作	76		ボランティア	89,91,97
	地域包括ケアシステム	89,90		博物画	101	ま	慢性疾患	51
	地域保健	104		働き方改革	110		慢性の病い	43
	地域リハビリテーション	67		バターナリズム	92		慢性病看護	46
	地域連携	103		白血病	113	み	ミクロ・メゾ・マクロ	94
	中枢・末梢神経の神経可塑性	56		発達	21		民俗	9
	聴覚伝導路	13		発達障がい	48	め	メタ認知の発達	98
	調整力	127		発達障害	8,79,84,99		メタバース	6
	治療効果	65		バネ定数	66		メンタルヘルス	32,45
つ	通級による指導	74		はやぶさ2	11	も	模擬産婦	44
	通所介護	67		バランス	60	や	薬害を含む有害事象	5
	ツーリズム	9		ハンドマッサージ	36		薬剤徐放	125
て	低強度身体活動	63	ひ	ピアサポート	33	よ	要介護高齢者	42
	定量化	15		被害者法制	109		養護教諭養成	2
	データヘルス	110		非婚	130		幼児造形教育史	101
	適正使用	5		膝の痛み	61		腰部側弯症	65
	デジタルデバイドの縮小	89		美術教材史	101		予兆	39
	手指	70		ビッグデータ	16		予防	39,60
	手指運動	72		標準化死亡比	107	ら	ライフコース	130
	てんかん	88		標準看護用語	28	り	リアルワールドデータ	95
	電子顕微鏡	119		標本画	101		リエイブルメント	131

INDEX キーワード検索

り	利他的価値	52
	リハビリテーション	77,81,129
	リフレクション	93,127
	リプロダクティブヘルス&ライツ	47
	リラクセーション	36
	臨床疫学	3
	臨床判断能力育成教育	29
れ	歴史遺産	9
	レジリエンス	6,40
	連携	18,74,126
	連携力	132
ろ	労働生産性	110
	ロコモ・フレイル	16
	ロボット	75,129
	ロボティクスリハビリテーション	75

INDEX 研究者検索

あ	會田 みゆき	看護学科	29	く	國澤 尚子	看護学科	18,132
	青森 広美	看護学科	30		久保田 章仁	理学療法学科	63
	浅井 宏美	看護学科	31		久保田 圭祐	研究開発センター	128,129
	浅川 泰宏	共通教育科	9		久保田 富夫	作業療法学科	68
	新井 恵	口腔保健科学専攻	122		久保田 亮	検査技術科学専攻	118,132
	有竹 清夏	検査技術科学専攻	112	こ	小池 祐士	作業療法学科	75,76,77
	安藤 克己	検査技術科学専攻	115		小泉 浩平	作業療法学科	83
い	飯岡 由紀子	研究開発センター	127		小松 睦美	共通教育科	11
	飯島 博之	共通教育科	1		金 さやか	看護学科	46
	石崎 順子	看護学科	17	さ	齋藤 恵子	看護学科	19
	伊藤 知子	福祉子ども学専攻	100		齋藤 未希	看護学科	47
	伊藤 善典	社会福祉学専攻	85		相良 翔	社会福祉学専攻	92
	井上 和久	理学療法学科	60		櫻井 育穂	看護学科	34
	井原 寛子	検査技術科学専攻	113		笹尾 久美子	作業療法学科	78
	今北 英高	理学療法学科	54,55		佐藤 玲子	口腔保健科学専攻	123
う	植野 正之	口腔保健科学専攻	120	し	柴田 亜希	看護学科	35
	上原 栄一郎	作業療法学科	73		柴田 貴美子	作業療法学科	79
	上原 美子	共通教育科	2		渋谷 えり子	看護学科	36
	臼倉 京子	作業療法学科	67		鳶末 憲子	社会福祉学専攻	93,94,95,132
	内山 真理	健康行動科学専攻	108		清水 新悟	理学療法学科	65,66
	浦丸 直人	共通教育科	10		白岩 祐子	健康行動科学専攻	109
え	江口 のぞみ	看護学科	32		新村 洋未	看護学科	37
	江良 裕子	口腔保健科学専攻	125	す	鈴木 貴子	作業療法学科	80
お	大木 いずみ	健康行動科学専攻	104		鈴木 玲子	看護学科	20
	大塚 斉	社会福祉学専攻	86		須永 康代	理学療法学科	64
	大場 良子	看護学科	33	せ	関 美雪	看護学科	21
	岡田 茂治	検査技術科学専攻	116		善生 まり子	看護学科	22
	小栢 進也	理学療法学科	61	た	高島 恭子	社会福祉学専攻	96
	小川 孔美	社会福祉学専攻	89,90		高橋 恵子	看護学科	23
	小川 千恵子	看護学科	45		高村 夏輝	共通教育科	12
	小澤 昭彦	社会福祉学専攻	87		高柳 雅朗	共通教育科	13
	押野 修司	作業療法学科	74		瀧田 浩平	看護学科	48
	越智 幸一	福祉子ども学専攻	98		田口 賢太郎	福祉子ども学専攻	103
か	金村 尚彦	理学療法学科	56		田口 孝行	理学療法学科	57,58,132
	川田 虎男	社会福祉学専攻	91		竹島 太郎	共通教育科	3
	河村 ちひろ	社会福祉学専攻	88		武田 美津代	看護学科	38
き	岸井 こずゑ	検査技術科学専攻	117		田坂 翔太	作業療法学科	84
	北畠 義典	健康行動科学専攻	105,106		田中 健一	共通教育科	4,5,6
	木戸 聡史	理学療法学科	62		檀浦 麻衣	共通教育科	14

INDEX 研究者検索

ち	千葉 真希子	看護学科	49
つ	辻 玲子	看護学科	39
	辻本 健	看護学科	40
	津野 陽子	健康行動科学専攻	110
と	常盤 文枝	看護学科	24
	戸田 花奈子	口腔保健科学専攻	126
な	中村 裕美	作業療法学科	69
	南雲 浩隆	作業療法学科	81
	滑川 道人	共通教育科	7
の	延原 弘章	健康行動科学専攻	107
は	服部 真理子	看護学科	41
	濱口 豊太	作業療法学科	70,71,72
	林 恵津子	福祉子ども学専攻	99
	林 裕栄	看護学科	25
ほ	保科 寧子	社会福祉学専攻	97
	本間 三恵子	健康行動科学専攻	111
ま	牧野 由理	福祉子ども学専攻	101
	松尾 彰久	作業療法学科	82
	丸山 優	看護学科	42
み	南 拓磨	研究開発センター	130
	宮部 明美	看護学科	50
む	村井 美代	検査技術科学専攻	114
も	望月 浩江	看護学科	51
	森 正樹	共通教育科	8
	森田 牧子	看護学科	26
	森田 満理子	福祉子ども学専攻	102
や	八十島 崇	共通教育科	15
	柳澤 伸彰	口腔保健科学専攻	124
	矢野 哲也	検査技術科学専攻	119
	山岸 直子	看護学科	43
	山崎 弘嗣	理学療法学科	59
	山田 恵子	共通教育科	16
	山田 牧子	看護学科	52
	山本 英子	看護学科	44
よ	吉田 隆	口腔保健科学専攻	121
	吉田 俊之	地域連携センター	131
	吉村 基宜	看護学科	53
わ	渡邊 千登世	看護学科	27,28

*2025年4月より 健康開発学科

健康行動科学専攻は、**健康情報学専攻**に
名称変更になります。

ご 案 内

研究・地域活動シーズは、本学の研究成果や研究者が持つ知識や技術を掲載しています。産業界・行政機関・大学等、地域の皆様と一緒に活用していくことを目的にしておりますので、是非、ご覧ください。

◆研究・地域活動シーズ紹介 WEBサイト
<https://www.spu.ac.jp/research/tabid377.html>



何か気になる研究・事柄や、ご相談・お問合せ事項等ございましたら、お気軽に以下の窓口までご連絡ください。お待ちしております。

(1) 共同研究・受託研究等に関するお問合せ・ご相談

研究開発センター Research_c@spu.ac.jp
 048-973-4383

(2) 委員、講師・講座依頼、その他研究以外に関するお問合せ・ご相談

地域連携センター edec@spu.ac.jp
 048-973-4114

下記のような事柄がありましたらご連絡ください。

〇〇するための助
言が欲しい

〇〇した製品の検
証、データ分析し
て欲しい

〇〇開発の共同研
究をして欲しい

〇〇先生に相談
したい

講師・講演をし
て欲しい

等、その他。





SAITAMA PREFECTURAL UNIVERSITY

編集・発行

埼玉県立大学 地域連携センター

<https://www.spu.ac.jp/>

〒343-8540

埼玉県越谷市三野宮820

Email edec@spu.ac.jp

TEL 048-973-4114

FAX 048-973-4807



2024年11月発行